愛知県立芸術大学

大　学　案　内

2015-2016

愛知県立芸術大学
大学案内2015

目次
Contents

学長からのメッセージ……001

大学概要……002
- 歴史と沿革……004
- 大学組織……005
- 教育組織……006
- 施設・建物……008
- 学外施設・学生数……010
- 国際交流……011

美術学部……012
- 日本画専攻……014
- 油画専攻……018
- 彫刻専攻……022
- 芸術学専攻……026
- デザイン専攻……030
- 陶磁専攻……034

音楽学部……038
- 作曲専攻 作曲コース……040
- 作曲専攻 音楽学コース……044
- 声楽専攻……048
- 器楽専攻 ピアノコース……052
- 器楽専攻 弦楽器コース……056
- 器楽専攻 管打楽器コース……060

美術研究科・音楽研究科……064
- 美術研究科 博士前期課程……066
- 美術研究科 博士後期課程……067
- 音楽研究科 博士前期課程……068
- 音楽研究科 博士後期課程……069

各種情報……070
- 教養教育……072
- 教職課程・博物館学課程……074
- センター・事業……075
- 入試情報……076
- 入試状況・資料請求……077
- 学生生活……078

English Edition……079

学長からのメッセージ

Message from the President

愛知県立芸術大学は、愛知県を中心とする中部地方の産業経済が著しい躍進を遂げているのに対応して、東西の中間に特色ある文化圏を築き、地方文化の向上発展に寄与する目的で、1966年に開学しました。本学が、名古屋市郊外の長久手の丘陵という人家の見えない自然の中に建てられたことからは、芸術の孤高とその教育における純粋性を理想としたことがうかがえ、“芸術家集団”が活動を行うにふさわしい拠点となりました。

芸術は「個」を基本としており、芸術に対する崇敬はまた、個に対する尊敬でもあります。本学では開学以来、個人指導を含む“少人数教育”を教育の基本としています。学生数は美術学部と音楽学部を合わせても1,000人に満たないのに対し、教員数は専任教員が80余名、さらに多数の非常勤講師が在籍しています。このような環境の中で、学生ひとりひとりの個性を生かし、高度な芸術性を目指す教育が実現しています。

長年にわたり取り組んでいる国際交流事業では、「国際的に開かれた芸術文化の核となる」という大学の理念に基づき、海外の芸術大学と交流協定を結んだり、アーティスト・イン・レジデンス事業において積極的に海外のアーティストを招致したりしています。近年では、海外協定校への派遣留学事業も開始しました。

このような環境によって、本学では芸術家、研究者、教育者など芸術文化にたずさわる多くの優れた人材を輩出してきました。その活躍は国内に限らず、海外に拠点を置き、国際的に活躍する学生も大勢います。

また、本学は地域や社会に向けても積極的に活動を行っています。毎年12月に行われるオペラ公演は、美術学部と音楽学部を併せ持つ芸術大学の特質を生かしている代表的なものの１つです。本学のオペラ公演は、美術学部が創り上げる舞台に、音楽学部の学生が参加するもので、音楽的にも視覚的にも本学の魅力を存分に楽しむことのできる舞台として年々充実しております。

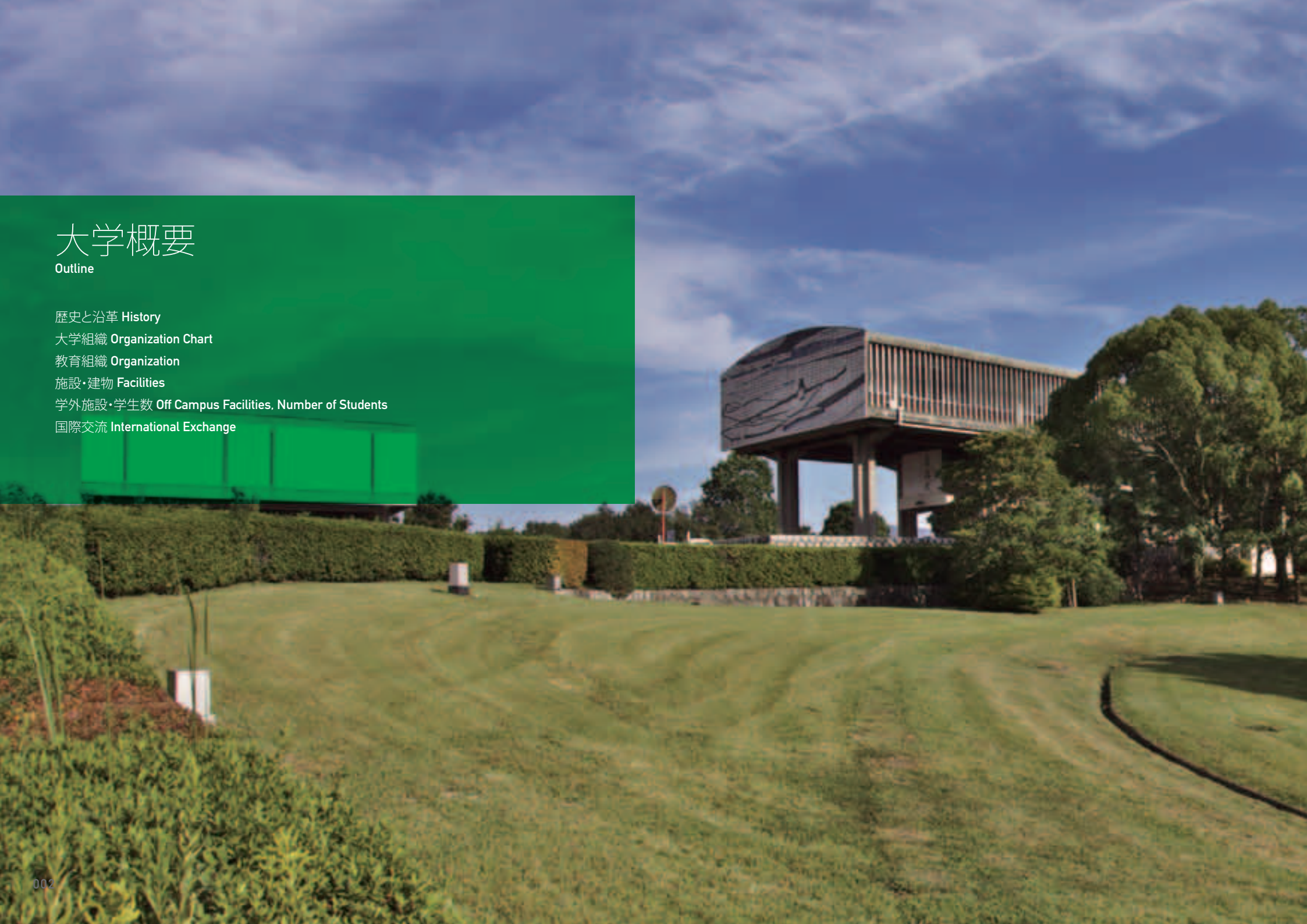
長年にわたり、地元の地域や社会を中心に、芸術文化の発展に尽力してきた本学は、2016年に創立50周年を迎えます。これまで、創造と保存、この両輪が備わる理想的な大学を目指し、様々な取組みに挑戦してきた我々ですが、その集大成として、創立50周年記念事業「直指天　芸術は森からはじまる」を計画いたしました。５月の記念式典に始まり、９月にはオペラ公演や美術学部の記念展示等、様々なイベントを実施します。

今年度は、更なる教育研究環境の充実のため、施設の耐震化工事を行います。創学時の建築の理想に、新たな価値を加えながら、これからの大学の永い歴史をつくる一歩を踏み出すべく、これからも個性ある大学づくりを進めてまいります。

愛知県立芸術大学　学長
松村公嗣

大学概要
Outline

歴史と沿革 History
大学組織 Organization Chart
教育組織 Organization
施設・建物 Facilities
学外施設・学生数 Off Campus Facilities, Number of Students
国際交流 International Exchange



愛知県立芸術大学の理念
University Philosophy

愛知県立芸術大学は、個性的で魅力ある大学として、また愛知が生んだ芸術文化の拠点として国際的に開かれた芸術文化の核となることを目指し、次の三つの理念をかかげます。

■学部から大学院までの一貫した教育研究体制をとることにより、芸術家、研究者、教育者など芸術文化にたずさわる優れた人材の育成を目指します。
■広い視野を持った高度な芸術教育を通して、国際的な芸術文化の創造の核となることを目指します。
■教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、芸術文化の発展に貢献することを目指します。

その理念と目的に適う人材の育成のために、それぞれの専門分野にふさわしい資質をもつ次のような学生を求めています。
■芸術を創作・研究する強い意志と感性を持ち、実技の基礎能力がある人。
■美術界、音楽界、芸術教育界を将来担うべく意欲旺盛な人。
■広い視野と多様な価値観を持ち、自ら積極的に学ぶことのできる人。

歴史と沿革
History

本学は、愛知県を中心とする中部地方の産業経済が著しい躍進を遂げているのに対応して、東西の中間に特色ある文化圏を築き、地方文化の向上発展に寄与することを目的に昭和41年4月1日に開学しました。

さらに、芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与することを目的に昭和45年4月1日大学院修士課程を開設、平成21年4月1日には大学院博士後期課程を開設しました。

S41.4.1	愛知県立芸術大学開設
	美術学部美術科絵画専攻、彫刻専攻、デザイン専攻、音楽学部音楽科作曲専攻、声楽専攻、器楽専攻ピアノコース、弦楽器コースを設置
	上野直昭初代学長に就任
S45.4.1	大学院（修士課程）開設
	美術研究科絵画専攻、彫刻専攻、デザイン専攻、音楽研究科作曲専攻、声楽専攻、器楽専攻ピアノコース、弦楽器コースを設置
S47.6.4	小塚新一郎第二代学長に就任
S52.9.6	小塚新一郎死去に伴い大下正明学長職務代理に就任
S52.12.1	豊岡益人第三代学長に就任
S58.12.1	河野孝第四代学長に就任
S60.10.15	南京芸術学院と学術交流協定調印
H1.4.1	美術学部デザイン・工芸科の学科増設、デザイン専攻美術科から移行、陶磁専攻を設置
	美術学部美術科絵画専攻を日本画専攻、油画専攻に改組
	音楽学部音楽科器楽専攻に管打楽器コースを設置
H1.9.12	法隆寺金堂壁画模写展示館開館
H1.12.1	建畠嘉門第五代学長に就任
H5.4.1	大学院美術研究科絵画専攻を日本画専攻、油画専攻に改組、陶磁専攻を設置
H6.4.1	音楽学部音楽科作曲専攻に音楽学コースを設置
	大学院音楽研究科作曲専攻に音楽学コースを、器楽専攻に管打楽器コースを設置
H7.12.1	川上實第六代学長に就任
H13.4.1	美術学部美術科に芸術学専攻を設置
	島田章三第七代学長に就任
H19.4.1	「愛知県」から「愛知県公立大学法人」に設置者変更
	大学院美術研究科の5専攻、音楽研究科の3専攻を廃止、それぞれ美術専攻、音楽専攻を設置
	磯見輝夫第八代学長に就任
H21.4.1	大学院（博士後期課程）開設
	美術研究科美術専攻博士後期課程、音楽研究科音楽専攻博士後期課程を設置
H25.4.1	松村公嗣第九代学長に就任

大学組織
Organization Chart

- 愛知県立芸術大学
  - 美術学部
    - 美術科
      - 日本画専攻
      - 油画専攻
      - 彫刻専攻
      - 芸術学専攻
    - デザイン・工芸科
      - デザイン専攻
      - 陶磁専攻
  - 大学院美術研究科
    - 博士前期課程
      - 美術専攻
    - 博士後期課程
      - 美術専攻
  - 音楽学部
    - 音楽科
      - 作曲専攻
        - 作曲コース
        - 音楽学コース
      - 声楽専攻
      - 器楽専攻
        - ピアノコース
        - 弦楽器コース
        - 管打楽器コース
  - 大学院音楽研究科
    - 博士前期課程
      - 音楽専攻
    - 博士後期課程
      - 音楽専攻
  - 芸術教育・学生支援センター
  - 芸術創造センター
  - 芸術情報センター
    - 図書館
  - 芸術資料館
  - 文化財保存修復研究所
  - 芸大事務部門
    - 芸大総務課
    - 入試・広報課
    - 学務部
      - 学務課
      - 芸術情報課

教育組織
Organization

学部
Faculty

本学は、美術学部と音楽学部を備えた芸術大学です。美術学部には日本画、油画、彫刻及び芸術学の4専攻からなる美術科と、デザイン及び陶磁の2専攻からなるデザイン・工芸科の2学科を設置しています。音楽学部には作曲、声楽及び器楽の3専攻からなる音楽科を設置しています。

美術学部					
美術科				デザイン・工芸科	
日本画専攻 入学定員:10名 日本画 保存修復 模写 など	油画専攻 入学定員:25名 絵画 版画 現代美術 インスタレーション 映像表現 など	彫刻専攻 入学定員:10名 具象 空間 環境 複合 立体 など	芸術学専攻 入学定員:5名 日本美術史 西洋美術史 現代アート論 美学・芸術哲学 文化財学	デザイン専攻 入学定員:35名 視覚伝達 プロダクト 環境 メディア	陶磁専攻 入学定員:10名 陶芸 陶磁器デザイン
教養教育等					

音楽学部					
音楽科					
作曲専攻		声楽専攻	器楽専攻		
作曲コース 入学定員:8名 創作 編曲 コンピューター音楽	音楽学コース 入学定員:2名 西洋音楽 日本音楽 ワールド・ミュージック	入学定員:30名 歌曲 オペラ 宗教曲	ピアノコース 入学定員:25名 ピアノ オルガン チェンバロ フォルテピアノ	弦楽器コース 入学定員:15名 ヴァイオリン ヴィオラ チェロ コントラバス ハープ	管打楽器コース 入学定員:20名 フルート／オーボエ／ クラリネット／ バスーン(ファゴット)／ サクソフォーン／ホルン／ トランペット／トロンボーン／ バストロンボーン／ ユーフォニアム／テューバ／ マリンバ／打楽器
教養教育等					

大学院
Graduate School

大学院研究科は、時代のニーズや教育・研究の高度化に合致させるために、芸術の学際的研究に対応できるシステムを導入しています。従来の研究領域の更なる高度化を図るとともに、複合領域での研究体制の強化と実践、大学に望まれる地域貢献、社会貢献などを目的とするプロジェクトを設定し、本専攻での学修成果と実践的実務との融合を目指します。

美術研究科 博士前期課程

美術専攻
入学定員：40名

日本画領域	油画・版画領域	彫刻領域	芸術学領域	デザイン領域	陶磁領域
日本画 保存修復 模写 など	絵画 版画 現代美術 インスタレーション 映像表現 など	彫刻 空間 環境 複合 立体 など	日本美術史 西洋美術史 現代アート論 美学・芸術哲学 など	視覚伝達 プロダクト 環境 メディア	陶芸 陶磁器デザイン

教養教育等

美術プロジェクト

複合芸術プロジェクトオペラ

音楽プロジェクト

教養教育等

作曲領域	音楽学領域	声楽領域	鍵盤楽器領域	弦楽器領域	管楽器領域	打楽器領域
創作 編曲 コンピューター 音楽	西洋音楽 日本音楽 ワールド ミュージック	歌曲 オペラ 宗教曲	ピアノ オルガン チェンバロ フォルテピアノ	ヴァイオリン ヴィオラ チェロ コントラバス ハープ	フルート オーボエ クラリネット バスーン サクソフォーン ホルン トランペット トロンボーン バストロボーン ユーフォニアム テューバ	マリンバ／ 打楽器

音楽専攻
入学定員：30名

音楽研究科 博士前期課程

美術研究科 博士後期課程

美術専攻
入学定員：5名

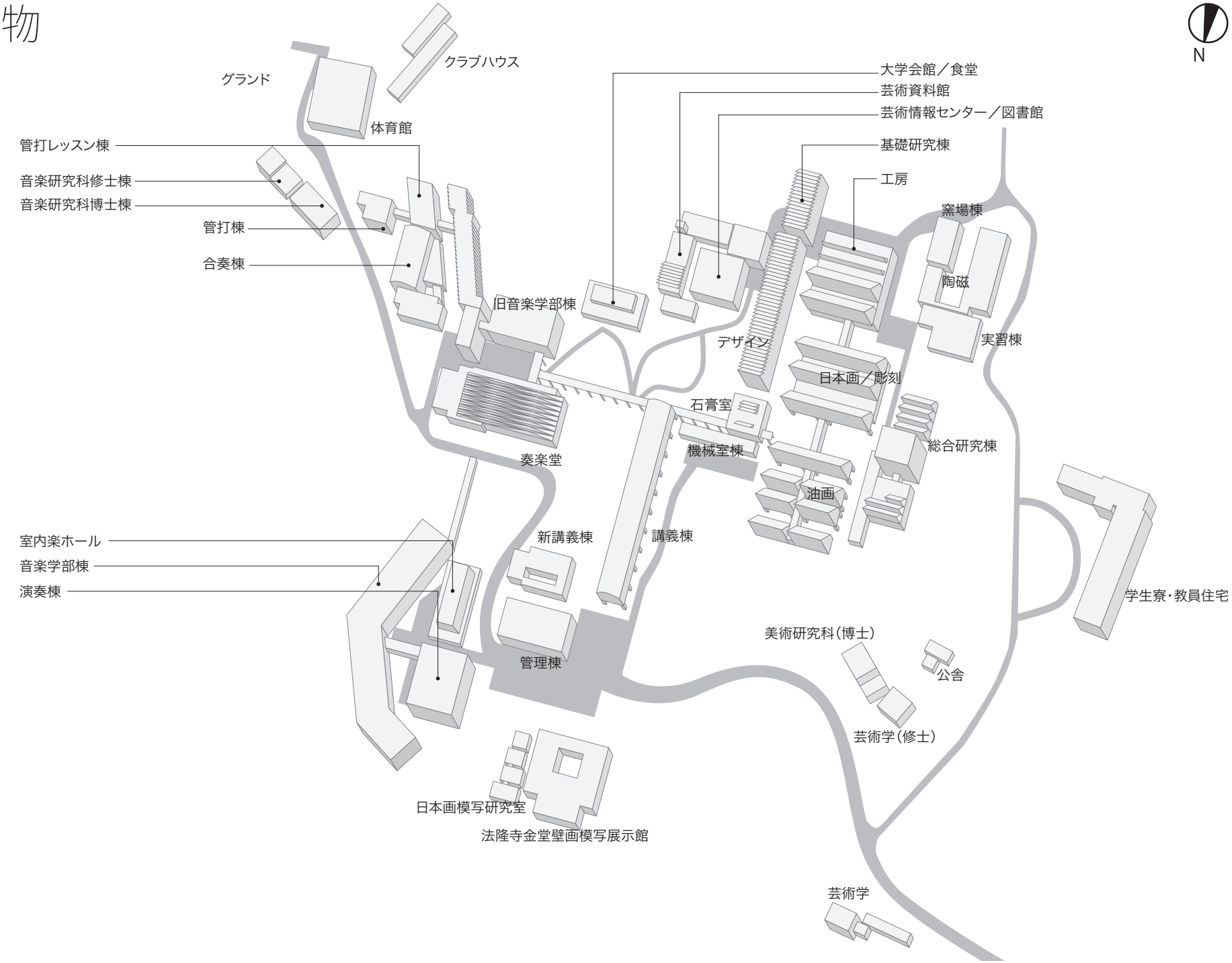
日本画　油画・版画　彫刻　芸術学　デザイン　陶磁

音楽専攻
入学定員：3名

作曲　音楽学　声楽　鍵盤楽器　弦楽器　管楽器

音楽研究科 博士後期課程

施設・建物
Facilities



講義棟

吉村順三が設計したキャンパスの骨格となる建物です。丘陵の尾根に沿って建てられており、講義棟を中心に東側に音楽学部、西側に美術学部が配置されています。1階のピロティは学生の交流の場となっているほか、芸術祭では様々な模擬店が立ち並びます。

芸術資料館

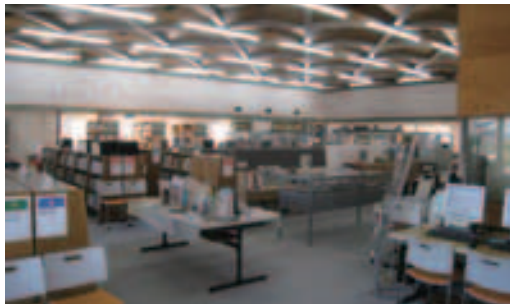
芸術関係の資料収集・保管及び展示を行う、教育に資するための施設です。日本画、油画、版画といった絵画から、彫刻やデザイン資料、陶磁器及び楽器や音楽関係資料など、収蔵品は多岐にわたっています。年間を通して収蔵資料展のほか、学生による研究発表展、美術学部教員展といった様々な展覧会を開催しています。

奏楽堂

音楽教育、入学式、卒業式、その他大学の儀式、行事等の目的に使用するための施設です。特に、音楽教育に関しては、優れた演奏家を養成することを目標に、学内演奏会（毎週火曜日）や管弦楽団演奏会などを開催しています。

美術学部棟

日本画専攻、油画専攻、彫刻専攻のアトリエをはじめ、シルクスクリーンや活版印刷、写真現像、焼成、プレス成形、溶接、金工、木工など多彩な芸術表現のための設備が整っています。のこぎり屋根の外観は、アトリエに北側からの光を取り入れるとともに、新しいものを創造していく「芸術の工場」という印象を与えてくれます。



管理棟

大学の運営を統括する施設で、1階は医務室と警備室、2階・3階は事務室となっています。様々な届出や申請を受け付けているほか、就職コーナーや証明書の発行機があります。また、学生相談室では臨床心理士によるカウンセリングが行われています（予約制）。

法隆寺金堂壁画模写展示館

7世紀末から8世紀初め頃に描かれた法隆寺金堂大壁12面及び小壁（飛天図）20面の壁画を、本学の教員・卒業生らが16年間にわたって携わり、焼損以前の状態のとおり忠実に再現したものを展示しています。教育・研究や地域文化の向上に役立てるため、春と秋に一般公開しています。

芸術情報センター図書館

学生の学習及び教員の調査・研究のための施設として、内外の美術書、音楽書、楽譜、レコード、CD、DVD、一般教養図書、各種雑誌を所蔵し、利用に供しています。

開館　午前9時～午後8時（月～金）

休館　土日祝日、毎月第1月曜

音楽学部棟・演奏棟・室内楽ホール

2013年度に新しい音楽学部の施設が完成しました。音楽教育にふさわしい設備とキャンパス全体の景観に配慮した構造の建物となっています。音楽学部棟にはレッスン室兼研究室や練習室等が入っているほか、オペラ合唱室と大演奏室からなる演奏棟、室内楽や合奏など様々なコンサートができる室内楽ホールがあります。また、奏楽堂とブリッジで連結されスムーズな移動ができるようになりました。

学外施設
Off Campus Facilities

サテライトギャラリー

2010年5月に、栄町商店街振興組合の協力のもと、名古屋市中心部の栄にサテライトギャラリーを開設しました。本学の教員や学生を主体とした展覧会や講演会、ワークショップなど新しい情報発信の場として広く一般公開するとともに、地域と連携して愛知の芸術活動を盛り上げています。

所在地：名古屋市中区錦3丁目21番 中央広小路ビル3階（広小路通、東急イン北向かい）

豊田市藤沢アートハウス

2011年に豊田市藤沢町にある旧豊田市藤沢こども園を活用して設立しました。学生や教員の制作アトリエとして、また、ワークショップなどアートイベントを通じた地元の方々との交流の場として活用しています。その他、豊田市の文化振興や地域の活性化にも寄与しています。

所在地：豊田市藤沢町井之口206-1
（猿投グリーンロード「枝下IC」から車で約5分）

MEGI HOUSE

瀬戸内国際芸術祭2010への参加を契機として、高松市沖合の女木島に愛知芸大の拠点を設置しました。石垣に囲まれた民家とその庭を改装したステージでは、展覧会や演奏会、イベント、ワークショップなどが開催されています。島の暮らしの息吹と多彩な芸術表現が調和する空間となっています。

所在地：香川県高松市女木町
（高松港からフェリーで約20分）

学生数
Number of Students

平成27年5月1日現在

学部	学科	専攻（コース）		収容定員	1年	2年	3年	4年	計
美術	美術	日本画		40	12	10	11	10	43
		油画		100	27	25	26	26	104
		彫刻		40	10	11	9	11	41
		芸術学		20	5	5	5	9	24
	デザイン・工芸	デザイン		140	36	36	34	41	147
		陶磁		40	11	9	9	10	39
	小計			380	101	96	94	107	398
音楽	音楽	作曲	作曲	32	6	9	6	6	27
			音楽学	8	2	3	6	8	19
		声楽		120	30	29	28	31	118
		器楽	ピアノ	100	25	25	24	25	99
			弦楽器	60	16	16	17	17	66
			管打楽器	80	22	19	21	23	85
	小計			400	101	101	102	110	414
合計				780	202	197	196	217	812

研究科	専攻・課程	収容定員	1年	2年	3年	計
美術	博士前期	80	43	43	—	86
	博士後期	15	2	6	6	14
	小計	95	45	49	6	100
音楽	博士前期	60	30	30	—	60
	博士後期	9	1	3	4	8
	小計	69	31	33	4	68
合計		164	76	82	10	168

国際交流
International Exchange

協定校への留学

本学では、個性的で魅力ある大学として、また国際的にも開かれた芸術文化の発信地となることを目指し、その理念実現の一環として学生の派遣留学を開始しました。留学を通じて異なる国の異なる文化、習慣等、様々な違いに触れることにより、技術の向上のみにとどまらず、新たな創造の可能性を見いだして欲しいと願っています。今後も順次留学可能校を増やしていく予定です。

海外協定校一覧

留学実施校

・ケルン音楽大学（ドイツ）　音楽学部
・ハンブルク音楽大学（ドイツ）　音楽学部
・リスト音楽院（ハンガリー）　音楽学部
・ソルボンヌ大学（フランス）　音楽学部（音楽学）
・シラパコーン大学（タイ）　美術学部
・チェンマイ大学（タイ）　美術学部
・台南芸術大学（台湾）　美術学部・音楽学部

その他協定校

・エジンバラ大学（交流校：エジンバラ芸術大学）（イギリス）　美術学部
・ボストン美術館芸術大学（アメリカ）　美術学部
・サレルノ大学（イタリア）　美術学部・音楽学部
・ロンドン芸術大学（交流校：セントラル・セント・マーティンズ）（イギリス）　美術学部
・南京芸術学院（中国）　美術学部・音楽学部
・マンハッタン音楽院　（アメリカ）　音楽学部
・クラコフ音楽院　（ポーランド）　音楽学部
・ワイマール・フランツ・リスト音楽大学（ドイツ）　音楽学部（管打楽器）

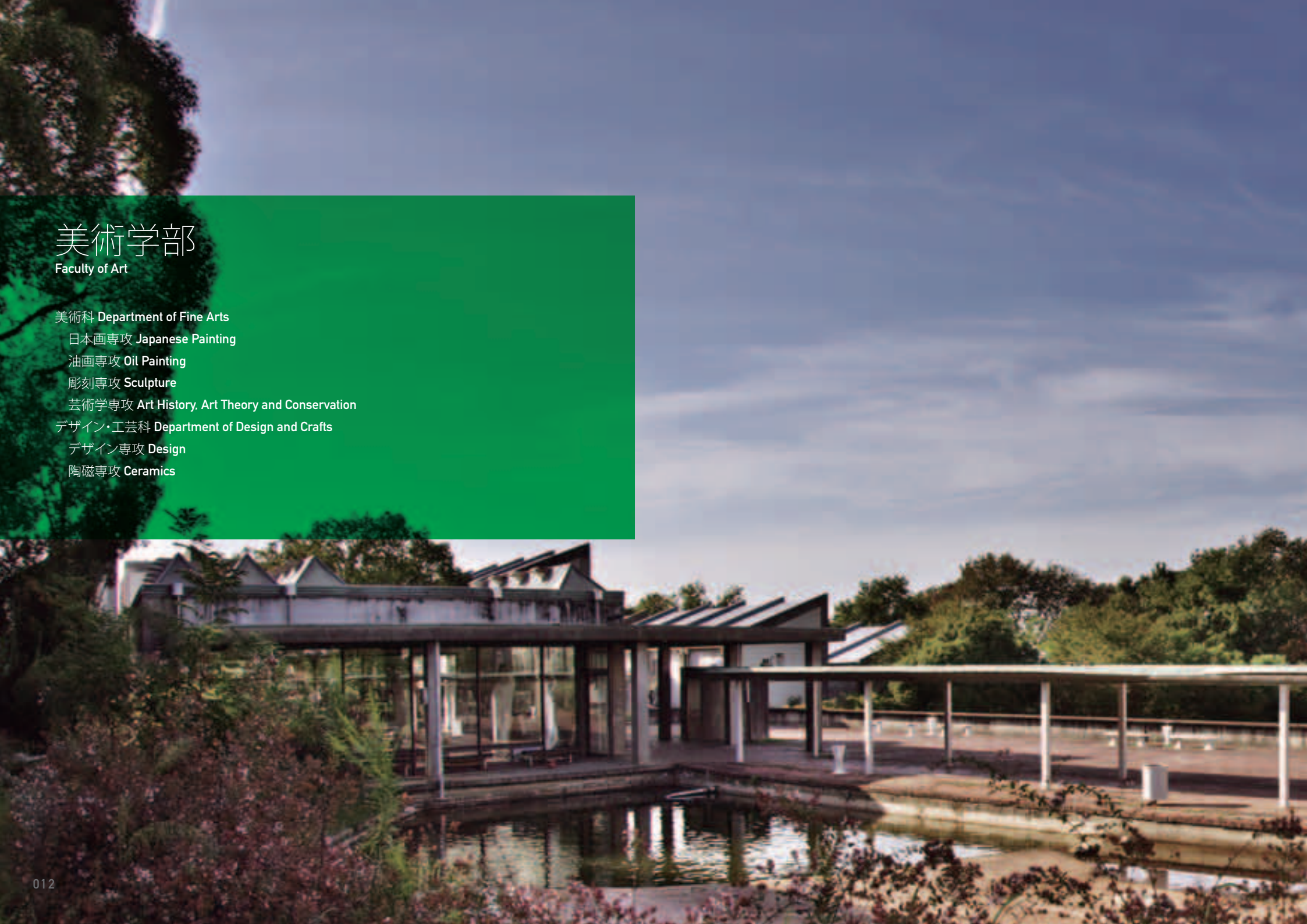
日・タイ アートステューデント交流展
美術討論会
チェンマイ大学

弦楽器コース教員とケルン音楽大学教員との合同コンサート
ケルン音楽大学

アーティスト・イン・レジデンス2014
グラハム・エラード教授
スティーブン・ジョンストン教授
ロンドン芸術大学（映像作家）

平成26年度実施交流事業

・「国際交流室」の設置（留学や海外渡航を目指す学生をサポート）
・協定校への留学生派遣（ケルン音楽大学・ソルボンヌ大学・リスト音楽院）
・協定校からの留学生受入れ（チェンマイ大学美術学部・台南芸術大学）
・新たに交流協定を締結
　▶サレルノ大学（イタリア）
　▶ワイマール・フランツ・リスト音楽大学 管打楽器学科（ドイツ）
　▶ロンドン芸術大学（イギリス）
・ケルン音楽大学にて本学弦楽器コース教員とケルン音楽大学教員との合同コンサートを実施
・チェンマイ大学主催の「日・タイ アートステューデント交流展」に招聘され教員1名、学生3名が参加
・「キュービックミュージアム イン タイ」がシラパコーン大学にて開催され教員2名、学生3名が参加し滞在制作を実施
・カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）を本学作曲専攻教員が訪問し合同コンサート、レクチャーなど交流事業を実施
・イタリア語・イタリア文化研修（短期）をサレルノ大学にて実施
・アーティスト・イン・レジデンス事業4件の実施
　5月　マティアス・ブッフホルツ教授（ヴィオラ奏者・ケルン音楽大学）
　7月　ロベルト・コヴィエッロ教授（声楽家・ミラノ市立音楽院）、
　　エリア・タリアヴィア氏（ピアノ・ミラノ市立音楽院）
　11月　グラハム・エラード教授（映像作家・ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校）、
　　スティーブン・ジョンストン教授（映像作家・ロンドン芸術大学ゴールドスミス校）
　2月　アクセル・ルオフ教授（作曲家・シュトゥットガルト音楽大学）



美術学部
Faculty of Art

美術科 Department of Fine Arts
- 日本画専攻 Japanese Painting
- 油画専攻 Oil Painting
- 彫刻専攻 Sculpture
- 芸術学専攻 Art History, Art Theory and Conservation

デザイン・工芸科 Department of Design and Crafts
- デザイン専攻 Design
- 陶磁専攻 Ceramics

美術学部

目的 Purpose

美術学部（美術科、デザイン・工芸科）は、自立的な判断力に富み、創造的な能力に優れた人材を理想として、それぞれの専門について高度な知識と技術、技能を身につけた日本画、油画、彫刻、工芸、現代美術の芸術家、幅広い分野のデザイナー、美術に関する研究者等の育成を目的とする。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

美術学部は、美術科、デザイン・工芸科の二つで構成されていますが、両科とも美術に対する目的意識と意欲のある学生を求めています。自らの表現は個性と共に確実な技術と理論に裏打ちされたものでなければなりません。自己表現をもって地域や国際社会に関わり、貢献する気概のある人を求めています。人に感動を与えられる美術・芸術表現は毎日の自己研鑽の蓄積から生まれるものです。

日本画専攻
Japanese Painting

■美術学部■美術科■日本画専攻

専攻概要

日本画における絵画表現は千数百年前から連綿と積み重ねられている伝統的なものです。学部の4年間を通してその伝統を学び、発展させる為の基礎を養い、将来作家として創作活動を目指す事の出来る人材の育成を目標として授業科目を設定しています。日本画は、鉱石を砕いて作った岩絵の具という粒子の粗い絵具を、接着剤である膠（にかわ）と混ぜて画面に書いていく、日本で千数百年続いてきた絵画表現です。岩絵の具の持つ輝きに魅了された学生が日々制作活動に励んでいます。日本画専攻の特色のひとつは、個人指導に重点を置いた少人数教育にあります。4学年の学生合計40名に対して、専任教員6名、非常勤講師約30名が指導にあたっており、1対1の個人指導を基本としています。日本画表現における基礎的な美術の習得から始まり、古典の模写等を通して、伝統的なものの表現や技法をしっかりと身につけることができます。

教　員

有賀 祥隆	ARIGA, Yoshitaka	客員教授	模写・保存修復、日本美術史
秦　誠	HATA, Makoto	教　授	模写・保存修復
北田 克己	KITADA, Katsumi	教　授	日本画・模写
岡田 眞治	OKADA, Shinji	教　授	日本画
吉村 佳洋	YOSHIMURA, Yoshihiro	准教授	日本画・模写
岩永 てるみ	IWANAGA, Terumi	准教授	模写・保存修復
阪野 智啓	BANNO, Tomohiro	講　師	模写・保存修復

非常勤講師

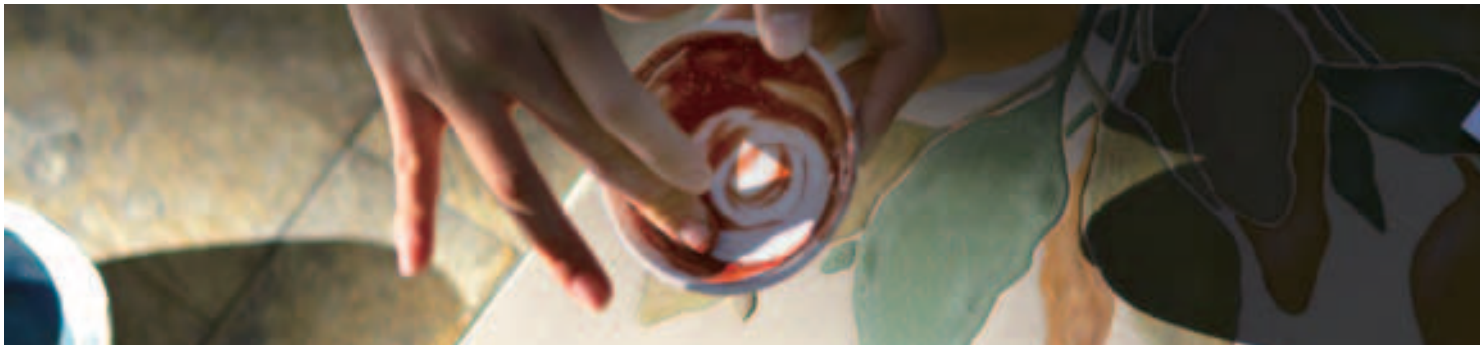
川瀬 麿士／藤森 民雄／荒井 経／芝 康弘／王 培／並木 秀俊／増田 勝彦／岡 興造／神谷 浩／成瀬 正和／谷口 耕生／塚本 麿充／脇屋 助作／鈴木 晴彦／鈴木 貴夫／青木 智史／他

求められる学生像

○日本画の材料や技法の基礎に基づき、意欲的に作品制作が出来る人。
○自然に対する観察力・洞察力を幅広く持ち、日本画の基礎を勉強する意志のある人。

専攻サイト

http://japan-paint.aichi-fam-u.ac.jp/



カリキュラム

1年次、2年次には日本画表現における基礎的な技法の習得を目指します。動・植物制作、風景制作等の課題を通して、膠、絵具、紙、筆等の材料研究を行います。また古典衣装や模写を通して、日本画の伝統的な色彩や線描表現、及び技法を学びます。3年次には1・2年次に習得した基礎技法を踏まえ、より応用的な制作に入ります。各個人の発想や、取材をより必要とした課題が多くなります。古美術研究旅行では、絵具、紙、墨の製造現場を訪ね、材料研究を深めます。また、仏閣等を訪ね、障壁画等に見られる伝統的な絵画表現の研究を行います。4年次には予備制作に続き、学部の集大成として卒業制作（卒業制作展での発表を含みます）を行います。大画面の制作を行う事で各自が作品発表の指針を模索すると共に、より専門的な日本画表現を目指します。

美術学部専門教育科目

専攻科目

一年次

日本画実技Ⅰ
植物制作Ⅰ・Ⅱ：植物の制作を通し日本画の技法全般の基礎を学ぶ。
剥製写生：精密描写を通して、写実の重要性を認識する。
動物制作：動物の制作を通して動物の骨格や動作などを学ぶ。
風景制作：夏休み中に風景スケッチを課題とし、その写生を元に制作を行う。
裸婦制作：裸婦デッサンをもとに日本画においての人物表現を学ぶ。
絹絵制作：絵絹の扱いを学ぶ。雛人形を課題とし、日本画の様式美や平面描写を学ぶ。
自画像制作：自画像を通して人物表現の研究を行う。

二年次

日本画実技Ⅱ
人体デッサン：裸婦のデッサンを行う。
植物制作：植物の精密写生をもとに植物制作を行う。
植物絹絵制作：植物写生及び制作を参考にして、絹本に基底材を変えて制作を行う。
人物と植物の組合せ：植物写生とデッサンをもとに人物と組み合わせ画面構成の基礎を学ぶ。
風景制作：夏休み中に風景スケッチを課題とし、その写生を元に制作を行う。
群像制作：2人以上の人体を組み合わせ構成し、制作する。
人物自由制作：人物を発想豊かに構成し、制作を行う。

三年次

日本画実技Ⅲ
人物制作（裸婦）：人物における日本画の表現方法を研究する。
自由制作：各自でテーマを決め、自由課題で制作を行う。
模写制作：「国宝　一遍聖絵」を課題として現状模写を行うことで古典絵画の表現や技法を学ぶ。
風景制作：夏休み中に風景スケッチを課題とし、その写生をもとに制作を行う。風景における日本画の表現方法を研究する。
自由制作：自分が表現したい対象物を見つけ出し、自由な発想で制作する。
古典と現代の組合せ：古美術研究旅行で研究した内容をもとに、古典的要素と現代的なものを自由な発想で構成する。

古美術研究
関西地方の寺社仏閣や日本画材料製作工房を訪れ、古美術を研究する。

四年次

日本画実技Ⅳ
人物デッサン：裸婦デッサンを行う。
自由制作：卒業制作に向けて150号の大画面に制作を行う自由課題。
卒業制作：4年間で学んだ総合的な研究成果を150号の自由課題で制作し、卒業制作展にて発表する。

関連科目

○1年次
木工実習
○2年次
材料研究
・金属材料について学び、金泥表現や箔押しの基本的な方法を習得する。
古典絵画研究
・信貴山緑起絵巻の現状模写を行うことで古典絵画の表現や技法を学ぶ。
○3年次
立体造形の研究
デザインの基礎の研究
○1年次以上
美術解剖学
図学及び遠近法
デザイン・工芸概論
学部共通関連科目
○2年次以上
色彩学

基礎教育科目

日本美術史概説
西洋美術史概説
美術材料学
現代アート概説
デザイン史

教養教育科目

英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
身体運動・健康科学
情報科学
心理学
芸術論
ほか

卒業後の進路

［教　員］
愛知県立芸術大学美術学部日本画専攻、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所、東京藝術大学美術学部絵画科油画、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学保存修復日本画研究室、上越教育大学、名古屋学芸大学短期大学、愛知産業大学、名古屋造形芸術大学、京都造形芸術大学、名古屋市立工芸高等学校、愛知県立旭丘高等学校美術科、東邦高等学校美術科、岐阜県立加納高等学校美術科、三重県立飯野高等学校、他小学校、中学校、高等学校多数

［就職等］
河合塾、鳴海製陶、松坂屋、メナード美術館、瀬戸市美術館、スタジオジブリ、小倉工房、スタジオワイエス、テレコムアニメーションフィルム、舞台美術、コナミ株式会社、表具師、版画家、漆芸家、映像作家、漫画家、学芸員、画家多数

［進学／留学等］
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程、文化庁派遣在外研修員、チェコスロバキア、中華人民共和国、セントラル・セントマーチンス（イギリス）

活躍する卒業生・在学生

南里 康太

2011年 大学院博士前期課程修了
再興院展、春の院展入選
現在 愛知県立芸術大学非常勤講師
日本美術院 研究会員

一線で活躍し続ける作家である経験豊かな教授陣の指導の下、作品制作のエッセンスを学ぶ事が出来ます。また、同じ夢を持った学生たちと緑豊かなキャンパスで、四季を感じながらの生活が大きな刺激となり、作家としての個性を育む良い土壌となっています。

手塚 華

2013年 大学院博士前期課程修了
再興院展、春の院展入選
現在 愛知県立芸術大学非常勤講師
日本美術院 研究会員

現代の日本画表現から古典的な技法まで、幅広く学ぶことが出来ます。日本画は描く前の準備が面倒だと、手を付けずに敬遠する人が多いです。しかし、画材の使用法・扱い方など、基礎をしっかりと学び、何故そうするのかそれによってどうなるかを理解することで、様々な表現が可能な画材であるのを感じます。

岸本 浩希

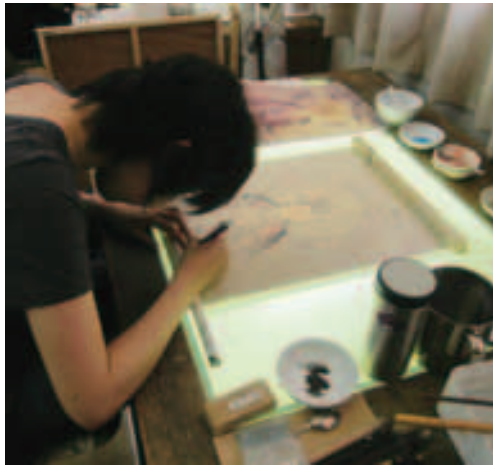
2010年 大学院博士前期課程修了
再興院展、春の院展入選
現在 愛知県立芸術大学非常勤講師
日本美術院 院友

本地 裕輔

2010年 大学院博士前期課程修了
再興院展、春の院展入選
現在 愛知県立芸術大学非常勤講師
日本美術院 院友

川島 優

2015年 大学院博士後期課程入学
損保ジャパン美術大賞2014FACE大賞
99回再興院展 奨励賞（2014年）
星野眞吾賞展 優秀賞（2014年）



油画専攻
Oil Painting

■美術学部■美術科■油画専攻

専攻概要

「絵画」を起点にした表現

芸術の表現が多様化し、さまざまな手法の試みが繰り返される現在、作り手が独自の表現を見つけ出すことは容易ではなく、新たな表現の手がかりをつかむには、内面をより深く掘り下げた思考と着想が必要とされます。油画専攻では、新たな創作を探求するために「絵画」を起点とした表現を中心に据えながら、学生の「個」の力を見いだしていく指導を展開しています。

具体的には、学生たちは与えられたカリキュラムをこなすだけではなく、自ら学びたい授業を選択し、教員との対話を通して各自の創作を追求していきます。このことは学生の「個」を尊重し、結果的に表現する上での自立心と探究心を養うことにつながっていきます。

このように油画専攻では、学生と教員がともに考えながら表現することの喜びを分かち合います。また、多様なカリキュラムにより学生一人ひとりの創作意欲を高め、将来社会で活躍するアーティストを育成することを目指しています。

教　員

櫃田 伸也	HITSUDA, Nobuya	客員教授	絵画
寺内 曜子	TERAUCHI, Yoko	教　授	立体・インスタレーション
設楽 知昭	SHITARA, Tomoaki	教　授	絵画・現代美術
阿野 義久	ANO, Yoshihisa	教　授	絵画表現
倉地　久	KURACHI, Hisashi	教　授	版画・版表現
額田 宣彦	NUKATA, Nobuhiko	教　授	絵画
井出創太郎	IDE, Sotaro	准教授	版画
高橋 信行	TAKAHASHI, Nobuyuki	准教授	絵画
白河 宗利	SHIRAKAWA, Noriyori	准教授	絵画・技法材料
大﨑 宣之	OSAKI, Nobuyuki	准教授	版画・現代美術
岩間 賢	IWAMA, Satoshi	講　師	絵画表現・現代美術
猪狩 雅則	IGARI, Masanori	講　師	絵画

非常勤講師　約16名

求められる学生像

○美術に強い関心と探究心をもっている人。
○造形に関する基礎的表現力を有し、それをさらに大学で深めようとする人。
○作品制作に励み、かつ自己表現を追求する努力を惜しまない人。

専攻サイト

http://oil-paint.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

「個の力を重視した少人数授業」

1年次、2年次は、講座授業を中心に全教員による様々な価値観を横断的に学ぶ期間としています。併行して油彩画の技法・材料やフレスコ画、版画などの実習をとおして基礎的な技術を身につけていきます。3年次には各自の制作に教員がマンツーマンで対話するチュートリアル指導で表現の幅を広げていきます。

学年のまとめとして展示形式の講評会を開催します。4年次は、卒業制作に向けて講評会が定期的に行われ、研究の総まとめとして卒業制作展を行います。この他にも学部4年間をとおして著名なアーティストやキュレーター、批評家などの非常勤講師によるレクチャーやワークショップ、批評会などの機会が設けられています。

美術学部専門教育科目

専攻科目

一年次

油画実技 I
基礎実技授業：絵画を起点に制作に取り組むための基礎的な実技授業。下地研究／絵画組成研究／混合技法による絵画研究／壁画研究（フレスコ画）／版画研究　講話：油画専攻全教員12名が講話を行う講義形式授業。
課題制作：人体、静物等の課題をとおして自己表現としての絵画を考える。
空間表現実習：空間への関わりを積極的に示す視点をもって各自の表現に取り組む実習。
進級制作：1年をとおして学んだ基礎実技と思考を基に、進級制作として自由制作を行なう。
全体講評：油画専攻の全教員12名による講評会。

油画特別演習 I
実技授業とリンクさせた形式で行われる複合型演習授業。

二年次

油画実技 II
選択講座 1 -12：油画専攻全教員が独自の講座を開講し、ゼミ形式の実習授業を行う。
研究制作：開講されている講座と並行し、自身の表現を制作する。
特別講座：学外から招聘した非常勤講師による実技課題を含む複合型演習授業。
写真講座：写真撮影の基礎的な知識、技術を学ぶ。
進級制作：3年次より始まる自律的な創作表現に向け制作する。
全体講評：油画専攻の全教員12名による講評会。

油画特別演習 II
実技授業とリンクさせた形式で行われる複合型演習授業。

三年次

油画実技 III
チュートリアル：学生が各自の芸術観に沿った教員を選択し、指導及び講評を受ける。
研究制作：大作を制作し、自己の表現を模索する。
進級制作：育んできた自身の研究を踏まえ制作する。
全体講評：油画専攻の全教員12名による講評会。

油画特別演習 III
実技授業とリンクさせた形式で行われる複合型演習授業。

古美術研究
奈良、京都などの現地におもむき、文化財研究を行う。

四年次

油画実技 IV
チュートリアル：各自の芸術観に沿った教員を選択し、指導及び講評を受ける。
卒業制作演習：卒業制作に向けた作品制作を行い、芸術資料館でその成果を発表する。
卒業制作演習講評：油画専攻の全教員12名による研究発表展（芸術資料館）講評会。
講評週間:各自の芸術観に沿った教員を学生が選択し、個別に作品講評と指導を受ける。
卒業制作

油画特別演習 IV
実技授業とリンクさせた形式で行われる複合型演習授業。

関連科目

○1年次
木工実習
材料研究
○2年次
立体造形の研究
○3年次
デザインの基礎の研究
○1年次以上
美術解剖学
図学及び遠近法
デザイン・工芸概論
学部共通関連科目
○2年次以上
色彩学

基礎教育科目

日本美術史概説
西洋美術史概説
美術材料学
現代アート概説
デザイン史

教養教育科目

英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
身体運動・健康科学
情報科学
心理学
芸術論
ほか

卒業後の進路

［アーティスト］
画家、版画家、美術家、造形作家、映像作家、写真家、キュレーター、CGクリエーター、デザイナー、漫画家、音楽家等

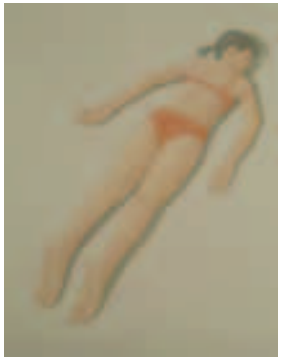
［教　員］
愛知県立芸術大学、金沢美術工芸大学、沖縄県立芸術大学、京都市立芸術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、東京造形大学、女子美術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、弘前大学、和歌山大学、大分大学、琉球大学、愛知県立大学、名古屋市立大学、和洋女子大学、東京純心女子大学、明星大学、常葉学園大学、愛知学泉大学、大同工業大学、名古屋学芸大学、皇學館大學、成安造形大学、愛知文教女子短期大学、一宮女子短期大学、岡崎女子短期大学、東海女子短期大学、名古屋経済大学短期学部、名古屋女子短期大学、大垣女子短期大学、神戸山手女子短期大学、愛知県立旭丘高等学校美術科、東邦高等学校美術科、小学校・中学校・高等学校教員多数

［就職等］
富山県立近代美術館、はるひ美術館、富士美術館、名都美術館、高羽版画工房、岐阜TV、中日新聞、（株）コナミ、（株）電通、（株）トヨタ車体、東京ディズニーランド等

［進学／留学等］
愛知県立芸術大学大学院美術研究科、東京藝術大学大学院美術研究科、フランス政府給付留学、文化庁芸術家在外研修員、ミュンヘン美術大学、デュッセルドルフ芸術アカデミー、ウィーン国立芸術大学、ニュルンベルグ美術大学、ロイヤルカレッジ・オブ・アーツ、チェルシーカレッジ・オブ・アーツアンドデザイン、ゴールドスミスカレッジ・オブ・アーツ等

活躍する卒業生

小林 孝亘
1986年油画専攻卒業, 2002年以降、東京、バンコクを制作の拠点にし、作家活動を展開している。



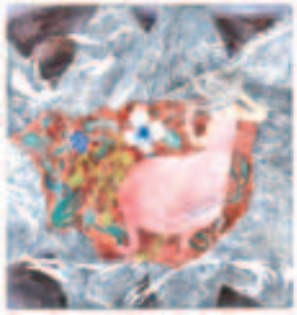
奈良 美智
1987年大学院修士課程修了, 日本国内はじめ、ヨーロッパ、アメリカなどで作品を発表している国際作家。

山田 純嗣
1999年大学院修士課程修了, 現代美術や版画の分野において国内外での発表活動を行っている。

加藤 美佳
2001年大学院修士課程修了, 図版の作品は「カナリア」（卒業制作）。イギリスなどでも個展を開催し活躍している。

染谷 亜里可
1986年大学院修士課程修了, ベルベットを漂白した平面作品を主に制作。最近では今村哲（1986年修士課程修了）と「D.D.」をつくり、体験型インスタレーションも展開している。

村瀬 恭子
1989年大学院修士課程修了, デュッセルドルフのアカデミーで学び、ドイツを拠点として制作・作家活動を行っている。近年では豊田市美術館で個展を開催、詩情あふれる作風は国内外で高く評価されている。



渡辺 豪
2002年大学院修士課程修了, 日本国内をはじめ、台湾・リトアニア・中国など国際的にも作品を発表。2013年あいちトリエンナーレに参加。

阿部 大介
2004年大学院修士課程修了, 2009年モノ・コトの貌（INAXギャラリー2/東京）。2012年阿部大介展（AIN SOPH DISPATCH/愛知）。

彫刻専攻
Sculpture

■美術学部■美術科■彫刻専攻

専攻概要

彫刻専攻は、多様化する現代社会での立体表現に重点を置きながら、広範な教育を行うことで、将来のアーティスト、研究者、芸術教育等の専門家を養成します。1・2年次は、実習を通した実技および理論の基礎教育を、3・4年次にはその応用教育を徹底した個別指導により行います。更に、国内外で活躍している作家・評論家によるレクチャーを行い、新しい表現を生み出す創造力と社会との関わりを多面的に理解するための力を育みます。

教　員

塩田 純一	SHIODA, Junichi	客員教授	日本・英国の現代美術
大塚 道男	OTSUKA, Michio	教　授	木彫・石彫
土屋 公雄	TSUCHIYA, Kimio	教　授	環境芸術
神田 毎実	KANDA, Tsunemi	教　授	複合表現
竹内 孝和	TAKEUCHI, Takakazu	准教授	立体表現
森北　伸	MORIKITA, Shin	准教授	彫刻・絵画
村尾 里奈	MURAO, Rina	講　師	空間表現

非常勤講師　23名

求められる学生像

○自己管理能力と協調性をあわせ持つ人。
○不得意とする事柄に対してまっすぐ立ち向かう強い意志と、忍耐力、持久力、体力のある人。
○先入観に拠らず、自身の考えに対して絶えず異なった観点からの問いを発し、自身の創作によってその答えを模索しようとする人。
○上記のことを含めた意味で、“美術”が好きな人。

専攻サイト

http://sculpture.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

彫刻の基礎として、1年次に塑造・金属・木彫・樹脂、2年次には塑造・造形・石彫・テラコッタ・材料研究（乾漆）の授業を行います。3年次には、各教員が担当するゼミ毎に授業が行われ、より広範な表現に対応できる力を養います。4年次には、これまでの学習や研究の成果を卒業制作に結実できるよう指導します。

また、彫刻専攻は現代社会の抱える過疎化や環境問題などに対峙し、そこに新たな価値を生み出すことを目指して、地域密着型アートプロジェクト「長久手アートフェスティバル」、「犬山アートプロジェクト」、「瀬戸内国際芸術祭」に積極的に参加しています。

美術学部専門教育科目

専攻科目

一年次

彫刻実技Ⅰ
塑造：2分の1等身の塑像を造ることを通し、観察することの重要性を学ぶ。完成後に石膏取り技法を習得する。
金属：金属加工に必要な機械や道具の扱い方を学び、自由制作を通して彫刻の基本的な概念および技術を学ぶ。
木彫：木彫に必要とされる基本的な道具の扱い及びカービング技術について学ぶ。
樹脂：モデリングにより制作された原型を用いて、成型から塗装にいたる一連の行程を体験しながら、合成樹脂を用いる技法・技術に触れる。

木工実習
木工の基本技術を学ぶ。

二年次

彫刻実技Ⅱ
塑造：各自のテーマに基づき、塑造による表現方法の研究を行う。
石彫：石彫の実技を通して、石彫造形について考えるとともに、石彫に関わる基礎技術を学ぶ。
造形：「不連続なイメージによる１日１作品」では自分あるいは自分の表現と出会うための実験として、数週間連続して毎日１点作品を制作する。
テラコッタ：各自のテーマに基づいた制作を通して、テラコッタの基本的な技法を学び、土による表現の可能性を探る。

材料研究
日本古来から伝わる漆を使った乾漆彫刻の素材と技術を学ぶ。

三年次

彫刻実技Ⅲ
彫刻ゼミⅠ・Ⅱ：各自の方向性に沿ったゼミを選択し、指導を受け、個々の表現を探る。
版画研究：他専攻科目の授業を履修することで、様々な表現方法を身につける。版の特性を理解し、版画制作の基礎を習得する。

古美術研究
講義及び見学を通して、鎌倉期までの日本の立体造形について学ぶ。

四年次

彫刻実技Ⅳ
創作Ⅰ・Ⅱ：卒業研究の前段階としての表現研究を行う。
卒業制作（各自のテーマに基づいて制作する。）

関連科目

○1年次
木工実習
○3年次
デザインの基礎の研究
素描及び色彩研究
○1年次以上
美術解剖学
図学及び遠近法
デザイン・工芸概論
学部共通関連科目
○2年次以上
色彩学

基礎教育科目

日本美術史概説
西洋美術史概説
美術材料学
現代アート概説
デザイン史

教養教育科目

英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
身体運動・健康科学
情報科学
心理学
芸術論
ほか

卒業後の進路

［アーティスト］
彫刻家、美術家、造形作家、漫画家、音楽家等

［教　員］
愛知県立芸術大学、名古屋造形大学、愛知産業大学、埼玉純真短期大学、成安造形大学、福岡教育大学、四日市大学、武蔵野美術大学、玉川大学、鳥取大学、新潟大学、長岡造形大学、金沢美術工芸大学、名古屋学芸大学、福井大学、大垣女子短期大学、常葉学園大学、愛知県立旭丘高等学校美術科、岐阜県立加納高等学校美術科、東邦高等学校美術科、その他養護学校・中学校・高等学校教員多数

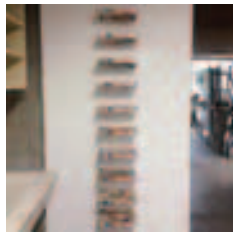
［就　職］
東京国立近代美術館、福井市立美術館、愛知県陶磁資料館、愛知仏像研究所、アトリエあい、（株）カリモク、ギャラリー象家、ギャラリー＋（プラス）、きりん工房、（株）ジャスト、日本美術院、前田商事、（株）松坂屋、（株）ミキモト、矢橋林業、石塚ガラス、（株）柏木工、（株）文教スタヂオ等

［進学/留学等］
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、ハノーファー美術大学、ベルリン芸術大学、デュッセルドルフ美術大学、国立ウィーン芸術大学、フランス政府給費留学、イタリア政府給費留学、ドイツ（DAAD）政府給費留学、文化庁3年派遣（ペルー）、文化庁１年派遣（スペイン）

在学生の声

木林 観奈

一年目には制作ごとに異なる素材に触れ、どの素材にも面白さと可能性を感じることができました。造り出すことのできる表現が増えていき、素材の特性や魅力を生かした造形を考えることがとても楽しいです。勉強や生活、出会いなど全ての時間を通して学び感じたことが、作品を造り出すことに繋がっていると思います。



佐野 魁

この大学に来てから、何気ないことの積み重ねが、案外大事なことにつながっていると思うようになりました。この変化により、今までただ漠然と考えていたことにも、少しずつ自分が納得できる答えを見い出すことができるようになりました。この大学にいると、自分に起きている変化に敏感に反応していることに気づきます。

三上 俊希

愛知県立芸術大学では、先生と学生の距離がとても近いです。僕は先生に多くの質問や相談をします。返答の中には生涯、心に残る言葉もありました。その言葉に大きく影響され、より一層、良い作品が制作できているように思います。気軽に相談できる先生がいる環境と、制作に没頭できる環境が整っているのがこの大学です。

近藤 さくら

校内を猫が闊歩し、見上げればキツツキ。竹の子狩りをして、裏庭の枇杷やアケビを食す…。丸ごと自然のこの大学では独特の時間の流れがある。世間の流れに惑わされずに本当の自分と向き合って制作ができるのはそのおかげだろう。この土地で育まれた私と彫刻の絆は、じっくり熟成させた分、長く続くと信じている。

活躍する卒業生

宮本 宗

在学中は、外に出てから制作を続けていくという具体的なビジョンがどうしても持てず、可能な限り大学に残ることばかり考えていましたが、今では場所を借りてアトリエを立ち上げ、自分のための作業場を手にできました。今のモチベーションを維持しているのは、恩師からの檄と、先輩方から学んだ技術や経験から得た自信です。

魚住 哲宏

私は他大学から愛知県立芸術大学の大学院に入学しました。その2年間の学びからグルグルグルと加速して、気がついたらベルリンに辿り着いていました。今でも制作中に母校で身につけた技術や着眼点が糧になっている事に気がつきます。遠く離れていてもしっかりと背中を押してくれている感じがする、そんな感じの大学です。

西岳 拡貴

大学での時間は、共に学ぶ友人や教授との会話をしっかり考えられる環境だったように感じます。一方で、自分に向き合いながらも、積極的に外の情報を取り入れていくことも必要であると思っていました。現在では県外での学生の活動をよく目にすることから、大学全体が美術教育に向き合っている体制が更に伝わってきます。

浅野 健一

在学中はとにかくよく遊んでいました。ゲームをしたり、漫画を読んだり、その頃始めた格闘技にも夢中でした。どうでもいい話をし、真剣に盛り上がれる仲間を持てたことがとても刺激的で幸せでした。そうした中で瞬間的にインスピレーションが浮かんだものです。大笑いして過ごした県芸時代が今でも僕にとって宝物です。

芸術学専攻
Art History, Art Theory and Conservation

■美術学部■美術科■芸術学専攻

専攻概要

芸術学専攻は、愛知県立芸術大学の美術学部におかれた理論系専攻として、実技学習との有機的連携をはかりながら、美術史・美術理論（日本美術史、西洋美術史、現代アート論、美学）および文化財学の研究と教育を行います。本専攻の目的は、美術史研究者や美術館学芸員、美術評論家や美術ジャーナリスト、文化財保存に関わる専門家などの育成を視野に入れた基礎教育の実践にあります。卒業に際しては、卒業研究（主として論文）を課します。

求められる学生像

○美術作品の鑑賞や制作に強い意欲と関心を持っている人。
○美術史、現代アート論、美学、文化財学等に関心の高い人。
○柔軟な感性と論理的な思考力を持ち、語学力にも優れている人。

教　員

伊藤 由美	ITO, Yumi	客員教授	油画保存修復・文化財学
中 敬夫	NAKA, Yukio	教　授	美学・芸術哲学
小西 信之	KONISHI, Nobuyuki	教　授	現代アート論
高梨 光正	TAKANASHI, Mitsumasa	准教授	西洋美術史・文化財学
本田 光子	HONDA, Mitsuko	講　師	日本美術史・文化財学

非常勤講師

秋庭 史典（美学）／安藤 正子（基礎実技・油彩画）／小山 昌宏（漫画論）／
佐藤 克久（基礎実技・現代アート）／杉田 敦（現代アート論特講）／
田中 元偉（基礎実技・素描・油彩）／中村 るい（西洋美術史特講）／
丹生谷 貴志（思想史・現代文化特論）／橋爪 節也（日本美術史特講）／
平岡 三保子（東洋美術史特講）／藤岡 譲（日本美術史特講）／
藤田 伸也（東洋美術史特講）／牧野 隆夫（文化財学特講）／
山田 諭（日本美術史特講）／山本 高之（基礎実技・現代アート）／
横川 耕介（基礎実技・古典技法）／渡辺 英司（現代造形研究）他

専攻サイト

http://art-h-t-c.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

1〜2年次においては、美術史・美術理論の基礎（日本美術史、西洋美術史、現代アート論、美学、文化財学の概説）および基礎実技（平面、立体、映像等）を学び、芸術を研究するための土台を培います。外国語の習得も、幅広い読書に加えて重要な課題となります。「芸術学総合研究」では、芸術学全教員による研究ガイダンス、および学生による課題研究の発表を行います。他に、「東洋美術史特講」「文化財学特講」「近代彫刻史」「映像表象論」「現代造形研究」「現代文化特論」等の授業も開講され、各自の関心に応じて研究の幅を広げることができます。3年次からは、各種の研究（原典講読）や文化財保存修復研究など、少人数のゼミ形式の授業が中心となり、より専門的な学習を行います。「古美術研究」（2・3年次合同）は、奈良・京都の古寺や博物館を訪ね、日本の美術の原点に触れます。また3年次では「プロジェクト研究」を課し、特定のテーマに絞った文献研究や学外での調査研究を通じて、卒業研究に向けた研究姿勢と方法論を養います。4年次には、各自の専門分野を確定し、4年間の学習の集大成として、指導教員のもとで「卒業研究」をまとめます。

美術学部専門教育科目・基礎教育科目

一年次

- 西洋美術史概説
- 日本美術史概説
- 現代アート概説
- 美学
- 文化財学概説
- 美術材料学

基礎実技Ⅰ
・素描、油彩、写真、日本画、彫塑、古典造形の基礎を学ぶ。

芸術学総合研究Ⅰ
・日本美術史、西洋美術史、美学、現代アート論、文化財学の学び方入門篇（前期）。関心ある芸術家を選び、研究発表を行う（後期）。

二年次

- 日本美術史特講・研究
- 西洋美術史特講・研究
- 美学特講・研究
- 現代アート論特講・研究
- 東洋美術史特講
- 文化財学特講

古美術特別研究
（隔年・３年次と合同）
・非公開寺院や町屋、文化財保存現場を中心に、奈良・京都で実地研究を行う。

基礎実技Ⅱ
・素描、油彩、映像、日本画、彫塑、古典造形の基礎をより深める。保存修復にすすむ人はさらに実技を学ぶことも可能。

芸術学総合研究Ⅱ
・関心あるテーマを選び、研究発表を行う。

三年次

- 日本美術史特講・研究
- 西洋美術史特講・研究
- 美学特講・研究
- 現代アート論特講・研究
- 文化財保存修復研究

- 工芸史
- 近代彫刻史
- 現代文化特論
- 映像表象論
- 情報美学
- 現代造形研究
- 色彩学

プロジェクト研究
・卒論を視野に入れ、特定のテーマに絞って学外での調査研究や文献研究を行い、研究姿勢と方法論を培う。

芸術学総合研究Ⅲ
・関心あるテーマを選び、研究発表を行う。

四年次

卒業研究
専攻分野を確定し、個別指導を受けながら卒業研究をまとめる。
模写・模刻作品＋研究報告でも可。

教職に関する科目
博物館に関する科目
・学芸員志望者は必修９科目を履修し、各地の美術館・博物館で実習を行う。

教養教育科目

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- 身体運動・健康科学
- 情報科学
- 心理学
- ほか

卒業後の進路

多くの卒業生が美術館や博物館の学芸員となり、また文化財修復の分野で活躍を始めています。また公務員になったり一般企業に就職する学生もいます。大学院への進学は本学をはじめ、専門に応じて全国の様々な大学院に進学しています。

［美術館・博物館等への就職］
愛知県公立大学法人／愛知県美術館／岐阜県立美術館／宮内庁三の丸尚蔵館／滋賀県立芸術劇場（びわ湖ホール）／瀬戸市美術館／多治見市美濃焼ミュージアム／名古屋ボストン美術館／兵庫県立美術館／宮城県立東北歴史博物館

［進学先］
愛知県立芸術大学大学院博士後期課程／愛知県立芸術大学大学院博士前期課程／大阪大学大学院修士課程／神戸大学大学院修士課程／京都大学大学院修士課程／多摩美術大学大学院修士課程／東京藝術大学大学院修士課程／東京藝術大学大学院博士後期課程／東京大学大学院修士課程／東京大学大学院博士後期課程／名古屋大学大学院修士課程／奈良大学大学院博士後期課程／奈良大学大学院博士前期課程

活躍する卒業生

松岡 未紗
岐阜県美術館学芸員

芸術学専攻を卒業後、東京藝術大学大学院の保存修復油画研究室へ進学、現在は美術館に勤めています。愛知芸大の芸術学専攻は少人数制で、美学・美術史以外に実技実習や文化財学の授業があるのが特徴です。私は油彩画の技法と保存について興味があったので、主研究領域の担当教員だけでなく油画専攻の先生からも指導していただきました。こうした専攻の枠を超えた、それぞれの研究に応じて専門性の高い指導を個別的に受けることができる環境は、学生にさらなる意欲や興味を引き出させていると思います。

塩津 青夏
愛知県美術館学芸員

芸術学では、美術史や現代アート論、そして美学まで、美術に関する幅広い知識を身につけることができます。自分の関心のある分野については、専門的な文献を読み、先生との1対1の指導のなかで研究を深めていきます。しかし芸術学の勉強は、なにも部屋にこもって、文献を相手にだけするものではありません。美術館やギャラリーの作品、そして実際に作品を制作している身近な学生とふれあいながら、美術について広く考えていきました。現在私が美術館の学芸員として仕事をするなかで、この芸術学で学んだことが、とても大事なものになっています。

堀尾 美紀
多治見市美濃焼ミュージアム学芸員

私は現在、岐阜県多治見市にある多治見市美濃焼ミュージアムという施設で働いています。その施設名の通り展示しているのは、多治見市を中心とした美濃のやきものです。今私がこうして学芸の仕事に就けたのも、愛知芸大での密な指導や、勉強に専念できる環境があったからこそ身に付いた、研究への姿勢や、その成果である論文が評価されたのだと思っています。社会人枠での入学でしたが、在学した４年間で多くのことが学べ、自分の可能性が開いたことにとても感謝しています。

古田嶋 智子
東京藝術大学大学院美術学部文化財保存学専攻 システム保存学助手
独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 研究補佐員

芸術学専攻では、文化財や保存修復に携わる様々な講義が設けられています。私はその中で「保存科学」という、美術作品などの保存を科学の側面から支援する学問に出会いました。その後、東京藝術大学大学院へ進学し、浮世絵に用いられた材料の分析や耐候性の研究を行いました。保存科学は、研究結果を美術史や修復などの分野へ還元する非常に連携分野の領域が広い学問で、興味はつきません。現在は、研究所で文化財保存に関する研究を続けています。これから芸術学で学ぶ皆様にも是非、自身の関心あるテーマをみつけ、深められることを願っています。

大久保 春野
東北歴史博物館学芸員

「人と美術の出会いを手助けする仕事がしたい」という思いから入学し、大学・大学院では特に日本美術史の「雨景表現」という未開拓の研究テーマを設定してそれを中心に美術の知識を深めてきました。特殊なテーマにも、先生方は興味を尊重し少人数学習による親身な指導で研究の道筋を示してくださいます。ともすれば興味が偏ってしまいそうですが、一方で様々な分野で芸術と向き合う学生さんたちとの交流からは常に新たな経験や視点を得、多角的に美術を見つめることができます。深く知ること、広く見ることを通して学んだ美術の魅力を伝え、今後は学芸員として自身の夢を実現していきたいと思います。

三輪 祐衣子
名古屋ボストン美術館学芸員

芸術学専攻は各学年5人という、少人数な専攻です。その分先生方との距離が近く、丁寧な指導を受けることができます。私の学生時代に、担当教員から言われた、特に心に残っている言葉があります。「美術でも何でも、学んだことはいつか社会に還元しなくてはいけない」という言葉です。学ぶことも、制作することも、とても楽しく、無我夢中で頑張れますが、それをどうやったら人の役に立てられるのか。大学では、知識を得るだけでなく、美術とどう向き合っていくのか、考えることができました。卒業後、私は美術館で働いています。展覧会をひらく一助となる仕事、これも、私が大学で学んだことを社会に還す一つの形だと思っています。

芸術学総合研究授業風景

芸術学総合研究授業風景

美術館見学

芸術学総合研究授業風景

基礎実技授業風景

基礎実技授業風景

基礎実技授業風景

デザイン専攻
Design

■美術学部■デザイン・工芸科■デザイン専攻

専攻概要

デザインは人の生活を創造性豊かに導き、快適で美しく、心地よいモノ、場、空間、情報等を、時代をふまえて社会へ提案する研究領域です。この専攻においては、視覚伝達デザイン、プロダクトデザイン、環境デザイン、メディアデザインの4つのデザイン領域を縦糸に、デザイン方法論や理論を横糸として、人々の多様な生活様相や先進的技術に対応できるデザイン概念の構築とそれを具現化する技術の修練としての実技を軸としたカリキュラムを構成しています。また、幅広い総合力のある人材育成を目的としてデザインの基礎教育の充実とともに、実技課題だけでなく、多様な専門領域の知識や技術の習得のために社会で活躍する各分野の専門家による講義や現場見学、調査等を行っています。特に近年では工業化社会から情報化社会そして循環型社会へと移行するなかでデザインの重要性が高まっていることから、新しい文化の創造性に貢献する方法や手法を審美的視点からさまざまなデザイン領域で研究活動を行っています。

教　員

鈴木 芳雄	SUZUKI, Yoshio	客員教授	クリエイティブディレクション
白木 彰	SHIRAKI, Akira	教　授	視覚伝達デザイン
中島 聡	NAKASHIMA, Satoshi	教　授	プロダクトデザイン
関口 敦仁	SEKIGUCHI, Atsuhito	教　授	デザイン理論、環境デザイン
水津 功	SUIZU, Isao	教　授	環境デザイン
柴崎 幸次	SHIBAZAKI, Koji	教　授	メディアデザイン
今尾 泰三	IMAO, Taizo	准教授	視覚伝達デザイン
石井 晴雄	ISHII, Haruo	准教授	メディアデザイン
森 真弓	MORI, Mayumi	准教授	メディアデザイン
夏目 知道	NATSUME, Tomomichi	准教授	環境デザイン
佐藤 直樹	SATO, Naoki	准教授	視覚伝達デザイン
本田 敬	HONDA, Takashi	准教授	プロダクトデザイン

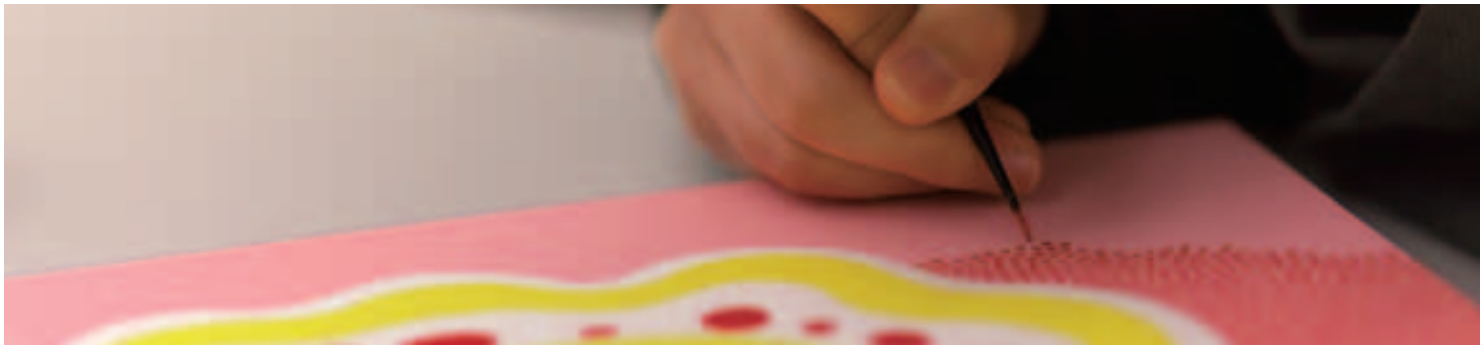
非常勤講師　約120名

求められる学生像

○自ら学び、考え、よりよく問題を解決しようとするチャレンジ精神旺盛な人。
○創造力、探求心、発想力が豊かな人。
○将来に渡ってデザインの世界にかかわる意志を持った人。

専攻サイト

http://design.aichi-fam-u.ac.jp/



カリキュラム

いろいろ学べる基礎課程

愛知芸大デザイン専攻では1年～ 2年前期は専門領域に分かれず、様々なデザインの基礎について全員で学びます。基礎からしっかり学び、いろいろな課題にトライすることで、将来何をやりたいかじっくり考えることができます。この間に、2年後期からの専門課程に備え、自分の個性を磨き、志向性を見極めます。

深く学べる専門領域選択制、幅広く学べる課題選択制

現在のデザインの世界では、従来のカテゴリーに縛られない新しいデザインのありかたや、特定のデザイン分野にかたよらない幅広い分野の知識や技術がもとめられるようになってきています。本学デザイン専攻では、2年後期～ 3年後期はデザインの4つの専門領域から自身の所属専門領域を選択するとともに、4つの専門領域から課せられる多様な課題を自らの志向性にあわせて選択することができます。所属する専門領域担当教員と常にコミュニケーションを図りながら、自分の将来像に相応しい能力を身につけるために、自らが主体となって学習計画を立案・実行することができます。「こうありたい自分」を教員と協働して創りだしていく、少人数教育ならではのシステムです。

美術学部専門教育科目

専攻科目

一年次

デザイン実技 I
- 観察・描写・造形／工房実習 I 、描写と画材、素材と立体造形、色彩と構成、構造と形、時間と表現
- 個から社会へ 共同／段ボール遊具
- 人体／立体造形の研究、塑像
- 編集／フィールドワークによる情報収集と編集
- 分析／ 1年間の活動情報収集、整理、分析、評価、ファイリング、明日への提言

二年次

デザイン実技 II
「ユニバーサルデザイン」＋プロダクトデザイン概論、「無形のデザイン」＋メディアデザイン概論、「ダイアグラム」＋視覚伝達デザイン概論、「個の空間」＋環境デザイン概論、セルフポートレート（学習プランの決定）

古美術研究

2年次後期から3年次後期までは、専門領域に分かれ、自分自身がやりたい課題を選択して、各専門領域の専門的な課題に取り組みます。

視覚伝達デザイン領域	メディアデザイン領域	プロダクトデザイン領域	環境デザイン領域
・印刷による表現 ・イラストレーション ・エディトリアル・レイアウト	・ストーリーをつくる ・フライヤー、ノベルティーグッズをつくる ・Web デザイン-1（html、CSS）	・立体表現技法演習 ・からくり玩具のデザイン〈静と動〉 ・動物園のデザイン	・椅子のデザイン ・ヒューマンスケール ・巨匠に学ぶ ・パブリックデザイン

三年次

視覚伝達デザイン領域	メディアデザイン領域	プロダクトデザイン領域	環境デザイン領域
デザイン実技 III ・文字のデザイン ・ポスターのデザイン ・広告のデザイン（紙媒体を主とする） ・編集のデザイン、絵本 ・パッケージのデザイン ・自己のデザイン	デザイン実技 III ・映像、CM ・Web デザイン-2（CMS） ・広告のデザイン（連動広告） ・編集のデザイン（フリーペーパーを企画する） ・展示計画 デザインマネージメント ・クロスメディア	デザイン実技 III ・あかりのデザイン（空間の演出） ・エコロジーとデザイン ・住宅機器のデザイン（道具と住環境） ・セラミックのデザイン ・公共のデザイン（海外連携課題） ・移動・運搬のデザイン	デザイン実技 III ・ショップデザイン ・椅子の制作（1） ・椅子の制作（2） ・ランドスケープデザイン ・住宅のデザイン ・コンセプトの視覚化

四年次

4年次前期は、専門領域に所属しながら、自分自身でテーマを決めて制作をおこないます。後期には卒業制作に取り組みます。

視覚伝達デザイン領域	メディアデザイン領域	プロダクトデザイン領域	環境デザイン領域
デザイン実技 IV ・視覚伝達研究1（自主研究） ・視覚伝達研究2（自主研究） ・卒業制作	デザイン実技 IV ・媒体研究1（自主研究） ・媒体研究2（自主研究） ・卒業制作	デザイン実技 IV ・プロダクト研究1（自主研究） ・プロダクト研究2（自主研究） ・卒業制作	デザイン実技 IV ・環境研究1（自主研究） ・環境研究2（自主研究） ・卒業制作

関連科目

○1年次
デザイン・工芸論
工房実習 I
立体造形の研究
○2年次
デザイン文化史特講
工房実習 II
デザインプレゼンテーション
○3年次
デザイン特講
素描及び色彩研究
○1・2年次
図学
○2・3年次
デザイン特殊ゼミ
○1年次以上
美術解剖学
学部共通関連科目
○2年次以上
色彩学

基礎教育科目

日本美術史概説
西洋美術史概説
美術材料学
現代アート概説
デザイン史

教養教育科目

英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
身体運動・健康科学
情報科学
心理学
芸術論
ほか

卒業後の進路

卒業生はメーカーやデザインプロダクション、CM制作、番組制作、広告代理店、広告制作会社、ゲーム、アニメーション、映画、webデザイン、グラフィックデザイン、編集デザイン、パッケージデザイン、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、カーデザイン、造園デザイン、イラストレーション、タイプデザイン、画家、公務員、造形作家、漫画、フリーランスデザイナーなどの多様な分野や職種で活躍しています。また博士課程などへの進学の道もあります。

[主な就職先]
キャノン、コクヨ、サントリー、サンリオ、GKデザイン機構、資生堂、シャープ、スズキ、セイコーエプソン、ソニー、竹中工務店、電通、東芝、凸版印刷、TOTO、トヨタ自動車、日建設計、日産自動車、日本楽器（ヤマハ）、博報堂、ポーラ化粧品、本田技研、マツダ、松下電器産業、三菱電機、カヤック、クリークアンドリバー、大広、マッドハウス、サンライズ、タキ工房、新東通信、葵プロモーション、電通テック、TYO、HAT、スプーン、ビジネスアーキテクツ、パイクデザイン、コナミ、フロムソフトウェア、ディアルソリューション、テレビ朝日クリエイション、メナード化粧品、リクルート、ワコール、文藝春秋社、NHK、ヤマギワ、アクシス、タカラ、マキタ、フレーベル館、郵政省、アルペン、大日本印刷、シマノ、生活の友社、ブラザー、リンナイ、パロマ、TBS等多数

[進　学]
愛知県立芸術大学大学院博士前期課程（修士）／大学院博士後期課程（博士）

活躍する卒業生

鈴木 功
タイプデザイナー
1991年デザイン専攻卒業。2001年タイププロジェクト設立、同代表。2003年「AXISフォント」をリリース、同年のグッドデザイン賞を受賞。2007年「ドライバーズフォント」を発表、2009年のグッドデザイン・フロンティアデザイン賞を受賞。2010年「金シャチフォント」を発表、名古屋弁カルタに採用。文字の可能性を拡げるべく、書体開発を軸に独自性の高い先進的な取り組みを行なっている。

いしづか あつこ
アニメーション監督・演出
2004年デザイン専攻卒業、株式会社マッドハウス所属、演出参加作品は『MONSTER』『NANA』『魍魎の匣』など多数。代表作は、NHKみんなのうた『月のワルツ』『SUPERNATURAL:THE ANIMATION』『さくら荘のペットな彼女』など。他に、ゲーム『ペルソナ４ ザ・ゴールデン』『ペルソナ４ ジ・アルティメット イン マヨナカアリーナ』のオープニングムービーやアニメイラストも手がける。

長屋 明浩
インダストリアルデザイナー/カーデザイナー
1983年デザイン専攻卒業。トヨタ自動車（株）入社。～1991年初代レクサスLS400／セルシオ担当。1994年～アリスト、セルシオ、ハイラックスサーフ／4Runnerなど開発指揮。2000年12月～（株）テクノアートリサーチ、プリウス担当。2003年１月～レクサス企画部レクサスブランド企画室長国内レクサス立ち上げ、グローバルレクサスブランド構築に従事。2006年１月～デザイン開発部長としてすべてのカラーデザイン、ロボット、舟艇などを開発。2010年１月～トヨタデザイン部長、すべてのトヨタブランド製品化デザインを指揮。2013年６月～（株）テクノアートリサーチ代表取締役社長。2014年１月～ヤマハ発動機（株）デザイン本部（本部長前提）出向。

加藤 芳夫
クリエイティブディレクター
1979年デザイン専攻卒業。サントリーデザイン部長を経て、現在食品事業部 ブランド戦略部 シニアスペシャリスト／クリエイティブディレクター。「ボス」「なっちゃん」「DAKARA」「C.C.レモン」など、同社の飲料パッケージディレクションを数多く手がけ、さまざまなデザイン賞を受賞。パッケージデザインの一連の功績により、2012ペントアワード名誉賞受賞・日本人初の殿堂入りを果たした。

橋本 夕紀夫
インテリアデザイナー
1986年デザイン専攻卒業。スーパーポテト入社。1996年橋本夕紀夫デザインスタジオ設立。2002年第9回空間デザインコンペティション　銀賞受賞始め受賞歴多数。主な作品：1996年 軍鶏匠、1999年cafe鈴木、2000年 過門香、2003年 相田みつを美術館、2006年 CHANTO New York、ザ・ペニンシュラホテル東京

黒柳 勝喜
CMディレクター
2003年デザイン専攻入学。2007年（株）AOI Pro.入社。2008年ギャラクシー賞選奨受賞。2009年ヤングカンヌクリエイティブコンペ国内選考シルバー

AC JAPAN 世界の医療団 TVCM

受賞。12年JACリマーカブルディレクターオ ブザイヤー グランプリ受賞。主なTVCMの仕事にBMW JAPAN MINI,ACジャパンなど多数。

稲生 淳子
インテリアデザイナー
1996年デザイン専攻入学、1999年渡伊。2001年Istituto Europeo di Design Milano 卒業後、同年TEAM IWAKIRI s.r.l入社。2006年より帰国し、マセラティ・ディーラー開発のCIアーキテクトとしてインテリアデザインを担当。主に企業ブランディングやCIデザインを基盤としたデザインに取り組む。

多湖 賢司
プロダクトデザイナー
1984年デザイン専攻卒業、株式会社本田技術研究所に入社。現在まで２輪のデザインに携わる。世界各国の様々なスクーターやモーターサイクルを手がけ、その地域ごとのお客さんが喜んでもらえるモノは何か、他社とは違う新しい魅力のデザインするため日々頭を悩ましている。

STOMACHACHE.
SHOES

陶磁専攻
Ceramics

■美術学部■デザイン・工芸科■陶磁専攻

専攻概要

陶磁器は、人々が日常必ず手にする身近な工芸でありデザインです。本学陶磁専攻は、永い伝統と多様な技術力を有する瀬戸・常滑・美濃などの産地を背景とし、創作を展開できる恵まれた環境にあります。立地条件の利と充実した教育設備を生かし、人の暮らしを見据えた陶磁の在り方を模索し、その創造に積極的に関与する人材の育成を目標としています。「用の美」を教育理念とし、暮らしの中の陶磁、建築陶磁など分野を超えて陶磁素材の可能性と表現の自由を探求すべく、陶磁の基本を積み上げながら学生個々の能力を研鑽し、次代をになう人材の教育に全力をあげて取り組んでいます。

求められる学生像

○日常生活に関わる陶磁器に関心があり向学心旺盛な人。
○自分の思いをかたちにしていく創作意欲のある人。
○陶磁素材の可能性と表現を探求する意欲のある人。

教　員

小松 誠	KOMATSU, Makoto	客員教授	陶磁器デザイン
太田 公典	OTA, Kiminori	教　授	陶芸
友岡 秀秋	TOMOOKA, Hideaki	教　授	陶磁器デザイン
梅本 孝征	UMEMOTO, Takayuki	教　授	陶芸
長井 千春	NAGAI, Chiharu	准教授	陶磁器デザイン
田上 知之介	TAGAMI, Tomonosuke	准教授	陶磁器デザイン
佐藤 文子	SATO, Fumiko	准教授	陶芸

非常勤講師

榎本 徹／木村 利壽／弓場 紀知／工藤 省治／小林 繁樹／唐澤 昌宏／中島 晴美／中澤 富士雄／新田 つぎ／林屋 晴三
他62名

専攻サイト

http://ceramics.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

1年次は陶磁器制作に必須の基礎造形力の養成を、2年次は陶磁器制作における基礎技法の修得をそれぞれ目標としており、3年次から「陶芸コース」と「陶磁器デザインコース」に分かれて制作を行います。

陶芸コース

湯呑から大皿、大壷までのロクロ成形と鉄絵、染付などの絵付けを習得します。土や釉薬の研究では、藁を焼いて釉薬を作り、薪窯を焚いたり、作陶における基本を大切に学びます。

陶磁器デザインコース

日本最大の陶産地に位置する陶磁教育機関として「産地に恵まれ、産地を育むデザイナー」の養成を目指します。学生は、デザイン基礎、造形、陶磁技法などの基礎課題を学びながら、個々の創造性を啓発し、今日の生活空間における陶磁器の新たな可能性を考えます。

美術学部専門教育科目

専攻科目

一年次

陶磁実技Ⅰ
ロクロ成形の基礎：ロクロ成形の基本を学ぶ。
つくる（自然をつくる）：身近な自然をモチーフに、粘土で立体作品を制作する。自然から得る面白さや感動を大切にする。
器の調査：身近にある、普段使っている器を調査し、研究することで器に対す意識を再構築する。
筆を使って描く：陶磁器の絵付けに欠かせない筆の扱い方の基本を学ぶ。
石膏技法の基礎：石膏型による陶磁器制作のための、石膏及び石膏ロクロ技法を基礎から学ぶ。
屋外スケッチ：植物などのスケッチを通じて、個々の感性を磨き、陶磁器の絵付けや装飾文様を独自に創る基礎を習得する。
湯のみ・飯碗：ロクロ成形技法の基本として、湯呑みと飯碗を制作し、陶芸に必要な基本を学ぶ。
首（テラコッタ）：首の塑造から、石膏型によるテラコッタ制作をする。造形力の基礎を身につけ、型による張り込み技法を学ぶ。
テクスチュアの採集と表現：レリーフを成形する。

二年次

陶磁実技Ⅱ
ユニットによる造形：ユニットの制作を通じて、泥しょう鋳込み技法を習得する。
筆による描写：筆と墨を使い、陶芸の絵付け技法の基礎となる筆の扱い方を習得する。
組鉢：ロクロ成形により、鉢を揃えて制作する。器のもつ機能や目的を研究し、ロクロ成形技法と鉄絵による絵付け技法の基本を習得する。
加飾とデザイン：ロウ抜き、型紙、象嵌、紙染めなど、様々な加飾技法を学ぶ。
磁器に染付：ロクロ成形による磁器の制作（皿・鉢）と染付けによる絵付け技法の基本を学ぶ。
トルソー：トルソーの塑像制作から、立体造形力の基礎を磨く。

三年次

陶磁実技Ⅲ［陶芸］
器〈形体と装飾〉
大皿〈絵付け技法〉
壷〈絵付け技法研究〉
花器〈天然原料と薪窯焼成技法の研究〉
〈装飾技法〉
注器
合同講評

陶磁実技Ⅲ［陶磁器デザイン］
30ヶ造形・注器〈押し型成形〉
タイル〈圧力成形〉
シルクスクリーン（転写）実習
ポット〈泥しょう鋳込み〉
デザイン基礎3〈産学連携課題他〉
合同講評

学外研究

陶磁特別実技Ⅰ

四年次

陶磁実技Ⅳ［陶芸］
成形実技
形体による成形技法の研究
器の研究（午前）
自由研究（午後）

陶磁実技Ⅳ［陶磁器デザイン］
デザイン基礎4

陶磁特別実技Ⅱ

卒業制作（各自のテーマによって制作する。）

関連科目

○1年次
陶磁史Ⅰ
デザイン・工芸論
工房実習Ⅰ
立体造形の研究
○2年次
陶磁史Ⅱ
工房実習Ⅱ
○3年次
陶磁原料学Ⅲ
陶磁論
素描及び色彩研究
○2・3年次
デザイン文化史特講
○1年次以上
美術解剖学
図学
学部共通関連科目
○2年次以上
色彩学
○3年次以上
デザイン特講

基礎教育科目

日本美術史概説
西洋美術史概説
美術材料学
現代アート概説
デザイン史

教養教育科目

英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
身体運動・健康科学
情報科学
心理学
芸術論
ほか

卒業後の進路

卒業後は、陶磁器デザイナーとして就職したり、陶芸家として各地で精力的な発表活動をしています。また博士課程などへの進学や留学の道があります。

［教　員］
愛知県立瀬戸窯業高等学校、同専攻科、明星大学、佐賀県立有田窯業大学校、他小・中学校・高等学校

［就職等］
愛知県陶磁美術館、岐阜県陶磁器試験場、瀬戸市染付工芸館、瀬戸市新世紀工芸館、土岐市陶磁器試験場、アクティブG匠工房、ノリタケカンパニー・市原製陶、大蔵陶園、昭和製陶、スタジオM、セラミックジャパン、多治見意匠研究所、たちきち、鳴海製陶、ミヤオカンパニー、メイドインジャパン、山加商店等、その他陶芸家、デザイナー多数

［進学／留学等］
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程、中部工業大学博士課程、筑波大学博士課程、Burg Giebichenstein Kunsthochschule Halle（ドイツ）他アメリカ、スウェーデン

活躍する卒業生

大谷 昌拡

愛知県立芸術大学 非常勤講師
瀬戸市染付工芸館指導員
東京、名古屋、大阪、岐阜などの個展・グループ展や公募展で発表を行っている。

古林 恭子（樋木崎 恭子）

陶磁器メーカーで社内企画商品からブランド品に至るまでの開発に従事。

小枝 真人

愛知県立芸術大学 非常勤講師
東京、名古屋を中心に個展・グループ展や公募展で発表を行っている。

イ・キョンミン

Burg Giebichenstein
Kunsthochschule Halle（ドイツ）
留学中
sterwaldpreis 2014（ドイツ）受賞
ヴェスターヴァルド陶芸賞　デザイン部門賞

竹村 友里

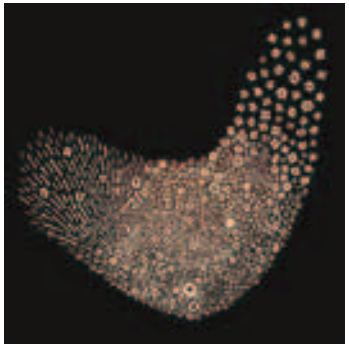
愛知県立芸術大学 非常勤講師
第８回パラミタ陶芸大賞展ノミネート

福島 由子

愛知県陶磁美術館 陶芸指導員
東海伝統工芸展入選の他、名古屋を中心にグループ展などで発表を行っている。

榊原 扶美

愛知県立芸術大学 非常勤講師
平成24年度大学院オペラ舞台美術制作と瀬戸内国際芸術祭2010における「MEGI HOUSE - 陶器によるエントランスデザイン」制作に携わる。名古屋を中心に個展などで発表を行っている。



小形 こず恵

東京、名古屋を中心に個展・グループ展や公募展で発表を行っている。

薪窯の焼成

仕上げ

ろくろ成形

鋳込み成形

石膏ロクロ技法による原型制作

粘土練り

絵付け

講評会

ドキドキの窯出し

音楽学部
Faculty of Music

音楽科 Department of Music

- 作曲専攻 作曲コース Composition (Composition)
- 作曲専攻 音楽学コース Composition (Musicology)
- 声楽専攻 Voice
- 器楽専攻 ピアノコース Instrumental Music (Piano)
- 器楽専攻 弦楽器コース Instrumental Music (Strings)
- 器楽専攻 管打楽器コース Instrumental Music (Winds and Percussion)

音楽学部

目的 Purpose

音楽学部（音楽科）は、自立的な判断力に富み、創造的な能力に優れた人間形成を理想として、それぞれの専門について高度な知識と技術、技能を身につけるための教育をおこない、作曲家や、音楽に携わる人材、また声楽家、ピアノ、弦楽器、管打楽器の演奏家、それらの指導者、教育者、研究者等の育成を目的とする。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

豊かな感性と際立った個性、理論と技術の良好なバランス等をそなえ、音楽表現意欲が旺盛な学生を求めています。又、将来、この地域はもとより、国際的視野にたった幅広い芸術・研究活動の展開を目指すような、高邁且つ明確な目的意識と強い気概をもった学生を望んでいます。磨かれた感性、整えられた知識、練られた技術が感動を生み出します。

作曲専攻
作曲コース
Composition (Composition)

■音楽学部■音楽科■作曲専攻■作曲コース

専攻概要

作曲家は「音」を素材として作品を創造するクリエイターですが、同時に様々な領域をつなぐインターフェイス的側面ももっています。多くの場合、音楽作品は楽譜（五線紙）というメディア（媒体）を介して演奏家によって聴衆に届けられるという形をとります。つまり音楽の領域内でも、作曲家は様々なジャンルの演奏家とのコラボレーションをすることが常に要求されているわけです。さらに最近では楽譜を経由せずにコンピューターの使用により直接「音」をメディア化できるようになったことで、美術や舞踊、映像などとのコラボレーションが盛んに行われるようになってきています。このような状況をふまえ、作曲コースでは、まず和声法や対位法、楽曲分析法、楽器法、オーケストレーションなどの西洋芸術音楽の方法論で音楽的基礎力を養います。その上で世界の先端的音楽の分析法や他領域とのコラボレーションの仕方、邦楽・民族音楽へのアプローチ方法、現代社会とアートの関わり方などについて研究していきます。当コースでは学生によって制作された作品について、実際に音にする機会を学内外に大変豊富に設けています。そのような場を数多く経験することが、将来作家として立つために何よりも役に立つでしょう。このような音出しの機会の前後には徹底した個人指導やゼミが行われ、実際の作家活動に必要なノウハウを得ることができます。

教　員

寺井 尚行	TERAI, Naoyuki	教　授	作曲
久留 智之	HISATOME, Tomoyuki	教　授	作曲
小林 聡	KOBAYASHI, Akira	教　授	作曲
山本 裕之	YAMAMOTO, Hiroyuki	准 教 授	作曲

非常勤講師

鈴木 宏司／岩本 渡／小井 洋明／小島 千加子／遠藤 秀安／大河内 俊則／柴田 恭男／小櫻 秀爾／成本 理香／板倉 ひろみ／牛島 安希子／高木 彩也子／武野 晴久

求められる学生像

○創作研究に対する、謙虚且つ積極的な姿勢を持っている人。
○感性、知性、表現力、独創性、柔軟性、好奇心、国際性等を持っている人。
○音楽の創作において必要な基礎的能力を身に付けている人。

専攻サイト

http://composition.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

作曲コースでは、徹底した個人指導を中心にカリキュラムが組まれています。そこでは時代やジャンルを問わず様々な音楽の分析（アナリーゼ）や音楽理論を学びつつ、即実践である創作（作曲）へ応用し、グループ・ゼミなどで検証していきます。当然数多くの作曲作品の音出しの機会が設けられています。例えば学部新入生には7月に行われているオープンキャンパスでピアノ作品が実際に一般聴衆を前にして演奏されるという場が設定されています。入学後から次々と設定されている作品提出と演奏会をこなしていくだけでも、息をつかせぬ充実した日々を送ることになるでしょう。

	音楽学部専門教育科目							基礎教育科目	教養教育科目
	専攻科目・関連科目								
一年次	作曲研究Ⅰ ・ピアノ独奏曲 ・ピアノ変奏曲 ・ピアノ以外の楽器を含む二重奏曲（ソナタ形式）	作曲理論Ⅰ ・作曲の基礎 ・DTM	楽曲分析Ⅰ ・和声学と楽式論の観点による古典音楽の分析	ソルフェージュA、B ・基礎的な聴音、初見視唱、様々な音楽の仕組みや形を把握する力を養う	ピアノ奏法Ⅰ ・充実した個人レッスンにより、ピアノ奏法の基礎を学び、ピアノ作品またはピアノという楽器を知る。	指揮法 キーボードハーモニー 楽器研究（弦・管打）Ⅰ	合奏／日本音楽史概説／西洋音楽史概説	日本音楽史概説 西洋音楽史概説	英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
二年次	作曲研究Ⅱ ・弦楽四重奏曲 ・声楽曲（合唱曲を含む。） ・様式研究	作曲理論Ⅱ ・フーガ	楽曲分析Ⅱ ・古典から現代までの作品を分析し、創作活動に役立てる。	ソルフェージュC ・音楽表現や聴音について、様々なケースに対応できるような力を養う。 ソルフェージュD		スコアリーディング 楽器研究（弦・管打）Ⅱ ・管打楽器アンサンブル及びウィンドバンドへの編曲・試演	ピアノ奏法Ⅱ／コンピュータ音楽／日本音楽演習／音楽史特講／音楽教育論／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アート・マネジメント／音楽芸術言語	音楽学概説	
三年次	作曲研究Ⅲ ・自由曲 ・オーケストラ作品（1管編成以上）	作曲理論Ⅲ ・オーケストレーション ・トランスカルチュラルミュージックセオリー				楽器研究（弦・管打）Ⅲ	ピアノ奏法Ⅲ／声楽／合唱／音楽学特講／オペラ総論／音楽特講／音声学／楽器学／楽書講読（英）Ⅰ／ピアノ指導法／楽器研究（鍵盤）Ⅰ／音楽学概説		
四年次	作曲研究Ⅳ ・自由曲＝卒業作品	作曲理論Ⅳ ・コンピュータ音楽 ・ライブエレクトロニクス ・複合芸術	学内発表			楽器研究（弦・管打）Ⅳ	ピアノ奏法Ⅳ ／ 楽書講読（英）Ⅱ／楽器研究（鍵盤）Ⅱ		
	卒業作品								

卒業後の進路

［就職等］
作曲家・編曲家、指揮者多数、団体・企業等:愛知県文化振興事業団、ヤマハ（株）、（株）カワイ楽器製作所、コナミ（株）

［教　員］
愛知県立芸術大学、愛知県立大学、名古屋市立大学、兵庫教育大学、九州大学、福岡教育大学、昭和音楽大学、名古屋芸術大学、名古屋経済大学、椙山女学園大学、松阪大学、京都女子大学、くらしき作陽大学、四国女子大学、活水女子大学、全国の高等学校、中学校等

［進　学］
愛知県立芸術大学大学院

［留学等］
フランス国立高等音楽院、エコール・ノルマル音楽院、リヨン音楽院、ベルリン音楽大学、ミュンヘン音楽大学、アムステルダム音楽院、コロンビア大学等

活躍する卒業生

藤掛 廣幸
1973年　大学院（作曲専攻）修士課程修了。国際エリザベート音楽コンクール第1位グランプリ受賞。

中村 滋延
ドイツ政府給費生として留学を経て、1977年大学院（作曲専攻）修士課程修了。現在、九州大学大学院教授として、工学技術のアート・デザインへの応用に関する教育活動に従事。作曲活動も活発で作品数は100曲を超える。研究活動は「映画の音」に関することで、著述も多い。

斉木 由美（和田 由美）
1988年　作曲専攻（作曲）卒業。
パリ・エコール・ノルマル音楽院作曲科卒業。パリ国立高等音楽院作曲科卒業。日本音楽コンール第2位、第15回芥川作曲賞受賞。

西野 淳
1990年　作曲専攻（作曲）卒業。
1990年　洗足学園大学付属指揮研究所 マスターコース修了。ミュージカル界で指揮者としても活躍している。

長崎 貴洋
メンデルスゾーン音楽大学（ライプツィッヒ）オペラ、歌曲伴奏科およびピアノ科ディプロマコース在学中。ヘルムート・リリンクのマスターコース・オーディションに合格し、ゲッヒンガーカントライ、バッハコレギウム シュトゥットガルト指揮、伴奏者、コレペティトゥーア、室内楽奏者として活躍中。

伊藤 美由紀
愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了。コロンビア大学で作曲をトリスタン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAMにて研鑽を積む。『時の砂』がALCD80からリリース。現在、名古屋芸術大学、千葉商科大学非常勤講師。

河出 智希
作詞作曲グループ「BOUNCEBACK」の作曲担当。エイベックス・マネジメント所属作家として、J-POP界で活動。おもな作品提供アーティストは、浜崎あゆみ、AAA、EXILE、AKB48、前川清、Hey!Say! JUMP、など。

水野 みか子
作曲と音楽学で活動中。欧米での作品発表に加えて、近年は北京に毎年行って作品発表・研究発表を行っています。電子音楽を音楽学の視野で研究する仲間が最近増えました。若者たちと音楽系メディア芸術やメディアデザインの可能性を模索中。名古屋市立大学芸術工学研究科教授。

1	2
3	4
5	6

1. 音楽学部棟録音室の様子
2. 愛知芸術文化センターとの協同企画　連続講座「ケージを知る」Vol. 1　ワークショップ「リビングルームミュージック」
3. 2014年度のアーティスト・イン・レジデンス事業　作曲家アクセル・ルオフ氏の講演
4. 2014年度のアーティスト・イン・レジデンス事業　「アクセル・ルオフの世界」終了後の舞台で
5. 愛知芸術文化センターとの協同企画　連続講座「ケージを知る」Vol. 2　レクチャー＆コンサート　「クレド・イン・アス」徹底解剖
6. 作曲家　ジャク・ボディ氏を招いた公開レッスンなどのアーティスト・イン・レジデンス事業

作曲専攻
音楽学コース
Composition (Musicology)

■音楽学部■音楽科■作曲専攻■音楽学コース

専攻概要

本コースは、音楽の学問的研究およびそれに関連した業務に携わる意志をもつ人材の育成を主目的として、平成6年度に学部と大学院（修士）が同時に設置されました。そして、平成21年度には博士後期課程が新設され、学部から博士前期課程および後期課程に至るまで、内外の優れた人材を受け入れる体制が整備されました。授業は音楽学の専門科目（学部の音楽学研究、博士課程前期の音楽総合研究、博士課程後期の博士研究指導）を中心にして行われ、英語、ドイツ語、フランス語など外国語の修得も重視されています。また、音楽の実技や理論を幅広く学び、音楽の実践に密着した研究を展開することができます。在学中には音楽学部の演奏会のプログラム解説の執筆、特別講座などコース内の諸活動にも参与し、実践的な研鑽を積み重ねていきます。

教　員

増山 賢治	MASUYAMA, Kenji	教	授	音楽民族学
井上 さつき	INOUE, Satsuki	教	授	西洋音楽史
安原 雅之	YASUHARA, Masayuki	教	授	西洋音楽史

非常勤講師

黄木 千寿子／大月 淳／小沢 優子／都築 裕治／野村 倫子／野村 峰山／野村 祐子／原 潮巳／深堀 彩香／福田 宏／エドガー・ポープ／村瀬 香／森本 頼子／山口 真季子／山本 百合子

求められる学生像

○音楽に対する知的好奇心をもっている人。
○音楽を研究する上で必要な基礎的能力を備えている人。
○芸術に対する豊かな感受性をもっている人。

専攻サイト

http://musicology.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

本学の音楽学コースでは、学部から博士後期課程に至るまで少人数であることを生かしたゼミ形式によるキメの細かい教育を行っています。学部では、1年次、2年次で音楽学の基礎を学び、3年次から各自の卒業論文の作成に取り組み、4年次で卒業論文を完成させます。

卒業後の進路は、一般および音楽関連企業組織への就職、教職（中高）、国内外への進学などさまざまです。

音楽学部専門教育科目・基礎教育科目

一年次

- 音楽学研究I AB
  - ・音楽学のさまざまな方法論を学ぶ。
- 楽書講読（英語）I A・B
  - ・音楽に関する英語のテキストを精読する。英語のリーディング・スキルを身につける。
- ソルフェージュA、B
- 和声 I
- ピアノ奏法 I

二年次

- 音楽学研究II AB
  - ・音楽学のさまざまな方法論を学ぶ。
- 楽書講読（英）II A・B
  - ・英語の読解力を向上させる。
- 楽書講読（独または仏）
  - ・初級の履修を終えた外国語のテキストを精読する。
- ソルフェージュC、D
- 和声 II
- ピアノ奏法 II

三年次

- 音楽学研究III AB
  - ・各自の研究テーマを設定し、研究を進める。
- ピアノ奏法 III

四年次

- 音楽学研究IV AB
  - ・各自の研究を進め、卒業論文をまとめる。
- 学内発表
  - ・卒業論文の中間発表を行なう。
- ピアノ奏法IV

卒業論文

西洋音楽史概説A・B
・西洋音楽史の基礎を学ぶ。

音楽学概説
・音楽学へのイントロダクション。さまざまな研究方法について学ぶ。

音楽史特講a・b・c・d・e
・さまざまな視点から音楽史を学ぶ。

日本音楽史概説
・日本音楽の基礎を学ぶ。

音楽民族学概論
・アジア諸地域の伝統音楽を中心に、基本知識を習得し、アジア音楽を理解する。

ポピュラー音楽概論
・ポピュラー音楽を「文化現象」として捉え、考察する。

など

楽器研究I・II・III・IV
音楽教育論
音楽心理学
音楽療法
オペラ総論
アート・マネジメント
楽書講読
音楽芸術言語
合奏
キーボードハーモニー
アンサンブル特講
スコアリーディング
コンピュータ音楽
指揮法
合唱
楽式論
対位法
楽器学
管弦楽法
楽曲分析
楽曲研究
ほか

教養教育科目

英語
ドイツ語
フランス語
イタリア語
身体運動・健康科学
情報科学
心理学
芸術論
ほか

卒業後の進路

［就職等］
北九州市芸術文化振興財団音楽事業課、愛知県文化振興事業団、長久手市文化の家、愛知室内オーケストラ事務局、しらかわホール、ヤマハ音楽振興会、新国立劇場運営財団、豊橋市役所、トヨタ紡織、秀英予備校 等

［教　員］
ノース・カロライナ大学グリーンスボロ校、愛知県立芸術大学、名古屋市立山田高等学校、愛知県立三好高等学校、東京都立特別支援学校 等

［進　学］
愛知県立芸術大学大学院、国内外の大学院 等

［留学等］
カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、コロンビア大学大学院、イーストマン音楽院大学院、ロンドン大学大学院、モンペリエ大学大学院、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学ライプツィヒ、プラハ音楽院、オスロ大学大学院

＊ここに紹介されているうち、5名のみなさんへのインタビュー記事と、現在パリ・ソルボンヌ大学に留学中の七條めぐみさんの「留学生からの報告」が、音楽学コースのHPに掲載されています。

在学生の声

七條 めぐみ

私は現在、大学院博士後期課程に在籍して「アムステルダムの楽譜出版によるフランス・バロックオペラの加工の実態」というテーマで研究を進めています。もともとはピアノコースの出身ですが、学部2年生の時から音楽学の授業に出席し、大学院から音楽学コースの学生として勉強しています。また、2013年10月からはパリ＝ソルボンヌ大学の博士課程にも登録して、「コチュテル（博士論文共同指導）」という制度のもとで論文を執筆しています。

私が研究の道に進むことになった大きなきっかけは、ドイツ語とチェンバロとの出会いです。どちらも、「外国語といえば英語、鍵盤楽器といえばピアノ」と当たり前に思っていた私に、「世界はそれだけじゃないよ」と教えてくれたものたちです。それ以来私は、音楽史は必ずしも一通りではないし、疑問の持ち方によっていろいろな見え方があると気づいて、独自の視点で音楽史を見つめ直してみたいと思うようになりました。

パリでの研究生活は試行錯誤の繰り返しですが、たくさんの未知なるものとの出会いや、先生方・仲間たちとの意見交換は何にも替えがたい経験になっています。もうすぐ留学を終えて帰国するので、あとは博士論文の完成に向けて一直線に頑張ります。

活躍する卒業生

籾山 陽子

東京大学文学部言語学科卒業。富士通にて自然言語処理の研究に従事。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学領域）を経て、博士後期課程（音楽学）修了。2012年度に博士号（音楽）を取得。

現在、名古屋大学情報文化学部非常勤講師。コーラス「結」、東山小および東星中PTAコーラス部指揮者。日本基督教団金城教会オルガニスト。3男の母でもある。

大西 たまき

東京藝術大学卒業後、トヨタ自動車に勤務。愛知県立芸術大学院音楽研究科修士課程音楽学専攻、コロンビア大学院芸術経営学科修了。オルフェウス室内管弦楽団、カーネギーホール等を経て、1999年から2004年、全米公共テレビ放送ニューヨーク局資金調達部に勤務。インディアナ大学博士（フィランソロピー、起業論、組織論）。現在、ノースカロライナ大学（グリーンズボロ校）政治学部アシスタント・プロフェッサーとして、公共経営大学院生にNPO経営、ファンドレイジング、社会起業論を教える。

松宮 圭太

京都府出身。愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻音楽学コース卒業、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻修了後、渡仏。パリ国立高等音楽院作曲科高等第一課程、高等第二課程修了。2011年、フランス国立音響音楽研究所（IRCAM）にて作曲研究員を務める。現在、パリ国立高等音楽院分析科高等第二課程に在籍。武生作曲賞受賞（2010年）、サントル・アカント入選（2011年）。

大戸 薫

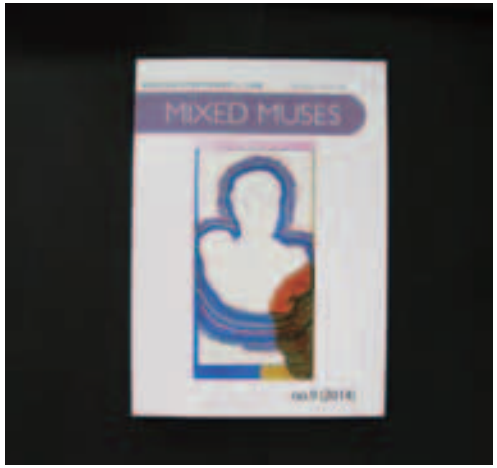
愛知県立芸術大学音楽学部ピアノコース卒業、修士課程音楽学専攻修了後、渡仏。モンペリエ第三大学にて論文『ジョルジュ・オーリックと映画音楽』を提出し、博士前課程・専門研究課程修了証書（DEM）取得。同時にフランス地方国立音楽院にて室内楽とソルフェージュの一等賞（プルミエ・プリ）を取得。2003年より伴奏ピアニスト、ピアノ教師としての仕事を行うようになり、フランスにおける労働許可証を取得。モンペリエ国立オペラ座ならびに国立管弦楽団ピアニストを務める。

大野 悠子

愛知県出身。愛知県立明和高等学校普通科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース卒業。同大学院音楽研究科修士課程（音楽学領域）修了。2009 年より12年まで、長久手市文化の家事業係として、おもに音楽分野の教育普及事業に取り組む。2009年より、一般社団法人愛知室内オーケストラの専任事務局員。2011年より、同オーケストラ理事。

森本 頼子

愛知県出身。桜丘高等学校音楽科ピアノ専攻卒業。愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻音楽学コース卒業。同大学院音楽研究科修士課程（音楽学）を経て、博士後期課程（音楽学）修了。「シェレメーチェフ家の農奴劇場におけるトラジェディ・リリック上演」をテーマとした博士論文により、2014年度に博士号（音楽）を取得。現在、愛知県立芸術大学および金城学院大学にて非常勤講師を務める。



1	2	
3	4	
5	6	7

1. 音楽学コース特別講座（レクチャーコンサート）フライヤー「日本のヴァイオリン王　鈴木政吉の幻の名器をめぐって」2014年5月10日愛知県立芸術大学室内楽ホール
2. 特別研究ゼミでのイーヴ・フェラトン教授の講演（2015年2月18日）

3.4. 「音楽学研究Ⅰ」授業風景

5. 総合ゼミで研究発表する台南芸術大学からの短期留学生（2014年11月13日）
6. ドクトラルレクチャーで発表する博士課程の学生（2015年2月6日、サテライトキャンパスにて）
7. 音楽学コース紀要『ミクスト・ミューズ』（年1回発行）

声楽専攻
Voice

■音楽学部■音楽科■声楽専攻

専攻概要

声楽専攻では、長年に渡って、国内外に活躍する歌手を数多く輩出して参りました。現在も、演奏家として国際的評価の高い外国人客員教授を含めた、豊富な経験を有する教員により、次期世代の育成が全力を挙げて行われ、毎年、将来を嘱望される卒業生を世に送り出しています。

本専攻は、豊かな心を持ち、幅広い教養と高度な専門性を身に付けた声楽家、音楽分野の指導者の育成を目的としています。そのため、それぞれの学生が自らの感性を養うと同時に、確かな演奏技術を習得できるよう、学部1年次から個人レッスンによる、きめ細やかな専門実技の指導を行っています。また、これに加えて、多彩な分野にわたる教養教育科目、音楽に関する高度な専門知識を教授する理論系科目、さらにはピアノ実技や重唱、合唱、オペラ等の実技系科目を履修することによって、声楽分野を専門とする音楽家に必要な基礎能力を、バランス良く身に付けて行きます。

求められる学生像

○豊かな感受性、想像力を備えている人。
○演奏家としての資質を備えている人。
○積極的に学び、音楽界、芸術教育界を将来担うべく意欲旺盛な人。

教　員

M.レアーレ	REALE, Marcella	客員教授	ソプラノ
戸山 俊樹	TOYAMA, Toshiki	教　授	バス
末吉 利行	SUEYOSHI, Toshiyuki	教　授	バリトン
中巻 寛子	NAKAMAKI, Hiroko	教　授	メゾ・ソプラノ
森川 栄子	MORIKAWA, Eiko	教　授	ソプラノ
川島 幸子	KAWASHIMA, Sachiko	准教授	ソプラノ
初鹿野 剛	HATSUKANO, Takeshi	准教授	バリトン

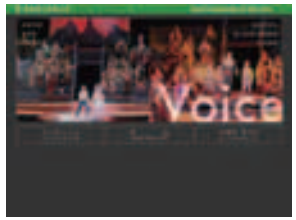
非常勤講師

相可 佐代子／大槻 孝志／佐竹 由美／五月女 智恵／田島 茂代／永田 峰雄／並河 寿美／萩原 理恵／日紫喜 恵美／馬原 裕子／三崎 今日子／三輪 陽子／たかべ しげこ／藤本 淳也／井原 義則／永 ひろこ／長谷 順二／溝口 明子／矢澤 定明／石山 英明／寺元 智恵／萩野 仁志

音楽芸術言語

ロムアルド・バローネ（イタリア語）／
アルバ・ハインツ・フーゴー（ドイツ語）／
フロラン・ペリエ（フランス語）

専攻サイト



http://voice.aichi-fam-u.ac.jp/

Facebook

https://www.facebook.com/aua.music.voice

マスネ：歌劇《サンドリヨン》（2014年大学オペラ公演）©神田毎実

カリキュラム

本専攻のカリキュラムの中心は、1年次から4年次まで一貫して行われる個人指導による実技レッスンです。指導教員との一対一のレッスンを通して、声楽家としての基礎である呼吸法や発声から、多彩なレパートリーに対応できる豊かな音楽性、演奏技術までを身に付けます。それと並行して、1年次からは「合唱」が、さらに3年次には「オペラ基礎」、「オペラ重唱」、4年次にはそれらを基にした「オペラ研究」が必修科目として組み込まれており、幅広い演奏活動を支える基礎能力を養うことができます。また、外国語に関しては、文法や長文解釈などのクラス授業に加えて、各人が実際に演奏する歌詞の解釈や発音をネイティブ・スピーカーに学ぶ「音楽芸術言語」のクラスが開講され、より専門に密着した語学力が養えるよう配慮されています。

	音楽学部専門教育科目						基礎教育科目	教養教育科目
	専攻科目					関連科目		
一年次	声楽研究Ⅰ ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	合唱Ⅰ ・合唱の演奏法を身につける。	ピアノ奏法Ⅰ ・充実した個人レッスンにより、ピアノ奏法の基礎を学び、ピアノ作品またはピアノという楽器を知る。	ソルフェージュA、B ・基礎的な聴音、初見視唱、様々な音楽の仕組みや形を把握する力を養う。	和声Ⅰ ・3和音の基本形、第1・第2転回形、属七の基本形、第1・第2・第3転回形を学びながら、メロディーとベースラインの関係も理解する。		日本音楽史概説 西洋音楽史概説A・B ・西洋音楽史の基礎を把握し、各時代の音楽を理解する。Aではバロック時代までの、Bでは古典は以降の音楽を取り上げる。	英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
二年次	声楽研究Ⅱ ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	合唱Ⅱ ・合唱の演奏法を身につける。	ピアノ奏法Ⅱ ・ピアノ奏法Ⅰで学んだことを更に発展させ、ピアノ演奏の技術を磨き、作品の理解を深めていく。		和声Ⅱ ・転調や借用和音、属七以外の4和音・5和音と転位音を実習して学び、実際の楽曲の和声分析も行う。	ソルフェージュC、D／コンピュータ音楽／日本音楽演習／音楽史特講／音楽教育論／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アート・マネジメント／音声学／音楽芸術言語		
三年次	声楽研究Ⅲ ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	合唱Ⅲ ・合唱の演奏法を身につける。	オペラ重唱 ・歌唱と演技を通して、オペラにおける舞台表現の基礎を体得する。	オペラ基礎 ・オペラに伴う身体動作の基本的訓練を行う。		ピアノ奏法Ⅲ／指揮法／合奏／キーボードハーモニー／楽式論／対位法／音楽学特講／オペラ総論／音楽特講／楽器学／管弦楽法／楽曲研究Ⅲ／楽書講読／ピアノ指導法／楽器研究Ⅲ	音楽学概説 ・音楽に関するさまざまな研究方法について学ぶ。	
四年次	声楽研究Ⅳ ・実技レッスン。声楽家としての基礎的な演奏能力を養う。	重唱 ・合唱作品、歌曲、オペラの重唱等の作品を通して、アンサンブルに必要な音楽的語彙、語法を経験する。	オペラ研究 ・歌手としてのオペラへの取り組み方の基礎を、オペラを実際に体験することを通して身につける。		学内発表 ・公開演奏を通して、各人の日頃の研究の成果を発表すると同時に、演奏者としての実践経験を積む。	ピアノ奏法Ⅳ／スコアリーディング／楽器研究Ⅳ／アンサンブル特講		
	卒業演奏							

卒業後の進路

［音楽活動団体］
ベルリン国立歌劇場、オルデンブルグ国立歌劇場、アーヘン市立歌劇場、ドルトムント市立歌劇場、カイザースラウテルン市立歌劇場、ボン市立歌劇場、シュトゥットガルト国立歌劇場、ベルギー王立モネ劇場等
東京二期会、名古屋二期会、関西二期会、日本オペラ協会、藤原歌劇団、劇団四季、新国立劇場、びわ湖ホール声楽アンサンブル等

［就職等］
愛知県立芸術大学、愛知教育大学、名古屋音楽大学、名古屋芸術大学、名城大学、岐阜大学、大阪芸術大学、大阪音楽大学、京都市立芸術大学、金城学院大学、国内の小中高等学校
ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ、ウィーン少年合唱団等

［進　学］
愛知県立芸術大学大学院、その他の国内の芸術系・教育系大学院

［留学等］
ウィーン、ザルツブルク、ミュンヘン、ベルリン、マンハイム、フライブルク、ライプツィヒ、ケルン、ロストック、ミラノ、ローマ、トゥルーズ、ボローニャ等

活躍する卒業生

小山 陽二郎（小山 洋二郎）
1992年大学院（声楽専攻）修士課程修了。1994年イタリア・ミラノに留学、数々のコンクールで認められる。1997-1999年ハンガリー国立歌劇場のメンバーとして出演を重ねる。近年は東京において藤原歌劇団の公演を中心に活動中。現在、昭和音楽大学 非常勤講師、藤原歌劇団団員。

伊藤 晶子
1995年大学院（声楽専攻）修士課程修了。ケルン音楽大学アーヘン校卒業。DAAD賞受賞。第4回長久手国際声楽コンクール3位入賞。ドイツを中心に各地のオペラ劇場で活躍している。

國光 ともこ
1997年大学院（声楽専攻）修士課程修了。二期会オペラスタジオ第42期マスタークラス修了（優秀賞受賞）。新国立劇場オペラ研修所第3 期修了。2003年度文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリアに留学、2003年度文化庁派遣芸術家在外研修員。第12回F.チレア国際声楽コンクール第2位、日本モーツァルト音楽コンクール優勝、日本モーツァルト音楽大賞選考会2005大賞受賞、第3回東京音楽コンクール第2位。二期会会員。

三輪 陽子
1998年大学院（声楽専攻）修士課程修了。2005年第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者、最優秀賞と特別賞を受賞。新国立劇場公演、R.シュトラウス《エレクトラ》のマクトⅡ役を皮切りに活躍している。2008年度新進芸術家海外研修員としてウィーン、イタリアに留学、2008年度文化庁派遣芸術家在外研修員。二期会会員。現在、本学非常勤講師。

田口 智子
1999年声楽専攻卒業。2002年東京藝術大学大学院修士課程修了。2003年パリへ留学。2004年日本音楽コンクール第1位。2005年パリ国立音楽院大学院修了。2009年東京藝術大学大学院博士後期課程修了、博士号を取得。現在、ヨーロッパ各地でオペラやコンサートにめざましい活躍をしている。

吉田 珠代
2003年大学院（声楽専攻）修士課程修了。2003 ～ 2006年新国立劇場オペラ研修所第6期生修了。2006年文化庁新進芸術家派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学、2006年文化庁派遣芸術家在外研修員。2008年度ローム奨学生としてミュンヘンに留学。モーツァルト作曲《ドン・ジョヴァンニ》のドンナ・アンナ役等で活躍。ウィーン在住。

能勢 健司
2003年大学院（声楽専攻）修士課程修了。2005 ～ 2006年ドイツ・マンハイムに留学。2007年～2010年東京新国立劇場オペラ研修所第9期生修了。現在、金城学院大学准教授。

辻井 亜季穂
2009年声楽専攻卒業。2011年大学院博士前期課程声楽領域修了後、DAAD（ドイツ学術交流会）奨学生として渡独。ライプツィヒ音楽演劇大学大学院オペラ科を修了。テューリンゲン州オペラ研修所を経て、2014年夏よりテューリンゲン州アルテンブルク市・ゲラ市立歌劇場専属歌手。

1	2
3	4
5	6

1. 平成26年度オープンキャンパスにおける授業公開（学部4年生「オペラ研究」）
2. 授業の様子（学部4年生「合唱」）
3. 声楽特別講座（G．サッバティーニ氏）
4. 大学オペラ《サンドリヨン》立ち稽古
5. 定期演奏会の女声合唱
6. 大学オペラ《サンドリヨン》キャスト・合唱稽古

器楽専攻
ピアノコース
Instumental Music (Piano)

■音楽学部■音楽科■器楽専攻■ピアノコース

専攻概要

18世紀の中頃にピアノという楽器が生まれて以来、西洋音楽の歴史はピアノとともに発展・展開してきました。ピアノ作品の数も非常に多く、また多岐にわたっています。本学ピアノコースでは演奏家を志す方々のために、個人レッスンを中心とするきめ細かな教育をおこなっています。カリキュラムの中心となる独奏については、4年間にバロックから現代までそれぞれの様式について一通りの知識と奏法を学び、実技試験（一部は公開となります）で発表します。マンツーマンの指導によって、しっかりとした基礎能力を身につけたうえで、多くの経験・体験で応用力を涵養するべく、合奏・室内楽・伴奏法などの授業で重奏、アンサンブル、声楽・器楽伴奏を学びます。これらを学内外で発表し、演奏経験を積む機会も増えてきました。学生たちの意欲や探究心、可能性に応え、また卒業後の音楽活動に幅広く豊かな将来性がもたらされるよう、教員一人一人がそれぞれの特色を生かしつつ研究・努力を重ねています。音楽を表現する高度な技術によって豊かな音楽的想像力が醸成されるよう、国際的に評価の高い外国人客員教授を招き、学部・大学院学生の指導の他に特別講座を毎年開催し、音楽性の向上に意を尽しております。

求められる学生像

○ピアノに取り組む適性と意志を持ち、実技の基礎能力がある人。
○広い視野と多様な価値観を持ち、意欲が持続する人。
○ピアノ演奏を通して音楽芸術全般に積極的に関与したい人。

教　員

E.ザラフィアンツ	ZARAFIANTS, Evgeny	客員教授	ピアノ
松本 総一郎	MATSUMOTO, Soichiro	教　授	ピアノ
熊谷 恵美子	KUMAGAI, Emiko	教　授	ピアノ
北住 淳	KITAZUMI, Atsushi	教　授	ピアノ
掛谷 勇三	KAKEYA, Yuzo	准教授	ピアノ
内本 久美	UCHIMOTO, Kumi	准教授	ピアノ
鈴木 謙一郎	SUZUKI, Kenichiro	准教授	ピアノ
中尾 純	NAKAO, Jun	准教授	ピアノ

非常勤講師

朝川 万里／奥村 友美／奥村 理恵／加藤 美緒子／川井 綾子／小杉 裕一／小林 功／佐藤 俊／佐野 えり子／進藤 郁子／西井 葉子／西川 秀人／西山 郁子／米川 幸余／吉田 恵（オルガン）／安井 直子（チェンバロ）

専攻サイト

http://piano.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

学部の4年間、充実した個人レッスンを行うことにより、ピアノ音楽の基礎能力を高め、一人一人の個性を伸張することを目指しています。いろいろな視点から演奏を考察・実践して応用力を身につけ、国際的な芸術活動を行うための技倆と人間性を涵養し、広く社会に貢献できる人材を育成します。大学での学習が演奏、教育、音楽研究等、多様な音楽活動の展開の源泉となるように、様々な演奏機会を設け、最終4年次には卒業試験演奏会を行い、成果を総合的に審査します。

	音楽学部専門教育科目						基礎教育科目	教養教育科目
	専攻科目					関連科目		
一年次	ピアノ奏法の研究Ⅰ ・実技レッスン	伴奏法・歌曲 ・声楽の表現法を学びつつ、声楽作品の伴奏に必要な要素を学ぶ。オペラアリア、歌曲の伴奏におけるテキスト理解、ピアノ書法の解釈、演奏上の注意点を学習する。	和声Ⅰ ・3和音の基本形、第1・第2転回形、属七の基本形、第1・第2・第3転回形を学びながら、メロディーとベースラインの関係も理解する。	ソルフェージュA、B ・基礎的な聴音、初見視唱、様々な音楽の仕組みや形を把握する力を養う。			日本音楽史概説 西洋音楽史概説 ・西洋音楽史の基礎を把握し、各時代の音楽を理解する。Aではバロック時代までの、Bでは古典派以降の音楽を取り上げる。 音楽学概説 ・音楽に関するさまざまな研究方法について学ぶ。	英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
二年次	ピアノ奏法の研究Ⅱ ・実技レッスン	伴奏法・器楽曲 ・「器楽伴奏」の基本的な演奏法・知識を学び、さらにアンサンブル的アプローチ、「リダクション伴奏的」アプローチの両面から、ピアノ伴奏の諸形態に必要な読譜力、理解力を養う。	和声Ⅱ ・転調や借用和音、属七以外の4和音・5和音と転位音を実習して学び、実際の楽曲の和声分析も行う。	ソルフェージュC、D ・ピアノ演奏に必要な、読譜と結びついた音の聴取について、ピアノメソードの演奏実践・創作を通して学ぶ。	ピアノ合奏	コンピュータ音楽／日本音楽演習／オペラ総論／音楽史特講／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アート・マネジメント／楽書講読／音楽芸術言語		
三年次	ピアノ奏法の研究Ⅲ ・実技レッスン	対位法 ・旋律と対旋律の関係性を理解する。	楽式論 ・楽曲区分法・構成法（一部形式からソナタ形式まで）を学ぶ。	学内発表		指揮法／声楽／合唱／キーボードハーモニー／音楽学特講／音楽教育論／管弦楽法／楽曲研究／楽書講読／ピアノ指導法／楽器研究（弦・管打）Ⅲ／楽器研究（鍵盤）Ⅰ／室内楽Ⅰ／音楽特講		
四年次	ピアノ奏法の研究Ⅳ ・実技レッスン					スコアリーディング／楽器研究（弦・管打）Ⅳ／楽器研究（鍵盤）Ⅱ／室内楽Ⅱ		
	卒業演奏（卒業試験、15-30分のコンサート作品）							

卒業後の進路

［就職等］
愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋音楽大学、北海道教育大学、聖徳大学、郡山女子大学、東京音楽大学、国立音楽大学、玉川大学、富山大学、金沢大学、岡崎女子短期大学、愛知学泉女子短期大学、市邨学園短期大学、名古屋女子大学、日本福祉大学、金城学院大学、柳城女子短期大学、桜花学園短期大学、岐阜大学、龍谷大学、京都女子大学、相愛大学、鈴鹿国際大学、大阪音楽大学、大阪芸術大学、兵庫教育大学、兵庫大学、岡山大学、ノートルダム清心女子大学、くらしき作陽大学、エリザベト音楽大学、山口大学、下関女子短期大学、沖縄県立芸術大学、菊里高等学校、明和高等学校、豊橋桜丘高等学校、岡崎学園高等学校、同朋高等学校、加納高等学校、鶯谷高等学校、大阪夕陽ケ丘高等学校、京都芸術高等学校 等
ザルツブルク音楽院（オーストリア）、エコール・ノルマル音楽院（フランス）、ハノーファー音大（ドイツ）、リスト音楽院（ハンガリー）、ヴュルツブルク音楽大学（ドイツ）、シンシナティ音楽院（アメリカ）、カリフォルニア大学（アメリカ）等

［留学等］
ドイツ、オーストリア、ハンガリー、フランス、イタリア、アメリカ等の音楽大学・音楽院多数

［その他］
ピアニスト、ピアノ指導者多数

活躍する卒業生

多賀 絵里
2003年器楽専攻（ピアノコース）を卒業後、渡仏。スイスのジュネーブ音楽院コンサーティストコースに入学し、最優秀の成績でディプロムを取得。その後、同音楽院にて研鑽を積み、最優秀の成績で修了。2003年アゼリア推薦新人演奏会最優秀賞、2005年テレザ・ヤクーナ国際コンクール（フランス）第1位。現在、フランスに在住し、"Ensemble Artefact"のメンバーとして活動している。

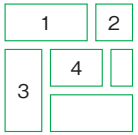
扶瀬 絵梨奈
2010年器楽専攻（ピアノコース）を卒業。2004年ピティナピアノコンペティション全国決勝大会銅賞、2006年彩明ムジカコンソルソ最高位、第28回大幸財団育英奨学生など。2009年・2010年と本学の定期演奏会に出演。また、2010年に中部読売新人演奏会や本学の卒業演奏会に出演。大学院博士前期課程に在学を経て2011年秋よりEcole Normale de Musique de Parisへ留学。Lagny-sur-Marne国際ピアノコンクール第3位（フランス）。

三上 絵里香
2010年器楽専攻（ピアノコース）を卒業。2008年大阪国際音楽コンクールコンチェルトオーディション部門第3位（1位なし）。2010年リスト音楽院セミナーを受講して最優秀受講生に選ばれ、2011年、ハンガリーの「ブダペスト春の音楽祭」の他、センテンドレ、札幌でソロリサイタルを行う。2011年ハイメスコンクール第1位、第3回北野財団奨学生など。大学院博士前期課程在籍中、交換留学生として2012年春よりケルン音楽大学（ドイツ）へ留学。

大瀧 拓哉
2010年器楽専攻（ピアノコース）を主席で卒業、桑原賞受賞。在学中から国内外のコンクールに出場し、2006年中部ショパン学生ピアノコンクール大学生部門金賞・中日賞受賞の他、2006年ペトロフピアノコンクール大学・一般部門第2位、2010年野島稔・よこすかピアノコンクール第3位、2011年マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽コンクールメダル受賞など。2012年大学院博士前期課程を修了。

髙橋 早紀子
器楽専攻（ピアノコース）卒業。同大学大学院博士前期課程修了。在学中より学内外で多数の演奏会に出演し、オーケストラとの共演など、注目を集める。
　ピアノソロの他、伴奏者、室内楽奏者、コレペティトゥーアとしても活躍。第15回春日井市ピアノコンクール（一般の部）第1位。2012年9月より、ハンガリー国立リスト音楽院に留学。2014年 第６回バルトーク国際ピアノコンクール（セゲド）特別賞受賞。

福本 真弓
2015年大学院博士前期課程修了。第22回、第23回日本クラシック音楽コンクール一般の部第5位。第20回国際ピアノフェスティバルin知多大学生・一般の部第3位。2014年ドイツMurrhardで行われた国際ピアノアカデミーにてディプロマ取得。
ピアノソロの他、伴奏や室内楽にも意欲的に取り組み、在学中に、客員教授のデヴィッド・ノーラン教授(ヴァイオリン)と共演。2014年春より、交換留学生としてケルン音楽大学（ドイツ）へ留学。



1. アーティスト・イン・レジデンス2010　ヴィタリー・マルグリス　ピアノリサイタル「究極のロマンティシズム」
2. ヤコブ・ロイシュナー教授によるピアノ公開講座
3. 4. 授業の様子（学部３年「ピアノ指導法」）

器楽専攻
弦楽器コース
instumental Music (Strings)

■音楽学部■音楽科■器楽専攻■弦楽器コース

専攻概要

世の中の移り変わりと関係なく、音楽は人の心に働きかけ、精神を豊かにするかけがえのない存在であり続けています。弦楽器コースでは、音楽を学ぶ学生たちがその内容の奥深さを感じ取り、核心に触れる研究の積み重ねによって、演奏家として或いは教育者として立派に成長してくれることを願い、国際的に評価の高い外国人客員教授をはじめ、演奏・教育両面で経験豊富な教師陣が指導を行なっています。専門実技において高度な演奏技術を身につけると同時に、バロックから現代までの音楽作品を演奏する上で必要な楽曲分析力、豊かな表現技術の習得が出来る様にきめ細かな授業を行い、その発表の場として、定期演奏会や学内演奏会、オーディションや試験成績が優秀な学生による学外ホールでのコンサート等、数多くの演奏機会を設けています。その他、アーティスト・イン・レジデンスなどにより国際的に活躍する演奏家を招いての公開レッスンや特別講座等、特別授業も定期的に行っています。高い演奏技術と豊かな表現能力、深い洞察力の修得を目指し、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材となることを期待します。

求められる学生像

○豊かな感受性、想像力を備えている人。
○演奏家としての資質を備えている人。
○将来音楽界、芸術教育界を担うべく意欲旺盛な人。

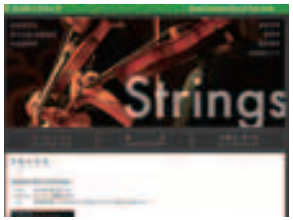
教　員

飯守 泰次郎	IIMORI, Taijiro	客員教授	オーケストラ　平成27年10月～平成28年3月
松尾 葉子	MATSUO, Yoko	客員教授	オーケストラ　平成27年4月～平成27年９月
百武 由紀	HYAKUTAKE, Yuki	教　授	ヴィオラ
花崎 薫	HANAZAKI, Kaoru	教　授	チェロ
福本 泰之	FUKUMOTO, Yasuyuki	教　授	ヴァイオリン
白石 禮子	SHIRAISHI, Reiko	准教授	ヴァイオリン
桐山 建志	KIRIYAMA, Takeshi	准教授	ヴァイオリン

非常勤講師

久保田 巧（ヴァイオリン）／辻井 淳（ヴァイオリン）／
沼田 園子（ヴァイオリン）／日比 浩一（ヴァイオリン）／野村 友紀（チェロ）／
渡邉 玲雄（コントラバス）／木村 茉莉（ハープ）／石坂 宏（オーケストラ）／
小林 道夫（特殊研究）／天野 武子（室内楽）／L.カンタ（楽器研究）／
平光 真彌（楽器研究）／内田 玲（楽器研究）／石橋 直子（楽器研究）

専攻サイト



http://strings.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

1年次より4年間一貫して行われる充実したマンツーマンレッスンと同時に、アンサンブル教育の重視が本学弦楽器コースの特徴です。弦楽四重奏を中心とした室内楽の授業でアンサンブルの基礎を学び、より規模の大きなアンサンブルである弦楽合奏、更にオーケストラの授業へと発展させていく事で、より深く音楽的内容や本質を学ぶことができます。特にオーケストラは多くの卒業生が目指す職業分野でもあり、現在は北から南まで日本全国の主要なオーケストラをはじめ、アメリカ、ヨーロッパのオーケストラへとその活躍の場を広げています。上記、実技系の授業と併せ、語学や音楽理論、教養教育科目等を幅広く学ぶ事で、演奏、教育、音楽研究等、多様な音楽場面で活躍出来る人材育成を目指しています。

	音楽学部専門教育科目						基礎教育科目	教養教育科目
	専攻科目・関連科目							
一年次					ピアノ奏法 I ソルフェージュA、B 和声 I	楽器研究（弦）I／日本音楽史概説	日本音楽史概説 西洋音楽史概説	英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 身体運動・健康科学 情報科学 心理学 芸術論 ほか
二年次	弦楽器奏法の研究 I -IV ・1年次では、まず基礎技術を整えることに主眼を置き、4年間でバロックから近現代までの作品の研究ができるよう配慮しつつ、演奏能力、表現力を養う。 ・学内演奏会、定期演奏会、卒業演奏会で研究発表を行う。	室内楽 I -IV ・アンサンブル教育の根幹をなすもので、弦楽四重奏が中心。音程の合わせ方や響きの作り方、緻密で豊かな表現を養う。 ・1年次でハイドン等、2年次ではモーツァルト等の作品、3-4年次ではクラシックから近現代までの作品を自由選択する。コントラバスは二～四重奏や他の楽器との組み合わせによる室内楽曲、ハープは他の弦楽器、管楽器との室内楽曲を取り上げる。 ・2月に定期演奏会を行う。	弦楽合奏 I -IV ・各パートの分奏やトップ分奏を丁寧に行い、室内楽を拡大したような緻密な弦楽アンサンブルを目指す。1-2年が必修で、3-4年が選択。これまでにバルトーク「弦楽のためのディヴェルティメント」、ブリテン「F.ブリッジの主題による変奏曲」、シューベルト（マーラー編曲）「死と乙女」、メンデルスゾーン「弦楽のための交響曲」、ヘンデル「合奏協奏曲」などを演奏。 ・12月から1月に定期演奏会を行う。	オーケストラ I -IV ・第一線で活躍する指揮者のもと、プロのオーケストラ同様に行われるリハーサルが授業の基本。 ・他に弦楽器、管打楽器の教員も指導スタッフとして加わる。 ・定期演奏会、春と秋の特別演奏会、9月のポピュラークラシックコンサートなど1年間で多くのプログラムを演奏する。 ・基本的に2年次からの履修とする。	ピアノ奏法 II 和声 II ソルフェージュC	ソルフェージュD／キーボードハーモニー／スコアリーディング／コンピュータ音楽／日本音楽演習／音楽史特講／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アートマネジメント／楽器研究（弦）II／音楽芸術言語	音楽学概説	
三年次					学内発表	ピアノ奏法 III／指揮法／声楽／合唱／楽式論／対位法／音楽学特講／オペラ総論／音楽特講／音声学／楽器学／管弦楽法／楽曲研究 III／楽書講読／ピアノ指導法／楽器研究（鍵盤）I／楽器研究（弦）III／楽器研究（管打）III		
四年次	卒業演奏（4年間の学修の集大成としての演奏を行う。）					楽器研究（弦）IV／楽器研究（管打）IV／ピアノ奏法 IV／楽器研究（鍵盤）II		

卒業後の進路

卒業後はソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者（コンサートマスター、パート首席奏者、Tutti奏者）等、演奏家として活躍する他、音楽大学・高校の教員、音楽教室の講師として活動する等、多様な進路があります。

又、博士前・後期課程進学或いは海外留学等の道もあります。

［就職等］

ブレーメンフィルハーモニー管弦楽団、ハンブルク交響楽団、アーヘン市立交響楽団、トリアー市立管弦楽団、国立パリ管弦楽団、フランス国立ロワール管弦楽団、プラハ国立歌劇場管弦楽団、ニューワールドシンフォニー（香港）、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、京都市交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、大阪フィルハーモニー、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪シンフォニカー交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、札幌交響楽団、藝大フィルハーモニア（東京藝術大学管弦楽研究部）、名古屋音楽学校、ヤマハ音楽教室等各地の音楽教室等

［教　員］

愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、琉球大学、福島大学、その他各地の音楽高等学校、一般高等学校

［進　学］

愛知県立芸術大学大学院、その他の国内外の芸術系・教育系大学院

［留学等］

ドイツ、フランス、オーストリア、アメリカ、イギリス、フィンランド、スウェーデンの各音楽大学等

活躍する卒業生

山﨑 裕幸

ブレーメンフィルハーモニー 管弦楽団首席コントラバス奏者

1978年生まれ。13歳よりコントラバスを始める。愛知県立芸術大学卒業、桑原賞、及び松原桃子賞受賞。その後、ケルン音楽大学にて研鑽を積む。ソリストとしては、これまでに、広島交響楽団、リゾナーレ高原音楽祭、ワイマールナショナル劇場、シンフォニアコンチェルタンテ・ブレーメン等と競演。2009年にはイタリア・クネオ市にてマスタークラス及びリサイタルを開催。オーケストラ奏者としては、ルツェルン祝祭管、ザルツブルグモーツァルト週間や東京のオペラの森に出演。客演首席奏者としてはマーラー室内管、イタリア、トスカニーニ・フィル、ノルウェー、スタヴァンガー響等で出演。クラウディオ・アバド氏や、ロリン・マゼール氏、小澤征爾氏らと共演。

岡田 祐美

ボストンフィルハーモニー第一ヴァイオリン奏者，アルス・ノヴァ室内管弦楽団 コンサートマスター

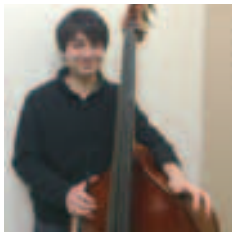
3歳よりヴァイオリンをはじめる。愛知県立芸術大学卒業、桑原賞受賞。アメリカ・インディアナ大学にてパフォーマンスディプロマを取得。ボストンのロンジー音楽院にてアーティストディプロマを得て大学院修了。2005年ニューイングランド国際室内楽コンクール第3位、2009年ボストン音楽学院室内楽コンクールで優勝するなど、数々のコンクールに入賞。エリオット・カーターの95歳記念コンサートにてカーター作曲のソロソナタを演奏、その演奏会は全米で放送された。また、アルテフィルハーモニーと共演、ボストンのラジオ番組等にも出演するなど、多方面で活躍。現在、ボストンフィルハーモニーの第一ヴァイオリン奏者、アルス・ノヴァ室内管弦楽団のコンサートマスター。コンコード音楽院の講師、またニューイングランド音楽学院ユースフィルハーモニーオーケストラの講師として後進の指導にも力を入れている。

中村 洋乃理

NHK交響楽団
ヴィオラ奏者

愛知県立芸術大学を経て、東京藝術大学大学院研究科修士課程修了。第8回日本演奏家コンクール最高位受賞。日韓の若い音楽家によるオーケストラ特別演奏会の日本、韓国公演に首席奏者として参加。プレールカルテットのメンバーとして各地でリサイタルの他、第43回JTが育てるアンサンブルシリーズに出演。2011年国際音楽祭ヤングプラハに招かれ、ヤングプラハフェスティバルカルテットとしてチェコ各地にて演奏。これまでにヴィオラを江島幹雄、百武由紀、川崎和憲の各氏に師事。2007年より2014年1月まで東京フィルハーモニー交響楽団フォアシュピーラー、現在、NHK交響楽団団員、ヴィオラカルテット Alto de campagneメンバー。

在学生の声



髙橋 彗希

音楽学部器楽専攻弦楽器コース3年

愛知県立芸術大学は集中して音楽に取り組める環境が整っています。2013年夏に新音楽学部棟が完成し、個人で使える練習室のほかにも大・小演奏室や室内楽ホールがあり、様々な場所で演奏することができるようになりました。この大学では先生方との距離感が近く、個人レッスンのほかオーケストラや室内楽の授業でもとても親身になってご指導してくださいます。

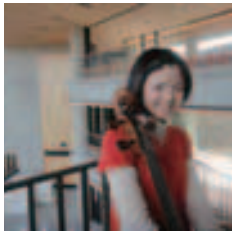
また、本学ではケルン音楽大学やハンブルク音楽大学への派遣留学制度があるので、僕は留学を目指して日々勉強に励んでいます。

山田 貴子

博士前期課程弦楽器領域
1年（本学音楽学部卒業）

2013年夏に新音楽棟が完成し、よりよい環境で音楽を学べるようになりました。また、私は女子寮に居住しており、大学と寮がとても近いので、朝早くから夜遅くまで、自分の勉強や練習に集中して取り組むことができます。

室内楽やオーケストラの授業が充実しており、一緒に音楽をするということを学ぶことができます。学年の枠を超えて先輩や後輩と関わることも多く、自分の殻の中にこもらずに、多角的に自分の長所や短所を見つめるきっかけになります。たくさんの仲間と関わり、自分にはない考え方を知ることはとても楽しく、良い刺激を受けながら勉学に励んでいます。



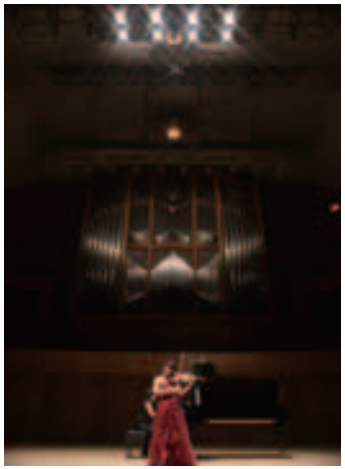
加藤 志麻

博士前期課程弦楽器領域
1年（本学音楽学部卒業）

私がこの大学に来てまず感じたのが先生方との距離感の近さです。個人レッスンで丁寧に教えて下さるのは勿論、室内楽などの相談にも親身に答えて下さり安心して学べる環境が整っています。

県芸では個人レッスンの他に毎週の室内楽レッスン、オーケストラなどの授業があり、美術科と共同制作である院のオペラにも参加する事ができます。オペラでは声楽のオケ伴奏をするという初めての経験をさせて頂き、美術科、器楽科、声楽科が一緒に創り上げる美しい舞台にとても感銘を受けました。

また、私はバロック研究会にも所属しており、古楽が専門の先生方に教えて頂く事柄は現代の奏法に通ずることも多く大変勉強になります。このように様々なジャンルを自分の感性に取り入れ、成長できる県芸の環境に心から感謝しています。



1	2	3
4	5	6
7		8

1.5. 豊かな響きの中での弦楽合奏定期演奏会リハーサル(三井住友海上しらかわホール)
2. 室内楽の夕べ演奏会(宗次ホール)
3. 卒業演奏会(愛知県芸術劇場コンサートホール)
4. 愛知県立芸術大学創立40周年記念オーケストラ東京公演(東京オペラシティ・コンサートホール・タケミツメモリアル)
6. 室内楽授業(大演奏室)
7. アーティスト・イン・レジデンス〈ケルンの風 II〉:K.カンギーサ氏が協奏曲ソリストとして定期演奏会に出演、学生・教員によるオーケストラと共演(愛知県芸術劇場コンサートホール)
8. アーティスト・イン・レジデンス(F.アゴスティーニ教授による公開レッスン)

器楽専攻

管打楽器コース

Instumental Music (Winds and Percussion)

■音楽学部■音楽科■器楽専攻■管打楽器コース

専攻概要

人間が植物の茎を吹けば音を発し、また木を打ち合わせれば音が出る事を発見した瞬間から、21世紀へ…。この間に人間の叡智と音の「美」と「色彩」の多様性への強い憧れが今日の音楽界における管打楽器の姿を生み出したことは確かな事でしょう。特に我が国のここ半世紀における管打楽器界の発展は他にその類を見ないといえます。管打楽器コースは確かな技術と的確な知識、そして何より音楽を愛する心を兼ね備えた演奏家、指導者を育成することを目的とし、実践的なカリキュラムを組んでおります。本学独自の「管打学基礎」は管打楽器奏者のための基礎知識を学び各楽器の特色を勉強します。他楽器の知識を習得するため、小編成のアンサンブルを組み各自が任意の曲を編曲して実際に演奏し、あわせてオーケストラ・レパートリーの研鑽も行っております。「管楽合奏」「オーケストラ」「室内楽」はこれらの基礎を土台にしてさらに演奏能力を高めます。世界的に活躍する芸術家や研究者を招いての特別講座も開講しています。

求められる学生像

○豊かな感受性、想像力、表現意欲を備えている人。
○協調性、適応能力に優れた人。
○物事への積極性、また国際性を備えている人。

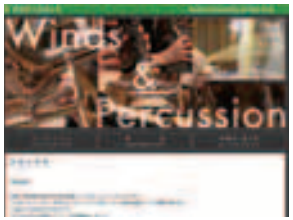
教　員

飯守 泰次郎	IIMORI, Taijiro	客員教授	オーケストラ	平成27年10月～平成28年3月
松尾 葉子	MATSUO, Yoko	客員教授	オーケストラ	平成27年4月～平成27年9月
武内 安幸	TAKEUCHI, Yasuyuki	教　授	トランペット	
橋本 岳人	HASHIMOTO, Takehito	准教授	フルート	
原田 綾子	HARADA, Ayako	准教授	クラリネット	
倉田 寛	KURATA, Hiroshi	准教授	トロンボーン	
深町 浩司	FUKAMACHI, Koji	准教授	打楽器	

非常勤講師

寺本 義明（フルート）／浦 丈彦（オーボエ）／和久井 仁（オーボエ）／
伊藤 圭（クラリネット）／青谷 良明（バスーン）／田中 靖人（サクソフォーン）／
安土 真弓（ホルン）／野々口 義典（ホルン）／服部 孝也（トランペット）／
新田 幹男（トロンボーン）／露木 薫（ユーフォニアム）／荻野 晋（テューバ）／
小森 邦彦（マリンバ）／石坂 宏（オーケストラ）／丹治 清貴（オーケストラ）／
菰田 勝（管打学基礎）／吉沢 香純（管楽合奏）／
丹下 聡子（合奏・楽器研究（管打））／赤堀 裕之史（室内楽）

専攻サイト



http://wind-perc.aichi-fam-u.ac.jp/

カリキュラム

個人レッスンである「管打楽器奏法の研究」、楽器の専門知識を学ぶ「管打学基礎」、アンサンブルを行う「室内楽」、ウィンドオーケストラである「管楽合奏」、弦楽器コースと共同で行う「オーケストラ」を5つの柱としてあらゆる演奏形態に対応する演奏技術ならびに表現方法を習得し、豊かな感性と創造性に満ちた活動を展開しています。特に、本学最大の合奏授業である「オーケストラ」では、学部・大学院を含め全員で授業を行い、曲ごとの演奏者は年功にとらわれることなく教員によって指名されます。下級生と上級生が混ざって合奏を行うことは、少人数制をとる本学の大きな特徴であり、お互いに大きな刺激を与え合っています。教員と一緒に演奏して音楽を肌で感じ取り、その場で素早いアドバイスも受け、多くのことを学んでいきます。

音楽学部専門教育科目

専攻科目・関連科目

一年次

- 管打楽器奏法の研究I
  - ・実技レッスン
- 管打学基礎 I
  - ・自分の専門以外の楽器について、その歴史・構造・奏法や記譜法の特徴などを学び、4声体を素材として数種の楽器を含む曲にアレンジし、演奏を発表します。
- 室内楽I-IV
  - ・アンサンブルの中において個々の役割を認識、ハーモニー感の習得、異なる楽器編成でのバランス感覚などを養います。木管・金管・打楽器に分かれて授業を行いますが、楽器の種類をまたいだ複合アンサンブルも実践しています。
  - ○木管楽器
    各楽器の特殊性を念頭に置き、アンサンブルのための基本的な能力を身につけるための合奏法を学びます。
  - ○金管楽器
    多様な編成のアンサンブルを取り上げ、個々の音楽表現を深めていきます。
  - ○打楽器
    現代作品を中心に取り上げ、様々な奏法を身につけます。またオーケストラ曲の打楽器パートを取りあげ、奏法の研究を行います。
- 管楽合奏I-IV
  - ・吹奏楽のためのオリジナル作品、オーケストラ曲のアレンジ作品、小編成の管楽合奏曲など幅広いジャンルを取り上げます。
  - ・楽器セッティング、舞台設営（ステージスタッフ）、楽譜管理（ライブラリアン）なども学生が行い、合奏がスムーズに進むための効率を考えていきます。毎年11月に学外にて定期公演を行なっているほか、高校生対象の演奏指導実践も行います。
- オーケストラI-IV
  - ・弦楽器コースと共同で行う合奏授業です。
  - ・授業は毎回奏楽堂のステージで行われ、舞台設営（ステージスタッフ）、楽譜管理（ライブラリアン）、練習スケジュール管理（インスペクター）などは、教員のサポートのもと全て学生が行いながら、実際のプロオーケストラの仕事現場に即した経験を積んでいきます。
  - ・11月に行われる定期演奏会を含め、年に4回の公演を通じて、数多くの楽曲を限られた時間で仕上げる実践を行います。
  - ・演奏パートは教員が決定し年功にとらわれることなく上級生・下級生が混ざりあい合奏を行っています。
- ピアノ奏法I
- ソルフェージュA、B
- 和声I

二年次

- 管打楽器奏法の研究II
  - ・実技レッスン
- 管打学基礎 II
  - ・さらに大きな編成（ウィンドバンド）のアレンジを実践します。発表される曲について討論も行います。
- ピアノ奏法 II
- ソルフェージュC、D
- 和声 II
- キーボードハーモニー／スコアリーディング／コンピュータ音楽／日本音楽演習／オペラ総論／音楽史特講／音楽心理学／音楽療法／音楽民族学概論／ポピュラー音楽概論／アート・マネジメント／音楽芸術言語

三年次

- 管打楽器奏法の研究III
  - ・実技レッスン
- ピアノ奏法 III／指揮法／声楽／合唱／楽式論／対位法／音楽学特講／音楽特講／音声学／楽器学／管弦楽法／楽曲研究／楽書講読／ピアノ指導法／楽器研究（鍵盤）I／楽器研究（弦）III

四年次

- 管打楽器奏法の研究IV
  - ・実技レッスン
- 学内発表
  - ・ソロコンサート形式の演奏会です。
- ピアノ奏法IV／楽器研究（鍵盤）II／楽器研究（弦）IV
- 卒業演奏（管打楽器奏法の研究を含む「5つの柱」で学び得たことの集大成として、ソロ演奏を行います。）

基礎教育科目

- 日本音楽史概説
- 西洋音楽史概説
  - ・西洋音楽史の基礎を把握し、各時代の音楽を理解する。Aではバロック時代までの、Bでは古典派以降の音楽を取り上げる。
- 音楽学概説

教養教育科目

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- 身体運動・健康科学
- 情報科学
- 心理学
- 芸術論
- ほか

卒業後の進路

世界的なソリストとして欧米の著名オーケストラや指揮者と共演し活躍、自己のアンサンブルを率い積極的な活動を展開、Jaza/Pops業界でライブ活動や独自のプロジェクトを展開するなど、個性豊かなアーティストを数多く輩出しています。

［演奏団体］
新日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、山形交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、ドルトムント歌劇場管弦楽団、フィンランド放送交響楽団、ベルン交響楽団、香港フィルハーモニー交響楽団、香港シンフオニエッタ、中国広州シンフォニーオーケストラ、大阪市音楽団、愛知県警察音楽隊、静岡県警察音楽隊、神奈川県警察音楽隊、航空自衛隊中央音楽隊、海上自衛隊東京音楽隊

［就職］
三井住友海上しらかわホール、ヤマハ株式会社、株式会社ヤマハミュージック名古屋、村松楽器販売株式会社、アカデミア・ミュージック株式会社、東京二期会マネジメント事業部、日本生命、慶應病院

［教員］
高等学校教員、中学校教員、小学校教員多数

［進学］
愛知県立芸術大学大学院

［留学等］
ミュンヘン・リヒャルト・シュトラウス音楽大学、リヒャルト・シュトラウス音楽院、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ヴァイマール・フランツ・リスト音楽大学、デトモルト音楽大学、パリ音楽院、アムステルダム音楽院、ボストン音楽院、ウィーン国立芸術大学、アントン・ブルックナー音楽大学

活躍する卒業生

稲垣 路子 トランペット奏者

愛知県名古屋市出身。愛知県立天白高等学校を経て2003年本学卒業。桑原賞受賞。卒業演奏会、ヤマハ新人演奏会に出演。2008年、第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第1位、翌2009年には第78回日本音楽コンクールトランペット部門第1位に輝き、女性として初めて日本2大コンクールを制覇した。2010年、名古屋・広小路ヤマハホールにてソロ・リサイタル開催。これまでにソリストとして、梅田俊明指揮日本フィルハーモニー交響楽団、現田茂夫指揮東京交響楽団、吉住典洋指揮セントラル愛知交響楽団、円光寺雅彦指揮中部フィルハーモニー交響楽団、飯守泰次郎指揮新日本フィルハーモニー交響楽団、外山雄三指揮オーケストラ・アカデミカなどと共演。ブラスアンサンブル・ロゼ、KITO,Akira Brass Band!メンバー。大阪音楽大学、相愛大学音楽学部、滋賀県立石山高等学校音楽科非常勤講師。トランペットを竹本義明、津堅直弘、武内安幸の各氏に師事。日本（旧大阪）センチュリー交響楽団を経て、現在京都市交響楽団団員。

加納 三栄子（右） 打楽器奏者

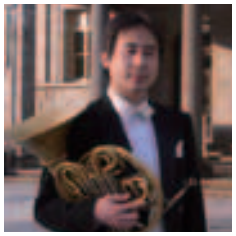
10歳よりマリンバを始める。岐阜県立加納高等学校音楽科を経て2000年本学卒業。打楽器を今村三明、マリンバを大江暢子、神谷百子の各氏に師事。現在、岐阜県立加納高等学校音楽科非常勤講師。

加納 里奈（左） 打楽器奏者

7歳よりマリンバを始める。岐阜県立大垣北高等学校を経て2003年本学卒業。打楽器を今村三明、マリンバを大江暢子、神谷百子の各氏に師事。

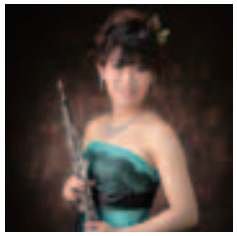
「マリンバデュオ　凛」

2003年、加納三栄子・里奈の姉妹で活動開始。2007年第3回ベルギー国際マリンバコンクールデュオ部門第2位、併せて安倍圭子賞受賞。これまでに国民文化祭ふくい・室内楽の祭典、全国選抜マリンバ大会、朝吹記念マリンバフェスティバル、パーカッションフェスティバルin名古屋、bluemallet concert vol.4出演。2008年に大垣と名古屋でデュオコンサートvol.1、2009年11月にvol.2を開催。2011年、第4回ベルギー国際マリンバフェスティバルにゲスト出演。その他、国内、海外の数多くのコンサートに出演。2008年大垣市民大賞を受賞、以来大垣市交流大使として演奏活動を通じ地元のアピールに努めている。また、2 marimba&piano凛のメンバーとしても、数多くのコンサートに出演する他、2010年に1stアルバム"Rin"を発売し、積極的に活動を行っている。



八木 健史 ホルン奏者

名古屋市立名東高等学校普通科を経て1998年本学卒業。大阪シンフォニカー交響楽団（現、大阪交響楽団）に入団し関西で活動したが、1999年12月に留学のため同団を退団、渡独した。2002年にミュンヘン市立リヒャルト・シュトラウス音楽院研究科を卒業。その後帰国し、名古屋に拠点を移す。小牧市交響楽団（現、中部フィル）に入団し、オーケストラ・吹奏楽を中心に演奏するかたわら、その他にも2005年6月にアルマ室内管弦楽団と、2009年3月、2010年2月には山形交響楽団と、それぞれモーツァルトのホルン協奏曲を共演し、ソリストとしても活動している。2006年2月に山形交響楽団に入団。2009年1月に首席ホルン奏者に就任。現在、ベルク木管五重奏、山形木管五重奏メンバー。新潟中央高校音楽科非常勤講師。これまでにホルンを、水谷 仁、大野 良雄、エリック・ターヴィリガーの各氏に師事。



熊澤 杏実 オーボエ奏者

光ヶ丘女子高等学校国際コースを経て2010年本学卒業。卒業演奏会に出演。在学中、定期演奏会オペラハイライトでのオーケストラメンバーとして出演。同大学ウィンドオーケストラ2010年中国公演に参加し、南京芸術院および上海万博日本館で演奏。第44回東京国際芸術協会新人演奏会に木管三重奏で出演。奨励賞受賞。2011年サイトウ・キネン・フェスティバル松本青少年のためのオペラ、小澤征爾音楽塾北京・上海公演、オペラ・プロジェクトXI歌劇『蝶々夫人』に参加。現在は愛知・東京の両方でオーケストラ、吹奏楽、室内楽など幅広く活動している。オーボエを新田祐子、和久井仁、浦丈彦、小畑善昭の各氏に師事。D・ヨナス、H・シェレンベルガーの指導を受ける。室内楽を村田四郎、原田綾子、三界秀実、岡本正之の各氏に師事。

1	2
3	4
5	6

1. 奏楽堂舞台を使用し響きを高める管楽合奏の授業
2. 個人レッスンで基礎力を固める
3. 音楽学部定期演奏会での教員と学生の共演
4. アーティスト・イン・レジデンス招聘：ウーヴェ・コミシュケ教授によるオーケストラの実践指導
5. 室内楽授業の成果発表「金管室内楽の夕べ」での複合アンサンブル
6. 管打学基礎でのアレンジ発表。全員の前での演奏し全員で評価する

美術研究科
Graduate School of Fine Arts

博士前期課程 Master's Course
美術専攻 Division of Fine Arts
博士後期課程 Doctoral Course
美術専攻 Division of Fine Arts

音楽研究科
Graduate School of Music

博士前期課程 Master's Course
音楽専攻 Division of Music
博士後期課程 Doctoral Course
音楽専攻 Division of Music

美術研究科

博士前期課程
目的 Purpose

美術研究科博士前期課程は、学部教育を基礎とした美術専門教育の充実を図りながら、芸術の学際的教育研究に対応した柔軟な教育課程を編成・提供することにより、現代の様々な芸術表現や社会の要請に対応した高度な専門的能力を有する人材を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

大学院美術研究科は平成21年４月より博士前期課程、後期課程を設置しました。研究科博士前期課程は一専攻６領域とし拡大する芸術表現研究を可能とする体制としています。博士後期課程はより高度な芸術表現研究を行える環境を整えています。このような環境において目的意識と研究意欲の高い学生を求めています。また、高度な美術表現研究により、将来の美術、芸術界を担うべく人材を求めています。

博士後期課程
目的 Purpose

美術研究科博士後期課程は、高度な専門的能力に理論的分析能力、表現能力を加えることによって、自立して活動し得る芸術家・研究者、及び美術・デザインの高度の専門性が求められる多様な社会的場において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

美術研究科博士後期課程は、美術・デザイン分野の高度な専門能力を有した人材に対し、さらに理論的分析能力、表現能力を与えることにより、自立して活動し得る芸術家・研究者や美術・デザイン分野における多様な社会的場において指導的・中核的役割を担うことができる人材を養成することを目的としています。このため、本課程は、美術・デザインの高度な専門能力を有するほか、美術・デザイン分野の真に自立した研究者及び表現者となるべき豊かな素養と能力を備えた人材を広く学内外（留学生を含む）から受け入れます。

音楽研究科

博士前期課程
目的 Purpose

音楽研究科博士前期課程は、学部教育を基礎とした音楽専門教育の充実を図りながら、芸術の学際的教育研究に対応した柔軟な教育課程を編成・提供することにより、現代の社会の要請に対応するのみでなく、社会の需要を自ら掘り起こす能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

大学院音楽研究科博士前期課程は平成19年度より一専攻7研究領域に改組し、学部、専攻、領域の垣根を超えた柔軟で横断的な教育・研究システムの構築を目指しています。さらに、より高度な研究に対応するために平成21年度には博士後期課程を設置しました。「より深く、より柔軟に」を教育・研究のモットーとする環境のなか、高度な専門性と領域を超えた幅広い知識、旺盛な国際感覚を駆使して自ら社会のニーズを掘り起こす能力を磨き、将来の音楽界を担うべく人材を求めています。

博士後期課程
目的 Purpose

音楽研究科博士後期課程は、高度な専門的能力に理論的分析能力、表現能力を加えることによって、自立して活動し得る研究者や音楽芸術分野における多様な場において中核的・指導的人材となり得る表現者を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

音楽研究科博士後期課程は、音楽芸術の高度な専門能力をもった人材に対し、さらに理論的分析能力、表現能力を与えることにより、自立して活動し得る研究者や音楽芸術分野における多様な場において指導的・中核的人材となり得る表現者を養成することを目的としています。このため、本課程は、音楽芸術の高度な専門能力を有するほか、自立した研究者・表現者となる豊かな素養と能力を備えた人材を受け入れます。

美術研究科
博士前期課程
Graduate School of Fine Arts
Master's Course

■大学院美術研究科■美術専攻

研究概要

研究科1専攻として平成21年度より修士課程が博士前期課程として設置され、美術・デザインの研究領域の拡大や複合領域での研究が進む中、時代のニーズや教育・研究の高度化に合致させるため1専攻とし6研究領域が相互に複合する研究も可能な体制としました。また芸術の学際的研究の対応ができる体制とするだけでなく、従来の研究領域の更なる高度化を図っています。また、複合領域での研究体制の強化と実践、大学に望まれる地域貢献、社会貢献などを目的とするプロジェクトを設定し、学修成果と実践的実務との融合を図っています。

また、領域を越えた2つ以上の研究室が企画立案し実施するプロジェクト研究を行っています。

取得できる学位は修士（美術）です。

複合芸術プロジェクト

芸術多領域：平面、立体、空間、映像、音楽、メディアなど芸術多領域の複合研究を行う。

美術プロジェクト

〈保存修復系プロジェクト（文化財の保存修復の継承）〉

芸大での豊富な蓄積を継承しながら、文化財保存修復を目的に、絵画から彫刻などの保存修復技術の高度化研究および実践を行う。

〈暮しとデザイン系プロジェクト（21世紀の地域・文化創りと発信）〉

21世紀のコンセプトであるサスティナブルな視点からのデザインに求められるものは多様化し、環境からモノ、人材育成まで多岐にわたる。地域貢献や研究の高度化が望まれる中、これらのテーマから研究・開発・実践を行う。

教　員

日本画領域
有賀 祥隆（模写・保存修復、日本美術史）
秦 誠（模写・保存修復）
北田 克己（日本画・模写）
岡田 眞治（日本画）
吉村 佳洋（日本画・模写）
岩永 てるみ（模写・保存修復）
阪野 智啓（模写・保存修復）

油画・版画領域
櫃田 伸也（絵画）
寺内 曜子（立体・空間・インスタレーション）
設楽 知昭（絵画・現代美術）
阿野 義久（絵画表現）
倉地 久（版画・版表現）
額田 宣彦（絵画）
井出 創太郎（版画）
高橋 信行（絵画）
白河 宗利（絵画・技法材料）
大﨑 宣之（版画・現代美術）
岩間 賢（絵画表現・現代美術）
猪狩 雅則（絵画）

彫刻領域
塩田 純一（日本・英国現代美術）
大塚 道男（木彫・石彫）
土屋 公雄（環境芸術）
神田 毎実（複合表現）
竹内 孝和（立体表現）
森北 伸（彫刻表現）
村尾 里奈（空間表現）

芸術学領域
伊藤 由美（油画保存修復・文化財学）
中 敬夫（美学・芸術哲学）
小西 信之（現代アート論）
高梨 光正（西洋美術史・文化財学）
本田 光子（日本美術史・文化財学）

デザイン領域
鈴木 芳雄（クリエイティブディレクション）
白木 彰（視覚伝達デザイン）
中島 聡（プロダクトデザイン・ユニバーサルデザイン）
関口 敦仁（デザイン理論・環境デザイン）
水津 功（環境・ランドスケープデザイン）
今尾 泰三（視覚伝達デザイン・グラフィックアート）
石井 晴雄（メディアデザイン・メディアアート）
柴崎 幸次（メディアデザイン・環境デザイン）
森 真弓（メディアデザイン）
夏目 知道（環境デザイン）
佐藤 直樹（視覚伝達デザイン・タイポグラフィデザイン）
本田 敬（プロダクトデザイン）

陶磁領域
小松 誠（陶磁器デザイン）
太田 公典（陶磁・陶芸研究）
友岡 秀秋（陶磁・陶磁器デザイン）
梅本 孝征（陶磁・陶芸研究）
長井 千春（陶磁・陶磁器デザイン）
田上 知之介（陶磁・陶磁器デザイン）
佐藤 文子（陶磁・陶芸研究）

美術研究科
博士後期課程
Graduate School of Fine Arts
Doctoral Course

■大学院美術研究科■美術専攻

研究概要

博士後期課程は1専攻とし6研究分野で相互に複合する研究も可能な体制となっています。作品制作と論文による博士号取得に重点を置く研究プログラムとし、3年間の研究期間は博士後期課程を担当する教官により組織されている博士後期課程委員会が研究指導を行います。また芸術の学際的研究の対応ができる体制とするだけでなく、更なる高度化を図り、また地域貢献、社会貢献などにも積極的に取り組んでいます。

取得できる学位は博士（美術）です。

指導体制

指導教員1名及び副指導教員1名以上の複数指導体制

教　員

日本画
秦 誠（日本画の創作研究及び模写・保存修復）　**博士研究指導担当**
北田 克己（日本画の創作研究・古典研究・技法材料研究）　**博士研究指導担当**
岡田 眞治（日本画の創作研究）　**博士研究指導担当**

油画・版画
寺内 曜子（現代美術・インスタレーションに関する研究）　**博士研究指導担当**
設楽 知昭（絵画・現代美術に関する研究）　**博士研究指導担当**
阿野 義久（油彩画の創作研究）　**博士研究指導担当**
倉地 久（版画・版表現に関する研究）　**博士研究指導担当**

彫刻
大塚 道男（木彫・石彫の創作研究）　**博士研究指導担当**
土屋 公雄（環境美術・現代美術・空間インスタレーションに関する研究）　**博士研究指導担当**
神田 毎実（立体造形表現・媒体を複合的に用いた表現に関する研究）　**博士研究指導担当**

デザイン
白木 彰（視覚伝達デザインに関する研究）　**博士研究指導担当**
中島 聡（プロダクトデザイン・ユニバーサルデザイン及びデザイン論に関する研究）　**博士研究指導担当**
関口 敦仁（情報デザイン・メディアアート・芸術情報学に関する研究）　**博士研究指導担当**
柴崎 幸次（メディアデザイン・環境デザインに関する研究）　**博士研究指導担当**

陶磁
太田 公典（陶磁創作及び成形技法・紋様・陶磁史に関する研究）　**博士研究指導担当**
長井 千春（陶磁創作及び陶磁器デザイン・陶磁器デザイン史に関する研究）　**博士研究指導担当**

芸術学
中 敬夫（美学・芸術哲学に関する研究）　**博士研究指導担当**
小西 信之（現代アート論に関する研究）
高梨 光正（西洋美術史に関する研究）　**博士研究指導担当**
本田 光子（日本美術史に関する研究）

音楽研究科
博士前期課程
Graduate School of Music
Master's Course

■大学院音楽研究科■音楽専攻

研究概要

専攻・コースの枠を越えた、柔軟で横断的な研究教育システムの構築をめざして平成19年度に実施された音楽研究科の修士課程の改組により、従来の3専攻6コース（作曲〔作曲・音楽学〕、声楽、器楽〔ピアノ・弦楽器・管打楽器〕）の区分が見直されて単一専攻となり、そして平成21年度博士後期課程の設置により、修士課程は博士前期課程となっています。これによって、研究科が学際的な研究に対応できる体制となっただけでなく、個々の学生にとっては、それまで培ってきた専門性をさらに高めるとともに、領域横断的な研究を行うことが可能になりました。

具体的には1専攻7研究領域（作曲・音楽学・声楽・鍵盤楽器・弦楽器・管楽器・打楽器）を擁し、さまざまな領域に属する研究室が美術研究科、さらに教養教育の研究室とも連携した授業を開講しています。そのように領域を越えた2つ以上の研究室が共同で企画立案し、開設する授業は「プロジェクト」と呼ばれ、複合芸術プロジェクト（美術学部と連携して開設されるプロジェクト―オペラ、アートマネジメント）、音楽プロジェクト（室内楽、オーケストラ、ウィンドオーケストラ）が実施されています。音楽に対する社会の潜在的なニーズは大きく、それは地域貢献にも直接つながっているという観点に基づき、音楽研究科博士前期課程では真の意味での音楽芸術のプロとしての能力を磨くことを重視し、自らの才能と技術を生かしてニーズを掘り起こし、作り出すことができるような人材の育成を目指しており、アートマネジメントの講座を新設するなど、学生ひとりひとりの資質や興味を最大限伸ばす教育を「オーダーメード」で行っています。

取得できる学位は修士（音楽）です。

教　員

作曲領域
寺井 尚行（作曲・コンピュータ音楽）／久留 智之（作曲）／
小林 聡（作曲）／山本 裕之（作曲）
〈非常勤講師〉
岩本 渡（キーボード）／岡野 憲右（特殊研究）／
坂田 直樹（特殊研究）／佐近田 展康（特殊研究）／
北爪 道夫（現代の音楽）／野津 如弘（特殊研究）／
ジョン・コール（特殊研究）／林 みどり（特殊研究）

音楽学領域
増山 賢治（音楽学・音楽民族学）／
井上 さつき（音楽学・西洋音楽史）／
安原 雅之（音楽学・西洋音楽史）
〈非常勤講師〉
伊東 信宏（特殊研究）／黄木 千寿子（特別演習）／
大月 淳（アート・マネジメント）／
大西 たまき（アート・マネジメント）／
藤井 たぎる（特殊研究）／水野 みか子（特殊研究）

声楽領域
マルチェッラ・レアーレ（ソプラノ）／
戸山 俊樹（バス）／末吉利行（バリトン）／
中巻 寛子（メゾ・ソプラノ）／森川 栄子（ソプラノ）／
川島 幸子（ソプラノ）／初鹿野 剛（バリトン）
〈非常勤講師〉
大槻 孝志（テノール）／永田 峰雄（テノール）／
日紫喜 恵美（ソプラノ）／三輪 陽子（メゾ・ソプラノ）／
矢澤 定明（オペラ・指揮・重唱）／飯塚 励生（オペラ・演出）／
山本 敦子（オペラ・コレペティトゥール）／
石山 英明（オペラ・コレペティトゥール・重唱）／
寺元 智恵（特殊研究）

鍵盤楽器領域
エフゲニー・ザラフィアンツ（ピアノ）／
松本 総一郎（ピアノ）／熊谷 恵美子（ピアノ）／
北住 淳（ピアノ）／掛谷 勇三（ピアノ）／
鈴木 謙一郎（ピアノ）／内本 久美（ピアノ）／
中尾 純（ピアノ）
〈非常勤講師〉
吉田 恵（オルガン）／安井 直子（チェンバロ）／
朝川 万里（室内楽）

弦楽器領域
福本 泰之（ヴァイオリン）／白石 禮子（ヴァイオリン）／
桐山 建志（ヴァイオリン）／
百武 由紀（ヴィオラ）／花崎 薫（チェロ）
〈非常勤講師〉
日比 浩一（ヴァイオリン）／久保田 巧（ヴァイオリン）／
沼田 園子（ヴァイオリン）／辻井 淳（ヴァイオリン）／
野村 友紀（チェロ）／渡邉 玲雄（コントラバス）／
木村 茉莉（ハープ）／小林 道夫（特殊研究）

管楽器領域
武内 安幸（トランペット）／橋本 岳人（フルート）／
原田 綾子（クラリネット）／倉田 寛（トロンボーン）
〈非常勤講師〉
寺本 義明（フルート）／浦 丈彦（オーボエ）／
和久井 仁（オーボエ）／青谷 良明（バスーン）

打楽器領域
深町 浩司（打楽器）
〈非常勤講師〉
小森 邦彦（マリンバ）

教養教育等
二瓶 浩明（特殊研究）／
水野 留規（特殊研究・原典研究・イタリア語）／
井上 彩（原典研究・英語）／
大塚 直（原典研究・ドイツ語）／
数森 寛子（原典研究・フランス語）／
<非常勤講師>
ロムアルド・バローネ（特殊研究）

オーケストラ
飯守 泰次郎（オーケストラ）／
松尾 葉子（オーケストラ・指揮法）
〈非常勤講師〉
石坂 宏（オーケストラ・指揮法）

音楽研究科
博士後期課程
Graduate School of Music
Doctoral Course

■大学院音楽研究科■音楽専攻

研究概要

充実した施設設備を備えた独立した博士棟において、各専門の研究を一層深化・高度化するとともに、創作・演奏研究と理論研究を高度に総合化し、領域横断的な研究にも対応する教育システムを編成、提供しています。音楽研究科博士後期課程の修了者には、大学等高等教育研究機関の教員・研究者、文化事業団体等の文化機関における中核的役割を担う人材やプロフェッショナルな演奏家等として、国内外で活躍が期待されます。

取得できる学位は博士（音楽）です。

指導体制

各学生の研究テーマの中心となる内容の分野を専門とする指導教員1名と副指導教員1名以上により研究指導にあたります。

副指導教員の1名は、音楽理論研究を主専攻とする学生に対しては音楽創作・表現研究系の教員があたり、音楽創作・表現研究を主専攻とする学生に対しては、音楽理論系の教員があたります。

教　員

作曲
久留 智之（芸術音楽作品の創作についての実践的な指導）　**博士研究指導担当**
寺井 尚行（電子音響、コンピュータ及び映像等のテクノロジーとライブ・パフォーマンスを融合した先端的複合表現についての研究指導）
小林 聡（芸術音楽作品の分析・創作ならびにオーケストレーションに関する研究の指導）　**博士研究指導担当**

音楽学
増山 賢治（音楽学一般ならびに音楽民族学を中心とする研究の指導）　**博士研究指導担当**
井上 さつき（音楽学一般ならびに西洋音楽史を中心とする研究の指導）　**博士研究指導担当**
安原 雅之（音楽学一般ならびに西洋音楽史を中心とする研究の指導）

声楽
戸山 俊樹（声楽一般ならびにドイツロマン派歌曲演奏指導）　**博士研究指導担当**
末吉 利行（声楽一般ならびにドイツロマン派歌曲および日本歌曲演奏指導）　**博士研究指導担当**
中巻 寛子（声楽一般ならびにバロックから近代までの作品の解釈と演奏に関する研究指導）

鍵盤楽器
松本 総一郎（ピアノ奏法一般ならびにドイツ古典派、ロマン派、近・現代のピアノ作品の解釈・奏法の研究指導）　**博士研究指導担当**
熊谷 恵美子（ピアノ奏法一般ならびにヨーロッパ音楽における古典派、ロマン派、近・現代のピアノ作品の解釈・奏法の研究指導）　**博士研究指導担当**
北住 淳（ピアノ奏法一般ならびに鍵盤楽器を含む室内楽作品についての研究指導）

弦楽器
福本 泰之（ヴァイオリン奏法一般ならびにバロックから近・現代作品の解釈・奏法の研究指導）　**博士研究指導担当**
白石 禮子（ヴァイオリン奏法一般ならびにバロックから近・現代作品の楽曲分析・奏法・演奏表現の研究指導）
百武 由紀（弦楽器奏法一般ならびに古典派、ロマン派、近・現代作品の解釈・奏法の研究指導）　**博士研究指導担当**

管楽器
武内 安幸（トランペット奏法一般ならびにバロックから現代の作品の演奏についての実践的な指導）　**博士研究指導担当**

各種情報
Various Information

教養教育 Liberal Arts
教職課程・博物館学課程 Teacher Training Curriculum, Museology Curriculum
センター・事業 Center
入試情報 Admission Information
入試状況・資料請求 Admission Result, Request for Information
学生生活 Student Life

教養教育
Liberal Arts

教育概要

教養教育では、生涯にわたって自らを高める努力を怠らず、卒業後は社会人としての責務を自覚できるような優れた人材を育てることを目指しています。学生の芸術表現活動が深い教養に裏打ちされたものとなり、また芸術家である以前に人間としての成長をも促すような授業科目を提供しています。

本学の教養教育が目指す人物像は、以下のとおりです。

・高等教育を受けたものにふさわしい幅広い見識を備え、広く社会から尊敬を得られる人物
・新たな知識を求めて学び続ける姿勢と健全な懐疑心を兼ね備えた人物
・インターナショナルな芸術活動を可能にする専門的な語学力を持った人物
・身につけた知識・技能・精神を次世代へと伝えることができる人物

教養は、単に獲得された知識ではありません。規範意識と倫理性・感性と美意識・主体的に行動してゆく力、またそれらのバランス感覚や体力・精神力をも含めた総合的なものの見方・考え方・価値観の総体であるといえます。教養の陶冶は、生涯を通じて行われるべきものであり、こうした態度と品格を学生時代に身につけることは、芸術家としての人格形成においても重要な意味を持っています。そのために、本学の教養教育では、人文・社会・自然科学・情報・保健体育・外国語などの各分野にわたって、多数の科目を開設しています。授業の内容においても、それぞれの科目の学問領域の専門性を保ちつつ、芸術系学生にとって興味深い題材・役に立つトピックを積極的に取り上げるようにしています。また、学生が4年間いつでも学びたい時に学べるように、本学のカリキュラムに合わせて、教養教育の授業は全学年に対して開かれています。変化の速い複雑化した現代社会では、単なる知識だけではすぐに時代にそぐわなくなってしまいます。それゆえ、本学の教養教育の授業では、単なる知識の伝達ではなく、学生が生涯にわたって学び続け、新しい知識の習得に努め、創造的に自らに統合してゆける高度な力を育成するように心がけています。

教　員

二瓶 浩明	NIHEI, Hiroaki	教　授	日本文学・日本文化史・日本演劇論
松野 修	MATSUNO, Osamu	教　授	教育原理・教育方法・道徳教育指導論
水野 留規	MIZUNO, Ruki	教　授	イタリア語・外国文化史・西洋の古典文芸
三宮 敦生	SANNOMIYA, Atsuo	教　授	心理学・教育心理学・教育実習
清道 正嗣	SEIDO, Masatsugu	教　授	コンピューター基礎・基礎化学
石垣 享	ISHIGAKI, Toru	教　授	基本体育・健康科学
井上 彩	INOUE, Aya	准教授	英語・言語学
大塚 直	OTSUKA, Sunao	准教授	ドイツ語・西洋演劇論・芸術と諸科学
数森 寛子	KAZUMORI, Hiroko	准教授	フランス語・外国文学

教養教育科目

哲学A・B／美学A・B／日本文化史A・B／外国文化史／日本文学／日本の古典文芸／外国文学A・B／西洋の古典文芸／言語学A・B／仏教学A・B／キリスト教学A・B／美術論A・B／音楽論A・B／日本演劇論／日本の近現代演劇／西洋演劇論／日本史A・B／西洋史A・B／法学A・B／日本国憲法／経済学A・B／心理学A・B／教育学A・B／人類学A・B／国際関係論A・B／社会学A・B／数学A・B／基礎生物学A・B／自然科学史A・B／基礎物理学A・B／基礎化学A・B／コンピューター基礎Ⅰa-Ⅲb／芸術と諸科学／自由研究ゼミナールⅠ・Ⅱ／英語初級IA-IIB／英語中級IA-IIB／英語上級IA-IIB／ドイツ語初級IA-IIB／ドイツ語中級IA-IIB／ドイツ語上級IA-IIB／フランス語初級IA-IIB／フランス語中級IA-IIB／フランス語上級IA-IIB／イタリア語初級IA-IIB／イタリア語中級IA-IIB／イタリア語上級IA-IIB／基本体育A・B／身体運動演習IA-IIB／スポーツ・健康科学A・B

基礎教育科目

日本美術史概説A・B／西洋美術史概説A・B／美術材料学A・B／現代アート概説A・B／デザイン史A・B／日本音楽史概説／西洋音楽史概説A・B／音楽学概説

1	2
3	4
5	6

愛知芸大では「芸術大学にふさわしい教養教育」を展開している。

1. 体育の石垣享教授が担当される大学院「教養特殊研究」の授業風景。筋電図からピアニストの手の動きを探る。
2. 日本文学の二瓶浩明教授が作詞を手がけた「親と子の絆メッセージソング」のＣＤジャケット。
3. 教職課程担当の松野修教授が担当された「親子孫科学講座ワークショップ」より。本学美術学部学生の卒業制作と連携して1600年代の化学実験の様子を再現。
4. 同じく松野教授の教育学の授業では〈カメラ・オブスキュラ〉を再現。
5. イタリア語の水野留規教授が担当する「自由研究ゼミナール」では、文芸作品を舞台用にアレンジし、公開セミナーにて披露する。平成26年度は「インフェルノの夕べ」と題してダンテの世界を演劇・演奏・映像・イラストによって様々に表現し、広く県民に紹介した。
6. 海外協定校のサレルノ大学にて。短期集中イタリア語講習の後で、担当講師と受講生たちが教室で記念撮影。

教職課程
Teacher Training Curriculum

学校の教員になるためには、教育職員免許状が必要です。この免許状を取得するために開設されているのが教職課程です。本学では、すべての学部・専攻（コース）において、中学校または高等学校の免許状を取得するための教職課程が開設されています。ただし、学部や研究科ごとに取得できる教育職員免許状の種類は異なります。

授業科目

教職入門／教育原理／教育心理学／美術科教育法A・B・C ／工芸科教育法／音楽科教育法A・B・C ／道徳教育指導論／教育課程論／特別活動論／教育方法／生徒・進路指導論／教育相談／教育実習Ⅰ-Ⅲ／教職実践演習（中・高）

免許状

美術学部	高等学校教諭一種免許状（美術・工芸）
	中学校教諭一種免許状（美術）
音楽学部	高等学校教諭一種免許状（音楽）
	中学校教諭一種免許状（音楽）
美術研究科	高等学校教諭専修免許状（美術 ※1・工芸 ※2）
	中学校教諭専修免許状（美術 ※1）
音楽研究科	高等学校教諭専修免許状（音楽）
	中学校教諭専修免許状（音楽）

※1　陶磁領域を除く　　※2　デザイン、陶磁領域に限る

博物館学課程
Museology Curriculum

全国には数多くの博物館や美術館があります。これらの施設ではさまざまな人が働いていますが、特に、資料や作品の収集、保存、展示、研究などの専門的な仕事を行う人を学芸員といいます。本学では、すべての学部・専攻（コース）において、学芸員資格を取得するための博物館学課程が開設されています。

授業科目

生涯学習概論／博物館概論／博物館経営論／博物館資料論／博物館資料保存論／博物館展示論／博物館情報・メディア論／博物館教育論／博物館実習／考古学

資　格

学芸員資格
※実際に学芸員となるには、それぞれの博物館や美術館に学芸員として採用されなければなりません。

センター・事業
Center

芸術教育・学生支援センター

2007年（平成19年）4月の大学法人化を契機に設置されたこのセンターは、大学全体の教育に関する企画・立案機能や教育改革推進機能を有し、学生の学習、大学生活、就職活動におけるきめ細かい学生支援機能を集約した組織です。具体的には、授業内容・方法等を改善し向上させるための組織的な取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を行ったり、入学試験業務、成績管理・授業計画等教務に関わること、教育職員免許や学芸員等の資格取得に関すること、奨学金に関すること、学生の健康管理その他福利厚生に関すること、学生の団体活動や賞罰に関すること、学生相談に関すること、就職・進学などの進路指導等、学生に対するサービスの向上と充実を図るための活動を行なっています。

芸術創造センター

芸術創造センターは、大学と社会をよりスムーズに結ぶことを目的として開設された窓口です。芸術文化で地域に貢献するために地域社会と共に取り組む「連携事業」や海外の大学や研究施設との交流を進める「国際交流」などを行なっています。これまでも、本学の授業を体験できる「愛知芸大芸術講座」や、国内外で活躍するアーティストを招聘し、滞在期間中に特別授業や講演、ワークショップ、レッスン等を集中的に行う「アーティスト・イン・レジデンス」を企画・開催してきました。今後も、社会と連携し芸術文化の発展に貢献していくために様々な活動を展開していきます。

芸術情報センター

芸術情報センターは、芸術に関する図書や資料、電子情報等の収集・管理や企画調整を行い、教育研究活動に資することを目的として、2010年（平成22年）に設置されました。活動の中心となる図書館には、芸術に関する貴重書籍・美術書・音楽書・楽譜・視聴覚資料等を所蔵しており、こうした情報を活用するための検索システムが整備されています。さらに、芸術に関する種々の専門的なデータベースを利用して学術論文や雑誌記事を検索することもできます。教育研究活動に関する情報をネットワークと一体化して取り扱うことで、芸術資源の有効活用と利用者へのサービス向上を図るための活動を行なっています。

文化財保存修復研究所

平成26年度より研究センター「文化財保存修復研究所」日本画部門が立ち上がりました。本研究所は絵画文化財の修復および模写と、それに関わる人材の育成を行っています。専門の技術者・研究者の指導のもとで、中部地方の文化財修理の拠点となることを目指しています。

・技術指導：脇屋 助作ほか

文化財の修理

模写（聖徳太子絵伝）

模写（応徳涅槃図）

アーティスト・イン・レジデンス

教育や演奏・制作活動での連携を目的に、国内外のアーティストを本学に迎えています。ワークショップや創作等のほかに成果を発表する場が設けられており、芸術家と日常的な活動の場を共有することでより緊密に交流することができます。

愛知芸大芸術講座

2012（平成24）年度からサテライト講座と美術学部公開講座を一体化して、「愛知芸大芸術講座」としてリニューアルしました。会場は愛知芸術文化センターに限らず、学内を含めサテライトギャラリーや県内の文化施設にも展開し、受講者と一体となって学ぶ「参加型」講座の充実を図っています。

芸術祭

毎年11月上旬の3日間、すべて学生手作りの芸術祭を開催しています。学生の作品展示や演奏会・オペラ公演、講演会、クラブや有志参加による屋外ステージ、各専攻の伝統ある模擬店など、ユニークな催しが行われます。

入試情報
Admission Information

1 一般入試

趣旨・内容

本学の理念と目的に適う人材の育成には、それぞれの専門分野にふさわしい資質に裏付けられた実技能力と学力とを欠かすことはできませんが、とりわけ実技能力は必須の要件です。そこで本学における一般入試の選抜方式は、実技試験と学力試験および調査書等により総合的に判断し、選抜を行っています。

対象

［美術学部］
全専攻
［音楽学部］
全専攻

2 自己推薦特別入試

趣旨

彫刻分野、デザイン分野が多様化する中、様々な可能性のある学生を従来の一般入試による選抜だけでなく、自己推薦特別入試という方法によって優秀で意欲的な人材の発掘を目的に実施しています。

内容

大学入試センター試験を免除し、調査書、自己推薦書及び自己アピール資料等による第1次選考後、面接や小論文等による第2次選考を行います。

対象

［美術学部］
彫刻専攻
デザイン専攻

3 社会人特別入試

趣旨

社会人経験を経た上で、デザインの芸術・学問諸分野に対して、強い意欲を持って学びたいと望む一般市民を対象に、大学の門戸を開き、芸術の生涯教育に資するべく社会人特別入試を実施します。社会での経験を生かした幅広い視野から、創作や研究に励み、自己の能力を磨き、再び社会の諸分野で活躍することを期待するものです。

内容

大学入試センター試験を免除し、自己推薦資料等の内容、小論文、実技及び面接等により総合的に判定します。

対象

［美術学部］
デザイン専攻

4 推薦特別入試

趣旨

本学で学ぶことを志望する意志が強く、優秀で意欲的な人材の発掘を目的に、推薦特別入試を実施しています。

内容

大学入試センター試験を免除し、出身学校長の推薦書、調査書、音楽活動記録書等による第1次選考後、実技試験及び音楽に関する基礎的能力試験等による第2次選考を行います。

対象

［音楽学部］
作曲専攻（作曲コース、音楽学コース）
声楽専攻
器楽専攻（弦楽器コース、管打楽器コース）

入試状況
Admission Result

［学部］　平成27年度入試（2015年４月入学））

学部	学科	専攻	試験区分	募集人員A	志願者数B	受験者数	合格者数	入学者数	倍率B/A
美術	美術	日本画	一般	10	124	108	12	12	12.4
		油画	一般	25	227	205	27	27	9.1
		彫刻	一般	8	57	43	10	8	7.1
			自己推薦	2	9	9	2	2	4.5
		芸術学	一般	5	25	23	7	5	5.0
	デザイン・工芸	デザイン	一般	25	345	276	31	26	13.8
			社会人	若干名	0	0	0	0	—
			自己推薦	10	50	50	9	9	5.0
		陶磁	一般	10	41	32	10	10	4.1
美術学部合計				95	878	746	108	99	—

学部	学科	専攻（コース）	試験区分	募集人員A	志願者数B	受験者数	合格者数	入学者数	倍率B/A
音楽	音楽	作曲（作曲）	一般	8	9	8	6	6	1.1
			推薦特別	若干名	3	3	0	0	—
		作曲（音楽学）	一般	2	6	6	2	2	3.0
			推薦特別	若干名	2	2	0	0	—
		声楽	一般	30	47	42	27	26	1.6
			推薦特別	若干名	14	14	4	4	—
		器楽（ピアノ）	一般	25	66	64	25	25	2.6
		器楽（弦楽器）	一般	15	30	25	16	14	2.0
			推薦特別	若干名	6	6	2	2	—
		器楽（管打楽器）	一般	20	69	65	20	20	3.5
			推薦特別	若干名	20	20	2	2	—
音楽学部合計				100	272	255	104	101	—

学部合計	195	1150	1001	212	202	—

［研究科］平成27年度入試（2015年４月入学）

研究科	専攻・課程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
美術	美術・博士前期	40	68	60	44	44
	美術・博士後期	5	4	4	2	2
美術研究科合計		45	72	64	46	46

研究科	専攻・課程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
音楽	音楽・博士前期	30	68	68	30	30
	音楽・博士後期	3	1	1	1	1
音楽研究科合計		33	69	69	31	31

研究科合計	78	141	133	77	77

※美術学部の社会人特別入試募集人員（若干名）及び音楽学部の推薦特別入試募集人員（若干名）は、一般入試の募集人員に含まれます。
※平成28年度入試より、美術学部彫刻専攻の自己推薦特別入試の募集人員を若干名とします。

資料請求
Request for Information

テレメールを利用して募集要項等の資料が請求できます。
パソコン、携帯電話またはスマートフォンから http://telemail.jp にアクセスしてください。
自動音声応答電話　050-8601-0101（IP電話、24時間受付）からも請求することができます。
なお、資料請求には送料が発生します。予めご了承ください。

携帯電話アクセス用
バーコード

学生生活
Student Life

学費

初年度納入金

［美術学部・音楽学部］

入学料	282,000円	
授業料	535,800円	前期分は4月、後期分は10月に納入します。
保険料	4,660円	学生教育研究災害傷害保険料等（4年間分）
会費	30,000円	後援会と同窓会の入会費および終身会費
合計	852,460円	

［美術学部のみ］

専攻ごとの費用は次のとおりです。

	日本画	油画	彫刻	芸術学	デザイン	陶磁
教材費等	200,000円	31,000円	300,000円	—	ラップトップパソコン、デジタルカメラなど実費	70,000円
古美術研究旅行費	120,000円	70,000円	100,000円	100,000円	25,000円	250,000円
合計	320,000円	101,000円	400,000円	100,000円	150,000円～200,000円程度	320,000円

奨学金

・日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構が、優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に学資を貸与しています。申込みは大学を通じて行い、募集は原則として毎年春に行います。

・大学独自の奨学金

個人からの寄付金により創設した基金等をもとに、学業優秀な者に対して奨学金や海外渡航費を給付しています。

・その他の奨学金

財団法人の奨学金などを学務課が随時情報提供しています。

就職支援

学生の就職活動に対する支援を行っています。管理棟2階の学務課に就職支援の窓口がありますので、気軽にご利用ください。

・就職ガイダンス、セミナー等

業界研究やエントリーシート対策、面接対策講座等の就職ガイダンスの他、卒業生による講演会等を行っています。

・就職コーナー

求人票や会社パンフレット、応募用紙、就職関連情報誌などの資料を閲覧できるコーナーを設置しています。

・就職相談

専任の職員が企業選びや履歴書の書き方、面接での応対等、就職活動に関する相談を受付けています。

学生寮

キャンパスの一角に2010年度に新設した学生寮（女性用）です。プライバシーと機能性を重視した家具付きの個室（132室）をはじめ、防音完備のピアノ室（10室）やアトリエ（1室）、無線LANが配備された多目的ホールを併設しているほか、防犯カメラ、赤外線センサーなどのセキュリティ設備を完備するなど、学生が安心して快適に過ごせるよう配慮しています。

大学会館／食堂

学生の自主的な活動を支援する施設です。2階は展覧会などの催し会場として利用されています。また、1階には生活協同組合が入居し、学生食堂や売店等を運営しています。

Aichi University of the Arts

About the University
Founding Philosophy

Organization Chart

History
List of Successive Presidents
Degrees
Acquirable Certificates

Center
Art Education and Student Support Center
Center for Promoting Fine Arts and Music
Art Information Center

Institution
University Art Museum
Museum of Horyuji Mural Reproductions
Concert Hall
Library
Student Dormitory (for Female Students)
University Co-op

Degree Programs
Overview
General Admission Policy

Faculty of Art
Admission Policy
Diploma Policy
-Japanese Painting, Department of Fine Arts
-Oil Painting, Department of Fine Arts
-Sculpture, Department of Fine Arts
-Art History, Art Theory, and Concervation, Department of Fine Arts
-Design, Department of Design and Craft
-Ceramics, Department of Design and Craft

Faculty of Music
Admission Policy
Diploma Policy
-Composition (Composition), Department of Music
-Composition (Musicology), Department of Music
-Voice, Department of Music
-Instrumental Music (Piano), Department of Music
-Instrumental Music (Strings), Department of Music
-Instrumental Music (Winds and Percussion), Department of Music

Graduate School of Fine Arts
Master's Course in Fine Arts
-Program Description
-Admission Policy
-Diploma Policy
Doctoral Course in Fine Arts
-Program Description
-Admission Policy
-Diploma Policy

Graduate School of Music
Master's Course in Music
-Program Description
-Admission Policy
-Diploma Policy
Doctoral Course in Music
-Program Description
-Admission Policy
-Diploma Policy

About the University

Founding Philosophy

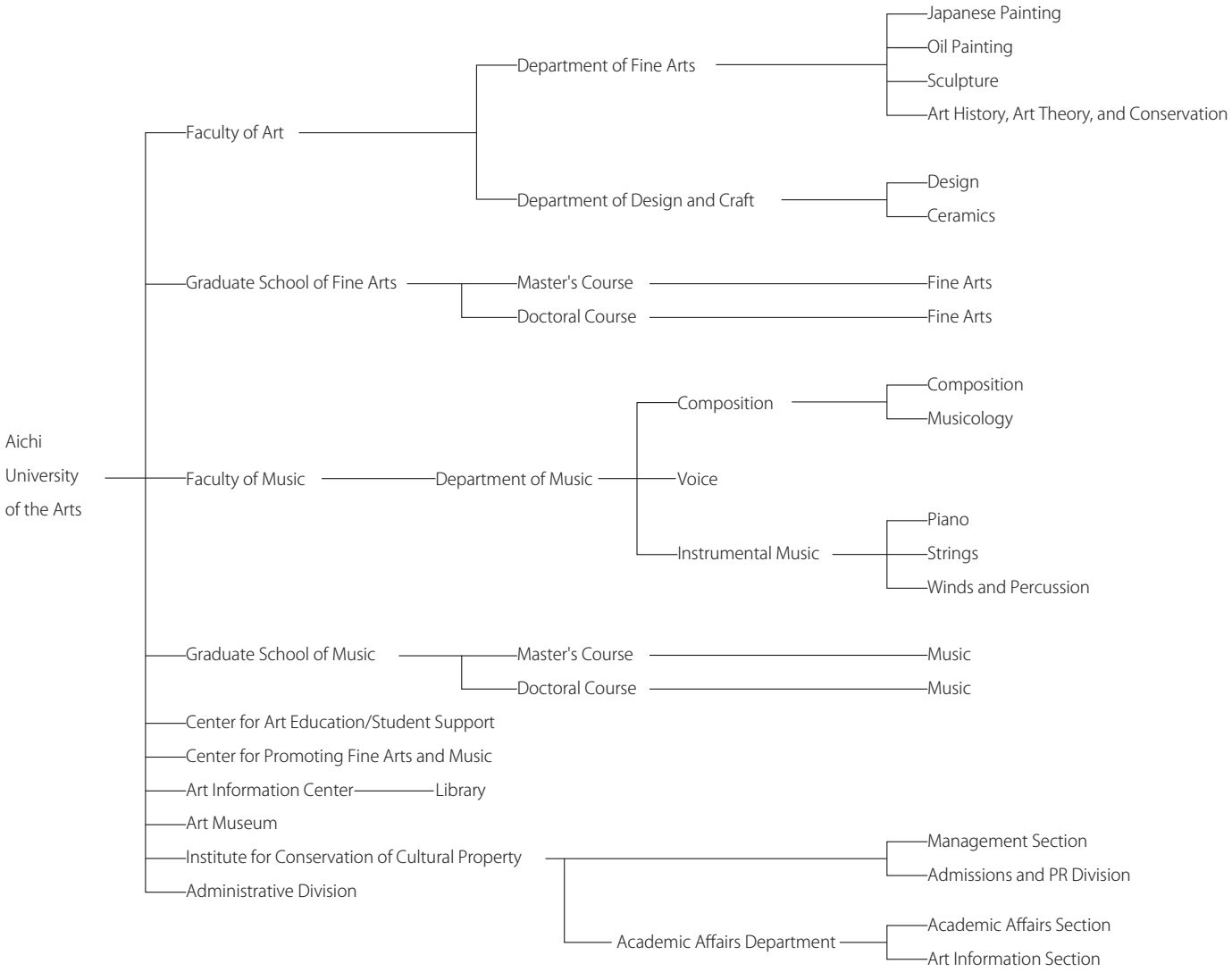
Aichi University of the Arts was founded on April 1, 1966 for the purpose of creating distinctive cultural sphere in the middle part of Japan, the Chubu Region. This foundation was responding to the Region's industrial economic growth centering in Aichi Prefecture.

Additionally, the university's graduate school for a master's degree was established four years later,on April 1, 1970 to contribute to the enrichment of culture and society through advanced in-depth research for artistic theory and application. On April 1,2009, the graduate school began to offer a doctoral program.

The mission of the university since its founding is"to cultivate creativity, based on studies of art and applied art, that could contribute to the development of culture."

While educational circumstances, particularly in higher education, and social needs for universities have undergone drastic changes, the art education and research conducted by universities have been increasingly shaped by integration and diversification. The university, based on its 40 years' experience, will continue to serve as an advanced and unique educational institution responding appropriately to the needs of the times and society while fostering still more creative individuals leading the 21st century.

Organization Chart



History

April 1, 1966	Aichi University of the Arts is founded.
	The Painting, Sculpture, and Design programs are established in the Department of Fine Arts at Faculty of Art.
	The Composition, Voice, and Instrumental Music (Piano, Strings) programs are established in the Department of Music at Faculty of Music.
	Naoteru Ueno assumes office as the first president.
April 1, 1970	The Graduate School of Fine Arts, consisting of the Painting, Sculpture, and Design programs, is established.
	The Graduate School of Music, consisting of the Composition, Voice, and Instrumental Music (Piano, Strings) programs, is established.
June 4, 1972	Shinichiro Kozuka assumes office as the second president.
September 6, 1977	Masaaki Oshita becomes acting president upon the death of Shinichiro Kozuka.
December 1, 1977	Masuto Toyooka assumes office as the third president.
December 1, 1983	Takashi Kono assumes office as the fourth president.
October 15, 1985	Student exchange agreement between Aichi University of the Arts and Nanjing University of the Arts is signed.
April 1, 1989	The Faculty of Art is expanded to include the Department of Design and Craft. The Design program is transferred from the Department of Fine Arts to the Department of Design and Craft. The Ceramics program is established in the Department of Design and Craft.
	The Painting program in the Department of Fine Arts, Faculty of Art is reorganized into the Japanese Painting and Oil Painting programs.
	The Instrumental Music (Winds and Percussion) program is introduced in the Department of Music, Faculty of Music.
September 12, 1989	Museum of Horyuji Mural Reproductions opens.
December 1, 1989	Yoshikado Tatehata assumes office as the fifth president.
April 1, 1993	In the Graduate School of Fine Arts, the Painting program is subdivided into the Japanese Painting and Oil Painting programs, and the Ceramics program is introduced.
April 1, 1994	The Composition (Musicology) program is established in the Department of Music at Faculty of Music.
	The Composition (Musicology) and Instrumental Music (Winds and Percussion) programs are established in the Graduate School of Music.
December 1, 1995	Makoto Kawakami assumes office as the sixth president.
April 1, 2001	The Art History, Art Theory, and Conservation program is established in the Department of Fine Arts, Faculty of Art.
	Shozo Shimada assumes office as the seventh president.
April 1, 2007	The right to administer Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music is transferred from Aichi prefecture to the Aichi Public University Corporation.
	The five programs of the Graduate School of Fine Arts are combined into the Fine Arts program. The three programs of the Graduate School of Music are combined into the Music program.
	Teruo Isomi assumes office as the eighth president.
April 1, 2009	Doctoral programs are established in the Fine Arts program at Graduate School of Fine Arts and the Music program at Graduate School of Music.
April 1, 2013	Koji Matsumura assumes office as the nineth president.

List of Successive Presidents

First President	Naoteru Ueno	April 1, 1966 to June 3, 1972
Second President	Shinichiro Kozuka	June 4, 1972 to September 5, 1977
Third President	Masuto Toyooka	December 1, 1977 to November 30, 1983
Fourth President	Takashi Kono	December 1, 1983 to November 30, 1989
Fifth President	Yoshikado Tatehata	December 1, 1989 to November 30, 1995
Sixth President	Makoto Kawakami	December 1, 1995 to March 31, 2001
Seventh President	Shozo Shimada	April 1, 2001 to March 31, 2007
Eighth President	Teruo Isomi	April 1, 2007 to March 31, 2013
Nineth President	Koji Matsumura	April 1, 2013 to present

Degrees

Degrees	Undergraduates: Bachelor	(Arts)
	Graduates in master's degree programs: Master	(Fine Arts/Music)
	Graduates in doctoral programs: Ph.D	(Fine Arts/Music)

Acquirable Certificates

Teaching certificates	Faculty of Art	First-class Teaching Certificate, High School	(Art, Crafts)
		First-class Teaching Certificate, Junior High School	(Art)
	Faculty of Music	First-class Teaching Certificate, High School	(Music)
		First-class Teaching Certificate, Junior High School	(Music)
	Graduate School of Fine Arts	Special Teaching Certificate, High School	(Art, Crafts)
		Special Teaching Certificate, Junior High School	(Art)
	Graduate School of Music	Special Teaching Certificate, High School	(Music)
		Special Teaching Certificate, Junior High School	(Music)
Curator's certificate			

Center

Center for Art Education/ Student Support

Established in April 2007, when the right to administer Aichi University of the Arts was transferred from Aichi prefecture to the Aichi Public University Corporation, the Art Education and Student Support Center is an organization to make the university's entire educational plan and to promote its educational reform. It also offers an array of services,resources, and programs to support student life such as academic advising and career counseling.

Specifically, the center manages the followings: educational contents and teaching methods (FD:Faculty Development), entrance examinations, grading,syllabus plan, certificates including teaching certificates and curator's certificates, scholarships, student health and welfare, student organizations, and rules and policies of student behavior. It also offers personal counseling, academic advising, and career counseling.

The center is an open institution devoted to help and enrich student life.

Center for Promoting Fine Arts and Music

The importance of a university is not only to provide fruitful education, research, and creation, but just as importantly, always to be open to and strive to benefit the public. Aichi University of the Arts has great achievements and potentials created by its over forty years' history. Rather than keeping them within the university, they are expected to be available to the public, and be resources to produce something new through the cooperation between the public and the university.

In response to these expectations, the Center for Promoting Fine Arts and Music was established to promote the relations between the community and the university. The center coordinates various programs such as "Partnership" and "International Exchange".

In the former program, the center creates partnership with the local community for its artistic and cultural enrichment. The latter program promotes exchanges with foreign universities and research institutes.

The center has borne a variety of achievements. For example, the Center has offered "Aichi University of the Arts Satellite Lecture" since 2007 academic year. In this program, people of various ages and occupations take intensive lectures away from those given by conventional culture centers,and have irreplaceable the university's experience. Also, within the campus, the "Artists in Residence" program has invited many leading artists from both Japan and abroad. They have given students an international education through their distinctive and intensive lectures, workshops, and lessons. The Center for Promoting Fine Arts and Music will commit to engage in a variety of creative activities to make the university open and vibrant.

International Exchange Program

The university strives to give students an international education in their artistic disciplines. It has concluded academic exchange agreements with overseas universities, and coordinated the" Artists in Residence" program. Through these activities, international artists and researchers have visited the university and held exhibitions, recitals, workshops, and lectures.

The university will promote exchange agreements with foreign universities to further develop student exchanges. It encourages students to be active internationally.

Community Involvement/Partnership

Based on the belief that universities need to be open to society, Aichi University of the Arts is involved in the community to share the university's research and educational resources with the community. In addition, the University has been creating partnership with organizations that are willing to undertake new initiatives by strengthen their characteristics and potentials. These organizations include universities, museums, theaters, halls, local governments, and business enterprises. Students as well as faculty members actively take part in these activities. The university will continue to engage in activities that vitalize it and the local community at the same time.

Art Information Center

The Art Information Center is established to contribute to educational and research activities at Aichi University of the Arts in April 2010. As a network to offer art information, the center collects, manages, and coordinates various types of information media such as books, electronic data, and any other materials.

The Center has a library with a collection of art books including valuable works, music books, musical scores, and audio-visual materials. The library is equipped with a search system to enable effective use of these information resources. Through various specialized databases on art, users can search articles and periodicals of their needs.

For the efficient use of art information, the operation of a reliable network system is essential.

The center is committed to organize various databases, such as digital information about the university' s researches and library resources, and coordinate them into the network system. It serves to provide art information in accordance with user's needs.

Institution

University Art Museum

The University Art Museum is an educational research institute which collects, stores, and displays art-related resources. Its rich collection ranges from Japanese paintings, oil paintings, wood prints, sculptures, design works, ceramics, musical instruments, to musical resources. The Museum exhibits its collection through the year. Also, there are various exhibitions such as the students exhibition and the faculty members exhibition. Recently, the Museum has exhibited works by the international visiting artists under the university's" Artists in Residence" program. In February 2007, the University Art Museum was designated as a museum-equivalent facility under the Museum Act.

Museum of Horyuji Mural Reproductions

The Museum of Horyuji Mural Reproductions exhibits exact reproductions of the twelve large and twenty small murals of Horyuji Temple in Nara, painted in the late seventh to the early eighth century and burned in 1949. It took sixteen years in total for the university's faculty and graduates to reproduce the murals with conditions in which they are not burned yet. The reproductions are open to the public every spring and fall for the promotion of education, research, and local culture. In addition, as a special exhibition, the museum shows reproductions of Japanese historical masterworks: Takamatsuzuka Tumulus Mural; a painting of Sakyamuni Rising from the Golden Coffin;four portraits at Jingoji, which are traditionally identified with Minamoto Yoritomo, Taira No Shigemori, Fujiwara Mitsuyoshi, and Mongaku; Kusha Mandara at Todaiji;Portrait of Shaka Nyorai at Jingoji; and Eleven-Headed Kannon at Nara National Museum. In February 2007,the Museum of Horyuji Mural Reproductions was designated as a museum-equivalent facility under the Museum Act.

Concert Hall

The Concert Hall was built for musical education,entrance and graduation ceremonies, and any other events. Especially, the Hall presents the following recitals to develop outstanding musicians.

- On-campus concerts
- Recitals of compositions
- Special lectures
- Master's recitals
- Chamber music concerts
- Orchestral concerts

The Hall has a seating capacity of 850, and includes an orchestra pit, a recording room, a projection room, and a Kleis pipe organ (from Germany).

Library

As a facility to assist academic endeavors of students and faculty, the library contains Japanese and foreign art books, music books, musical scores, records, CDs, DVDs, and general educational books and magazines. All these materials can be searched everywhere through the internet and by the computers in library to make the best use of them. Since musical scores, records, CDs, and DVDs can be searched by title, composer's name, and other keywords, users will find media of their choice. The articles and journals which are not found by the university's library databases will be searched by specialized databases on music and art.

Student Dormitory (for Female Students)

In 2010, the" Sagamine" Student Dormitory (for female students) is established on campus. It has 132 single rooms, 10 practice rooms, and art studios. It is intended for students to devote themselves to studies and learn manners to work well with others through an ordered community life.

University Co-op

Financed by the university's students and faculty, the University Co-op was founded for the cultural and economic improvement of the university life. It operates cafeterias and shops on campus for the benefit of its members. All the students of the University are encouraged to join the co-op. Also, students can participate in the management of the co-op, and enrich their university experiences.

Degree Programs

Overview

The University consists of two undergraduate faculties: Faculty of Art and Faculty of Music, and two graduate schools: Graduate School of Fine Arts and Graduate School of Music.

The Faculty of Art houses two departments: Department of Fine Arts, and Department of Design and Crafts. The former comprises four programs: Japanese Painting; Oil Painting, Sculpture; and Art History, Theory, and Conservation. The latter comprises two programs: Design and Ceramics. The Faculty of Music has one department, Department of Music, which consists of three programs: Composition, Voice, and Instrumental Music.

The Graduate School of Fine Arts comprises the Fine Arts program. The Graduate School of Music is composed of the Music program. Both of the graduate schools have offered doctoral programs since April 2009.

General Admission Policy

In order to become a unique and fascinating university, and a cultural base open to the world, Aichi University of the Arts upholds the following three principles.

- Striving to develop outstanding individuals who engages in art and culture, such as artists, researchers, and educators, through the consistent education from undergraduate to graduate programs.
- Dedicated to be an international center for creating art and culture by offering advanced education in art with a broad perspective.
- Committed to the development of local culture and art in various spheres such as education, industry, and daily life in cooperation with the local community by effectively utilizing the university's resources.

  For the purpose of cultivating individuals who answer these principles, the university seeks students who: Have the makings in their areas of study.
- Have a strong will and sensibility to create and study art, and basic practical skills.
- Are eager to lead the world of art, music, and education.
- Have a broad perspective and diverse values, and study actively and voluntarily.

Faculty of Art

Department of Fine Arts
- Japanese Painting
- Oil Painting
- Sculpture
- Art History, Art Theory, and Conservation

Department of Design and Craft
- Design
- Ceramics

Admission Policy

The Faculty of Art consists of two departments: Department of Fine Arts, and Department of Design and Craft. Both departments seek students with enthusiasm and motivation for art. Artistic expression has to be achieved not only by individuality but also by solid technique and appreciation of theory. The faculty welcomes those who strive to associate themselves with and contribute to the local and international communities with their self-expression. Artistic expression that moves people deeply is the fruit of hard study accumulated day by day..

Diploma Policy

The Faculty of Art at Aichi University of the Arts emphasizes to produce individuals who could contribute to the art and culture of the local and international communities through comprehensive activities in such creative fields as fine arts, design, and art education.

To achieve this goal, the faculty establishes a close rapport between faculty and students through providing them with small-group guidance from the foundation courses. Also, the faculty respects and encourages individual expression techniques and artistic attitudes as a basic policy. In specialized and advanced studies, the faculty further values the personal vision and aesthetics of respective students. As a summary of learning and exploring experiences in the faculty, senior students are required to submit a graduation work or thesis. This work or thesis is evaluated for graduation. This evaluation will help students to realize their possible investigations in the future in terms of sensitivity, knowledge, and skills.

A bachelor's degree is conferred to students who have learned the content of study described above, earned credits required for graduation, and demonstrated ability and accomplishment in their graduation work or thesis, and so on.

Japanese Painting

Program Description

The expression by Japanese painting has a long and continuous tradition accumulated over a thousand years. In the program, students study this tradition to build the basics throughout their four years. In addition, they will be required to expand the tradition to advance their careers as working artists.

In the first and second years, students are encouraged to acquire the basic skills for Japanese painting. They study materials such as glue, pigment, paper, and brushes through assignments to draw and paint animals, plants, landscapes, and other subjects. They also study traditional color, line representation, and technique used in Japanese painting through studying classical Japanese clothes and reproducing classic works.

Building on the skills acquired in the first two years, junior students begin more advanced study. Subjects for this year require more individual vision and independent research. There will be classical-art-research-travels that students visit manufactories for pigment, paper and ink to deepen their understanding of materials.

Also, they visit Buddhist temples and other sites where they can study the traditional expression of Japanese paintings such as those seen in paintings on room partitions.

The fourth year concentrates on preparing for and producing a graduation work (which is displayed in a graduation exhibition) as a summary of undergraduate studies. Making a large-scale painting will give students an opportunity to pursue more professional expression in Japanese painting and to think of their next inquiries.

Oil Painting

Program Description

At the present time when art is highly and increasingly diversified, it is a difficult task for young creators to find their own way of expression. They will need to deepen and broaden their thought and vision to acquire the expression. In the Oil Painting program, painting could be regarded as the starting point to explore new creative expression. To emphasize this versatile aspect, the program mainly consists of elective courses.

In the first and second years, students will have an interdisciplinary learning experience. They study different views and values of all faculty members of the program through lectures and basic practical training on techniques and materials for oil painting and printmaking.

One-on-one lessons are given in the third year, and ensures students can pursue their own interests of study. They will choose a tutor from diverse faculty members every five to six weeks, and seek and develop their own ways of expression. At the end of the third year, a faculty panel reviews each student's work displayed in an exhibition style.

In the fourth year, students receive periodical reviews in preparation for their graduation work, and the graduation work exhibition is held as the overall summary of their studies. In addition, throughout the four years, the program provides lectures by adjunct instructors and opportunities to show large-scale works.

As described above, aiming to produce unique artists and specialists, the Oil Painting program values the expression of respective students, and is designed to foster their self-reliance and spirit of inquiry.

Sculpture

Program Description

The program concentrates on three-dimensional expression that reflects present diverse society, and aims to foster artists, researchers, and educators of the future.

In the first and second years, students mainly learn basic skills and theories of sculpture by practice under thoroughly individual guidance. The juniors and seniors study specialized techniques and applications of the basic theories while receiving individual instruction in advanced courses. Additionally, through the lectures given by acclaimed artists and critics in Japan and the world, students will explore creativity leading to new expression and nourish multidimensional understanding of the complex relations between creativity and society.

Art History, Art Theory,and Conservation

Program Description

As a program for theoretical studies in the Department of Fine Arts, this program serves to offer research and education in art history and theory (Japanese and Western art history, contemporary art, and aesthetics), and conservation theory in cooperation with studio art programs. The program provides students with the foundations to be art historians, museum curators, art critics, art journalists, and specialists in art conservation.

In the first two years, students learn basic art history and theory (Japanese and Western art history, contemporary art, aesthetics, and conservation theory), and basic studio art skills (drawing, painting, sculpture, photography, and so on). Learning foreign languages is also important in the years along with reading books on a wide diversity of subjects. In the Comprehensive Seminar in Art, students receive research guidance from all teachers of the program, and have to present their research on their theme. Also, extensive courses in the program, such as Asian Art History, Cultural Property Conservation, History of Modern Sculpture, Art Management Theory, Topics in Image and Symbol, Contemporary Art, Contemporary Culture, ensure that students can expand the field of their study according to their interests.

In the third year, students will be taught mostly in a small seminar for specialized studies. Subjects include original text reading and cultural property conservation research. In the Japanese Art History Travel course, sophomores and juniors visit old temples and museums in Nara and Kyoto to appreciate Japanese classic art. Also, the Project Study course for juniors encourages them to establish their academic attitude and methodology for the preparation of their graduation thesis, through research on thematic literature and off-campus survey.

In the fourth year, students must decide their specialized area of research and complete their graduation thes is under the instruction of their faculty sponsors.

Design

Program Description

Design brings creative abundance to our daily lives. It provides beauty and comfort for things, places, spaces, and information in response to the times and social needs.

This program covers four areas of design: visual communication design, product design, environment design, and media design. The curriculum includes the study of design methodology and theory. It revolves around building design concepts that could correspond to people's diverse life styles and advanced technologies, and acquiring practical skills to realize the concepts. Aimed at cultivating comprehensive abilities, the program is intended to teach the basic concepts and practical skills of design. In addition, lectures by experts in various areas and field trips to their workspaces will allow students to further their professional knowledge and skills.

In recent years, the importance of design has grown with the movement from industrial-based to information- and recycling-based societies. In response to the movement, the program attempts to investigate, from an aesthetic viewpoint, methods and techniques in various fields of design that could contribute to the creation of a new culture.

Ceramics

Program Description

Among industrial arts and designs, ceramics is the one familiar to Japanese in their daily lives.

The university's Ceramics program enjoys the benefit of its location ideal for the creation of ceramics. The nearby cities, Seto, Tokoname, and Mino, have long traditions of ceramics carried by various excellent techniques. Taking advantage of this favorable location and outstanding facilities of the university, the program inquires the ways ceramics are in harmony with daily life, and fosters individuals who will actively contribute to the inquiry. With" you no bi" (functional beauty) as an education philosophy, the program pursues the potential of ceramic materials and freedom of expression in works for not only daily or architectural use but also any other applications. The program provides students with the basics of ceramics, refines their individual abilities, and strives to foster leaders in the next generation.

Faculty of Music

Department of Music
Composition
-Composition
-Musicology
Voice
Instrumental Music
-Piano
-Strings
-Winds and Percussion

Admission Policy
The Faculty of Music seeks students who have sensibility, distinctive personality, balance between theory and technical skills, and motivation to express themselves by music. Students also should have lofty spirit, definite sense of purpose, and strength of character as they can pursue a broad range of artistic activities with not only local but also international viewpoints. The refined sensitivity, wellorganized expertise, and refined skills of performers will be essential elements to move an audience.

Diploma Policy
In the Faculty of Music at Aichi University of the Arts, the programs are structured for students to learn a method to analyze, interpret, and compose music, and develop solid performing techniques and individual sensibilities. From the first year, lessons are mostly private to strengthen fundamental skills.

For students in junior and senior years, the programs organize a variety of practical curriculums so that they can improve their applied skills for a broader musical development. In the senior year, achievements of students in creation, research, or performance, are evaluated through their graduation work, thesis, or performance. The faculty is committed to foster rich humanity, definite sense of purpose, strength of character, and solid technique in its students. They are expected to be active and inquisitive about music with an international perspective.

A bachelor's degree is conferred to students who have learned the content of study described above; earned credits required for graduation; and demonstrated ability and accomplishment in their graduation work, performance, or thesis; and so on.

Composition Composition

Program Description
Composers are creators of musical works who use "sound" as their tools, but at the same time they are coordinators who connect many different areas of music. In most cases, their works are delivered to an audience by performers through the medium of musical score (music paper).

This means that, even within the world of music alone, composers always need to collaborate with various performers. Also, since" sound" can be directly converted into digital media by using computers without necessity for a musical score, the number of collaborations between music and fine arts, dance, and various digital images has increased recently.

Considering such musical circumstances, the Composition program cultivates the fundamental knowledge and skills through Western music methodology which includes harmony, counterpoint, analysis, instrumentation, and orchestration. Building on the foundations, further studies include subjects such as analysis of contemporary music, method to collaborate with other fields of art, approach to Japanese and other ethnic music, and investigation of the relationship between modern societyand art.

The program offers ample opportunities to perform musical pieces composed by students within and outside the university. The accumulation of such experiences will benefit them more than anything else for their future career as composers. Before and after performing their original pieces, students will receive comprehensive guidance through private lessons and seminars, and acquire the know-how to work as composers.

Composition Musicology

Program Description
The Musicology program covers various theoretical studies of music including history, aesthetics, ethnomusicology, sociology, psychology, anthropology, iconography, and management.

This program was established at both the undergraduate and masters levels in 1994, in order to foster individuals who conduct scholarly research on music and participate in activities related to the research. In 2009, the doctoral program in Musicology is established. Since then, the Musicology program has been able to accept outstanding students at the undergraduate, masters, and doctoral levels.

While this program focuses on specialized subjects in musicology (Musicology Research in the undergraduate program, Comprehensive Music Research in the master's degree program, and Doctoral Research in the doctoral program), proficiency in foreign languages such as English, German and French is also emphasized. Students in the Musicology program can take courses in musicianship and theory, and carry out research closely related to musical practice. Also, for their practical disciplines, there are opportunities to learn at specialized lectures and practical workshops, and to write for a comment on the program of concerts performed by students at the School of Music.

The Musicology program offers intense instruction in small group seminars. In the first and second years, students study basic musicology. In the third year, they start working on their graduation thesis which has to be completed in the fourth year. Graduates of this program show a wide diversity of careers: employment at a company and a music-related organization, working as a junior or high school teacher, entering graduate school in Japan or abroad, and so on.

Voice

Program Description

Over many years, the Voice program has produced a great number of professional singers who are active both in Japan and abroad. Today, faculty with rich experiences in this program, including visiting foreign professors who are internationally acclaimed artists, strive to cultivate professional singers of the next generation. Each year the program sends promising new graduates out into the world. In the Voice program, from the first year, students will receive an intensive instruction in private lessons, that enables them to nurture individual sensibilities and to acquire solid performance skills. Along with these lessons, junior students will study the Basics of Opera and Opera Part Singing courses as requirements. Based on these, senior students have to take the Opera Studies course in which they further develop solid skills essential for professional singers. Students at the program are also required to take foreign language courses in which they study comprehensive grammar and reading. In the course Language of Musical Art, they will learn pronunciation and interpretation of lyrics with native speakers according to their needs.

Instrumental Music Piano

Program Description

Ever since the Pianoforte came into being in the mid-18th century, it has continuously supported the historical development of Western music. A vast number of pieces have been composed for the piano with a rich variety of flavors and styles.

To prepare students as professional pianists, the Instrumental Music (Piano) program offers an intensive education through individual private lessons. During four years, students are expected to comprehend the distinctive musical style of each period, from Baroque to contemporary. In solo piano courses which are considered as a core of the curriculum, students are required to take an examination of their performance abilities, and on occasions that is taken place as a recital. Students will accumulate their musical experiences and improve their applied skills through a variety of courses such as vocal and instrumental accompaniments, duet, chamber music, and other music ensembles. Also, there are frequent performance opportunities both on and off campus.

The Instrumental Music (Piano) faculty are dedicated to excellence in instruction by making use of their expertise so that they can respond to the willingness, potential, and inquiry of students. The support of the faculty provide students with musicianship that will carry over into their professional careers. To foster the musical imagination of each student through attainment of the highest level of musical proficiency, the program invites internationally renowned artists who teach undergraduate and graduate students. Also, there are special lectures in every academic year to broaden musical disciplines of students.

Instrumental Music Strings

Program Description

The Instrumental Music (Strings) program gives students to acquire a high level of technical proficiency in their instruments. It also provides instruction for students to comprehend the distinctive musical style of each period, from Baroque to contemporary. All the faculty members engage in professional musical activities, and at the same time they are devoted teachers.

The Strings program is characterized by its emphasis on ensemble education. In addition to solo repertoire, students are encouraged to study and practice chamber music, string ensembles, and orchestral pieces. That enables them to familiarize themselves with a wide ensemble repertoire and to experience the depth of chamber music. Initially, lessons in chamber music classes focus on string quartets. After learning the fundamentals of ensemble performance through string quartets, students will participate in a large string ensemble. This experience is a prerequisite for later orchestral classes. Many students hope to join professional orchestras in the future. There are many graduates who are already in professional orchestras, including major orchestras in all parts of Japan; not only that, an increasing number of recent graduates have joined Western orchestras.

Throughout history, music has been one of the most powerful means of communication. It moves and enlightens us and enriches our lives. It is our sincere desire that each student continues to grow through their uncompromising quest for excellence in both performing and teaching.

Instrumental Music Winds and Percussion

Program Description

From the moment that people discovered they could produce sound by blowing into plant stalks or beating pieces of wood together, human wisdom and longing for "beauty" and "color" in sound have given birth to what are classed as wind and percussion instruments today. In Japan, the development of music for the wind and percussion instrument over the past half-century has been unprecedentedly remarkable.

The goal of the Winds and Percussion program is to cultivate performers and instructors of the future who have a solid technique, a wide range of knowledge, and above all, a love for music. To achieve this goal, we have devised a practical curriculum. In the University's unique course Winds and Percussion Fundamentals, students acquire the basic knowledge needed by wind and percussion performers. In this course, they study the characteristics of each instrument. For better understanding of other instruments, small ensemble groups are formed to allow students to arrange and perform any choice of music as they wish. In addition, they are expected to study and familiarize themselves with orchestral repertoire.

Using this foundation as a basis, student's abilities are further refined in courses such as Winds and Percussion Ensemble, Orchestra, and Chamber Music. Internationally acclaimed performers and researchers are also invited for special lectures.

Graduate School of Fine Arts

Master's Course in Fine Arts

Program Description

With the progression of researches in fine arts, design, and multiple media, independent specialized programs at the Graduate School of Fine Arts (Japanese Painting; Oil Painting and Woodcut Printing; Sculpture; Design; Ceramics; and Art History,Theory and Conservation) were combined into the single Fine Arts program in 2007. This is not only to establish a system suited to the needs of the times; when education and research are sophisticated, and interdisciplinary studies are developed; but also to enhance each conventional specialization. Also, in order to apply the university's researches to practical endeavors, the Graduate School has established projects to reinforce interdisciplinary studies, and those to serve the development of local community and society.

Composite Arts Project

Composite researches comprised of several areas of studies such as two-dimensional and threedimensional works, installations, digital images, music, and interrelated media.

Fine Arts Project

Conservation and Restoration Project (Succession of Cultural Property Conservation and Restoration Techniques)

For the purpose of preserving cultural properties, improving and using the conservation and restoration techniques, and succeeding them to the next generation.

Living and Design Project

(Promoting Culture of the Local Communities)

From the perspective of sustainable development, one of the concepts representing the 21st century, demands for design has been diversified from the enrichment of product and environment to the cultivation of individuals. The Graduate School researches, creates, and applies knowledge and technique to answer this trend, while considering growing needs for community involvement and advanced research.

Admission Policy

The Graduate School of Fine Arts has a single master's degree program, the Fine Art Program, consisting of six different areas of study. This single program enables interdisciplinary and multimedia studies for students.

The doctoral program established in 2009 prepares for further advanced and comprehensive researches.

Within the scope of the program, the Graduate School seeks students who strive for excellence in art and have promise to lead the world of art.

Diploma Policy

The Fine Art Program, consisting of six different areas of study, at the Graduate School of Fine Arts strives for excellence in artistry and professionalism. For degree conferment, students' practical skills and depth of theoretical exploration are evaluated. They will have a variety of instruction not only from a faculty advisor in their primary area of study but also all other faculty members at the the Graduate School of Fine Arts. The master's degree is conferred to students who have met credit requirements, and demonstrated ability and accomplishment in their graduation work or thesis, and so on.

Doctoral Course in Fine Arts

Program Description

The Graduate School of Fine Arts has a single doctoral degree program, the Fine Art program that enables interdisciplinary and multimedia researches in five areas of study. The program revolves around creating works and writing theses to receive a doctorate. During the three-year program, students will be instructed for their studies by the Doctoral Program Committee, an organization consisting of faculty members in charge of the program. The Graduate School of Fine Arts will make continuous effort to strengthen its system to cope with advanced and interdisciplinary researches and actively contribute to the local community and society.

Admission Policy

The aim of the Fine Arts program for a doctorate at the Graduate School of Fine Arts is to develop artists and researchers who can advance their careers independently and become effective social leaders in the field of art and design. To this end, this program is designed to help students with advanced capabilities further develop their rational analytical abilities and improve their powers of expression. The program welcomes applicants who are sufficiently talented and grounded in art or design from within and outside the University (including international students).

Diploma Policy

The Fine Arts program for a doctoral degree aims to pursue the highest levels of artistry and expertise in the respective research areas. From the first year, students are required to take thesis guidance and do theoretically supported researches as well as to improve their practical skills. For degree conferment, their achievements on these requirements are evaluated.

They will receive a variety of instruction not only from the faculty of the Doctoral Program Committee but also other faculty members at the the Graduate School of Fine Arts. The doctoral degree is conferred to students who have met credit requirements, demonstrated ability and accomplishment in their graduation work and/or thesis, and so on.

Graduate School of Music

Master's Course in Music

Program Description

The Graduate School of Music reorganized its master's degree programs in 2007. The former classification of specialties, that is three programs consisting of six different areas of study: Composition (Composition, Musicology), Voice, and Instrumental Music (Piano, Strings, Winds and Percussion), were incorporated into one unified Music program. This single program aims to establish the flexible system for interdisciplinary study and education beyond the boundaries of specialization while it offers opportunities for solid specialized researches. As a result, students can pursue their interests with more flexibility.

Specifically, the master's degree program at the Graduate School of Music covers seven areas of study: Composition, Musicology, Voice, Keyboard Instruments, Strings, Winds, and Percussion. Each of the areas are establishing classes in cooperation with other areas, even with the liberal arts classes and the Graduate School of Fine Arts. Such classes planned and established by more than two different areas of study are called "Project". Projects currently in operation are Composite Arts Project (Opera Project and Art Management Project, implemented in cooperation with the Faculty of Art) and Music Project (Chamber Music Project, Orchestra Project, and Wind Orchestra Project).

There are considerable latent social needs for music. In other words, they are ample opportunities to make a contribution to communities by music. The master's degree program at the Graduate School of Music intends to develop individuals who can discover and at the same time, create social needs for music through their musicianship while refining their abilities as genuine professionals. The program provides necessary support for this purpose. As it has established the Art Management course recently, its flexible education effectively cultivate talents and interests of individual students.

Admission Policy

The Graduate School of Music reorganized its master's degree programs in 2007 into one unified Music program consisting of seven areas of study in order to establish the flexible system for interdisciplinary study and education beyond the boundaries of specialties, programs, and faculties. In addition, for further advanced and comprehensive researches, the doctoral program was established in 2009. With "more deeply and more flexibly" as its academic philosophy, the Graduate School seeks students who actively improve their abilities to discover social needs for music through their expertise and their broad, interdisciplinary knowledge with an international perspective, and have promise to contribute to the world of music.

Diploma Policy

The master's degree program in Music at the Graduate School of Music emphasizes the development of expertise, broad and interdisciplinary knowledge, and an international way of thinking. Also, its education and research prepare students to work as truly professional artists in contemporary society. Students are expected to accurately realize the essence of social needs for music, and acquire the methods to stimulate and advance the needs through their musicianship. The Graduate School highly evaluates students who efficiently meet their objectives by taking courses essential for them in the flexible and diverse curriculum, and also those who make efforts to show their achievements to the local and global communities as well as on campus. The master's degree is conferred to students who have learned the content of study described above, met credit requirements, and
demonstrated ability and accomplishment in their graduation performance and/or thesis, and so on.

Doctoral Course in Music

Program Description

In the well-equipped building dedicated to the Doctoral Program in Music, it offers an education to advance expertise; to integrate creativity, performance, and theory into a comprehensive whole; and to conduct interdisciplinary studies. The graduates of the program are expected to work both in Japan and abroad as educators or researchers at universities or any other institutions, leaders of cultural associations and facilities, as well as professional musicians.

Admission Policy

The goal of the Doctoral Program in Music at the Graduate School of Music is to foster researchers who can independently advance their careers and performing artists who can play a leading role in various fields of music. To this end, this program is designed to help students with advanced capabilities in music further develop their rational analytical abilities and their powers of expression. The program accepts applicants who are sufficiently talented and grounded in music and displays promise to achieve its goal.

Diploma Policy

The emphasis in this doctoral degree program is on the development of high expertise, broad and interdisciplinary theoretical knowledge, and international vision with full command of written Japanese and foreign language skills. Also, its education and research prepare students to work as contemporary professional artists in various musical fields including performance, composition, research, education, and so on. In this program, the faculty evaluate students' abilities to show their achievements to the local and global communities through performances or presentations of their own works at doctoral recitals during the three Graduate School years, and/or articles published in music journals inside and outside the university. The doctoral degree is conferred to students who have learned the research content described above, met credit requirements, successfully passed the examination of doctoral dissertation, and so on.

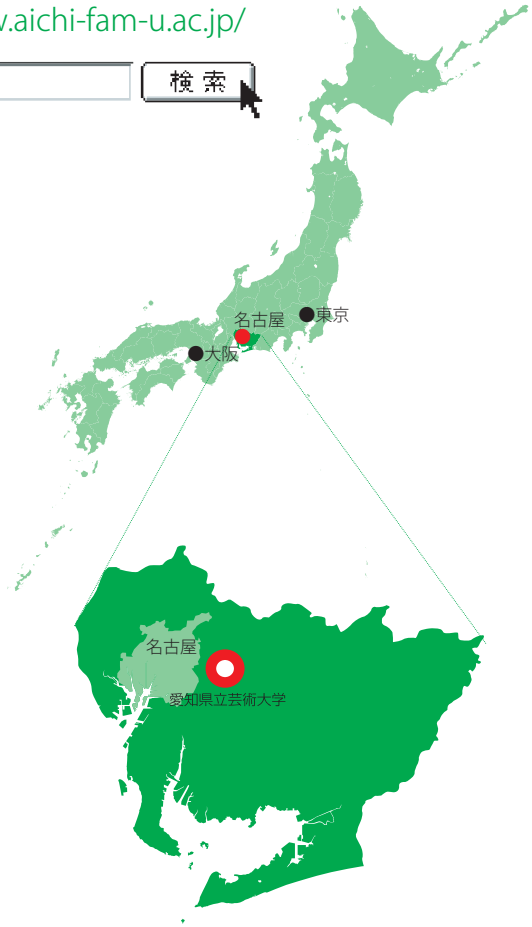
愛知県立芸術大学

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ケ峯1-114

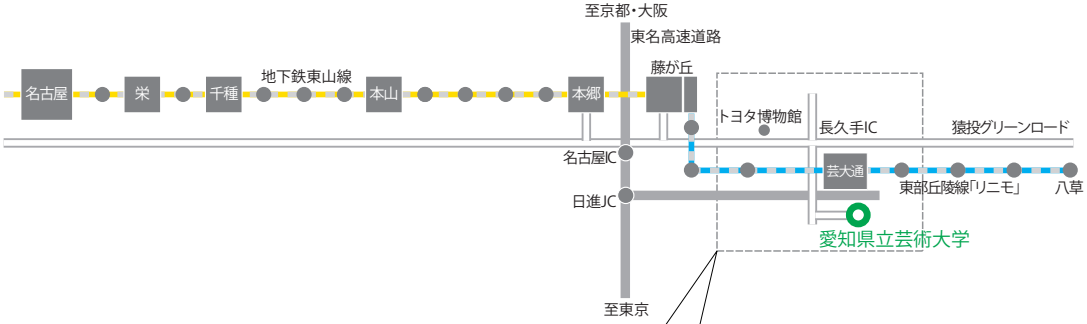
Aichi University of the Arts
1-114 Sagamine, Yazako, Nagakute-shi, Aichi, 480-1194, Japan

http://www.aichi-fam-u.ac.jp/

愛知芸大　検索



アクセス
Access



●名古屋方面から
市営地下鉄東山線終点「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）に乗り換え「芸大通」駅下車　徒歩約10分
若しくは市営地下鉄東山線「本郷」駅又は「藤が丘」駅からタクシーで約15分

●豊田・瀬戸方面から
愛知環状鉄道「八草」駅下車、東部丘陵線（リニモ）に乗り換え「芸大通」駅下車　徒歩約10分

From Nagoya
Take the Nagoya City Subway Higashiyama Line for Fujigaoka Station, and detrain at Fujigaoka Station. Transfer to the Aichi Rapid Transit "Linimo" Line, and detrain at Geidai-dori Station (about 10 min. on foot from the station).
Or, take the Nagoya City Subway Higashiyama Line for Fujigaoka Station, and detrain at Hongo or Fujigaoka Station (about 15 min. by taxi from either station).

From Toyota or Seto
Take the Aichi Loop Line to Yakusa Station, transfer to the Aichi Rapid Transit" Linimo" Line, and detrain at Geidai-dori Station (about 10 min. on foot from the station).

愛知県立芸術大学 大学案内

平成27年5月1日 発行
発行　愛知県立芸術大学
監修　愛知県立芸術大学広報委員会
デザイン　ゲラーデ舎
扉写真　南部 辰雄

愛知県立芸術大学